1節 放送番組の編成

国内放送番組編集の基本計画

「平成26年度（2014年度）国内放送番組編集の基本計画」は，放送総局内で議論を重ねたうえ，編成局で原案を作成した。この原案を理事会で決定し，12月，中央番組審議会に諮問，答申を得たうえ経営委員会で決定した。

以下はその原文である。年表示は西暦にし，記号などは本書の方式に合わせた。

Ⅰ．編集の基本方針

2014度は「豊かで安心，たしかな未来へ」を掲げた3か年の経営計画の最終年となります。NHKは，正確・迅速で公平・公正な報道や見ごたえのある番組を視聴者に届け，NHKでしか見られない，人々の心を豊かにする魅力にあふれた放送の実現を目指します。

いま日本は，経済の再生や財政の立て直し，少子高齢化への対応，そして複雑化する国際関係など，多くの課題を抱えています。一方で，2020年（平成32年）のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決定するなど，日本国内に明るさも見えています。

14年度国内放送番組の編集にあたっては，日本が抱える課題を乗り越え，豊かで安心して暮らせる社会を実現するために，正確・迅速な報道で国民の生命と財産を守るという公共放送としての使命達成に引き続き全力で取り組みます。そして，「深い取材に基づくニュースや番組」「心に残る番組」「世代を越えて楽しめる番組」など，報道から娯楽まで多彩な編成で，幅広い視聴者の支持と共感が得られる豊かな放送を実現します。

15年3月には東日本大震災発災から4年となります。被災地の復興を支援し，課題を掘り下げる番組に引き続き取り組んでいきます。全国の放送局は，地域に密着した情報を伝え，地域の再生や活性化に貢献する番組を制作します。

さらに，世界に通用する質の高い番組を制作し，世界に情報を発信，NHKの存在感を高めていきます。夏には，サッカーワールドカップ ブラジル大会が開催されます。多彩な番組で熱戦の模様を伝え，日本中に感動を届けます。

インターネットの拡大などメディア環境が大きく変化する中，14年度末，NHKは放送開始90周年を迎えます。NHKに対する長年の信頼を大切にしながらハイブリッドキャストやスーパーハイビジョンをはじめとする次世代の放送サービスに取り組みます。人にやさしい放送・サービスも拡充し，新しい時代の公共放送を創り上げていきます。

Ⅱ．編集の重点事項

1．国民の生命と財産を守る正確で迅速な報道

自然災害の脅威と常に向き合う日本において，国民の生命・財産を守るという公共放送NHKの重要な使命を果たすため，正確で迅速な報道に万全を期し，防災・減災につながる情報の提供にいっそう力を入れます。

想定される首都直下地震や，南海トラフ巨大地震などの大規模災害に対応するため，本部のバックアップ機能の整備を進めるとともに，機動的な緊急報道・制作体制を充実します。

2．日本や世界の課題にグローバルな視点で取り組む報道

日本経済の再生や財政の立て直し，少子高齢社会，世界各地で頻発する紛争，地球規模の自然災害など，日本や世界が取り組むべき課題や危機の深層にグローバルな視点で迫り，多角的に読み解いていきます。

正確・迅速で公平・公正な報道に加えて，掘り下げた報道，深い解説，そして，今まで知ることができなかった事実をビッグデータの解析によって発見するデータジャーナリズムなど，NHKにしかできない報道の強化を図っていきます。

3．NHKが持つ7つの波を生かし，多彩な番組を編成

NHKが持つ地上放送2波，衛星放送2波，音声放送3波を生かし，多彩な番組を編成します。総合テレビジョンでは，“生活に欠かせないチャンネル”として日本そして世界の課題を伝えるニュースや番組を充実するとともに，創造的な文化，教養，娯楽番組などをバランスよく編成します。教育テレビジョンでは，青少年・子ども番組や教養番組を充実・強化するなど，教育放送に求められる役割を着実に果たします。BS1は，スポーツ

中継・情報番組を充実し，世界の複雑な動きをひもとき，深く知る国際・経済番組を強化します。BSプレミアムは，知的エンターテインメント番組を充実させ，視聴者層を拡大します。音声放送は，“安心ラジオ”としての機能強化を図るとともに，ネットラジオの普及を踏まえ，幅広い世代の期待に応えます。

15年３月，NHKが放送を開始して90周年の節目を迎えます。90年の歴史を踏まえ，放送の未来を見据えた番組を編成します。

４．東日本大震災からの復興を支援し，課題を掘り下げる番組

東日本大震災からの復興が着実に進みつつある一方で，被災地の人口流出や原子力発電所事故後の様々な課題など，復興を阻む大きな壁も立ちはだかっています。被災地の人たちの心を癒やし，励ます番組を制作するとともに，復興に向け課題を深く掘り下げる番組，復興を成し遂げようとする人々の姿を伝える番組を制作し，活力ある東北の未来につなげます。

災害の映像や復興の記録のアーカイブス化にも引き続き取り組みます。

５．世界に通用する質の高い番組

世界に通用する質の高い番組を制作することで，海外で放送されるNHKコンテンツを増やし，NHKのブランド力の向上を目指します。深海や宇宙といった前人未到の世界を高感度カメラで映像化する番組や，人間の細胞や進化など，生命の神秘にハイクオリティーCGを駆使して迫る科学ドキュメンタリー番組，伝統的な日本の文化を発信していく番組など，海外放送機関と連携し，高度な制作力・技術力を生かしたインパクトのある大型番組を計画的に制作することで，国内外でNHKの存在感を一段と高めていきます。

６．デジタル時代の新たなサービスの展開

「スーパーハイビジョン」（超高精細映像システム）については，16年からの試験放送の開始を目標として，制作ノウハウの蓄積を図ります。放送と通信の連携を目指しスタートした「ハイブリッドキャスト」は，サービスを拡大し，「情報」「教育」「スポーツ」「エンターテインメント」などの分野で番組の開発を行います。「NHKオンデマンド」（有料動画サービス）は，いっそう認知度を高め，利用者を拡大します。

７．地域の再生，地域活性化への貢献

全国の放送局は，地域の再生や活性化に貢献するため，雇用，観光，教育，医療，福祉，農業などの領域で，地域社会が抱える課題と向き合います。それぞれの地域の特性や視聴者の関心に応じ，地域に密着した番組や連動したイベントを展開します。また，地域の豊かな自然，温かい人々のつながりや暮らしを描いた地域発ドラマを引き続き制作していきます。さらに，地域の情報を掘り起こし，地域の放送局が全国に向けて発信する番組を強化します。

８．サッカーワールドカップ ブラジル大会放送の実施と2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み

2014 FIFA ワールドカップ ブラジル（14年６月12日～７月13日）にあたっては，各放送波の特長を生かし，インターネットやデータ放送などのサービスとも連携しながら，視聴者の高い関心に応えます。スーパーハイビジョンでは，パブリック・ビューイングを実施します。

2020年（平成32年）に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピックに向けては，将来を期待される若手選手を発掘する番組や，変貌する東京の姿を通して見えてくる日本の課題に迫る番組など，長期的な視点で追いかけていきます。

９．“人にやさしい”放送・サービスの拡充

字幕放送・解説放送・手話など“人にやさしい”放送・サービスの充実に努めます。字幕放送と解説放送は，長期計画に基づき拡充します。特に，ニュースなどの生字幕放送については，地域放送も含め積極的に取り組みます。

以上の重点項目の実施にあたっては，以下のような施策も勘案しながら，創造的で活力に満ちた取材・制作体制を構築します。

○「国内放送番組編集の基本計画」が放送サービスとして実現されているか，多角的な評価指標を用いた評価・管理を行います。
○限られた経営資源を効果的・効率的に活用し，ニュースや番組を充実させます。
○放送倫理やコンプライアンス意識の徹底，人材の育成に力を入れ，確かな情報と質の高い番組の提供に努めます。

Ⅲ．各波の編集方針

１．総合テレビジョン

“生活に欠かせないチャンネル”として，正確な情報を伝え，日本そして世界の課題を考えるニュースや番組を継続・強化します。また，創造的な文化，教養，娯楽番組など，心豊かに暮らせる番組をバランスよく編成しながら，他の波とも戦略的に連携を行い，NHK全体の魅力をいっそう高めます。

（編集のポイント）

１．現代を深く掘り下げ，見ごたえのある番組を展開
２．世界や日本の今を読み解くニュース・情報番組を強化
３．定時番組を充実するとともに，家族や地域の絆を見つめ直し，世代を越えて楽しみ心に残る番組を育てる
４．“これさえあれば”と各世代に必要とされる多彩な番組を制作
５．地域が主役となり，全国の視聴者が満足できる番組を編成

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養番組20％以上，教育番組10％以上，報道番組20％以上，娯楽番組20％以上を編成します。

２．教育テレビジョン（Eテレ）

青少年･子どもの健全な育成に資する番組，人々の知的関心に応える番組，文化・芸術の継承・発展に資する番組，福祉番組などを編成し，教育放送に求められる役割を着実に果たします。

（編集のポイント）

１．「教育」「福祉」「いじめ」「防災」などのテーマに重点的に取り組む
２．子どもや若い世代に向けた番組の定着を図る
３．「健康」や「趣味」に関する番組など，中高年向け番組を充実
４．社会の中核を担う視聴者に向けた教養番組を拡充

〔放送時間〕

○１日20時間を基本とします。
○定時でマルチ編成を実施します。
○ワンセグ放送では同じ内容を同時放送しつつ，週末などに独自サービスを行います。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養番組15％以上，教育番組75％以上，報道番組若干を編成します。

３．BS1

「生にこだわるスポーツ」「世界の今を伝える国際情報」「世界の深層に迫る骨太のドキュメンタリー」の３つの柱を軸に，新規視聴者層を開拓する番組に取り組みます。

（編集のポイント）

１．サッカー ワールドカップ ブラジル大会を深く知り，より楽しむための番組を編成
２．多彩なスポーツ中継ソフトを編成するとともに，スポーツ情報番組を強化
３．世界の複雑な動きをひもとき，深く知る国際･経済番組を充実
４．国際共同制作を推進し，高品質なドキュメンタリーを提供
５．2020年東京オリンピック・パラリンピックを意識する番組を開発

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養番組20％以上，教育番組10％以上を編成します。

４．BSプレミアム

幅広い世代が楽しめる“知的エンターテインメントチャンネル”として，「地上波にはない個性」を旗印に，深い満足感を与えるコンテンツの充実と戦略的な編成に努め，新たな視聴者層の獲得を目指します。

（編集のポイント）

１．従来の視聴者に加え，新たな視聴者層も満足させる知的エンターテインメント番組を拡充
２．圧倒的な訴求力と話題性をもった大型企画を編成
３．“ニッポン再発見”をテーマに，地域の支援につながる番組の充実

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

５．ラジオ第１放送

災害などの緊急時に，生命や暮らしを守る情報を迅速に伝える“安心ラジオ”としての機能強化

に引き続き取り組みます。音声の基幹波として，「心に届く」「感動する」「知的好奇心を刺激する」多彩な番組で，若者世代への定着も図りながら，中高年のニーズに応えます。

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養・教育番組あわせて25％以上，報道番組35％以上，娯楽番組20％以上を編成します。

６．ラジオ第２放送

“生涯学習波”として，語学番組や学校放送番組，高校講座などの教育番組，幅広いテーマの教養番組などで，多様な知的欲求に応える番組の充実を図ります。

あわせて，福祉番組や在日外国人向け番組などにも取り組みます。

〔放送時間〕

○１日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養番組15％以上，教育番組65％以上，報道番組10％以上を編成します。

７．FM放送

“総合音楽波”として，リスナーの多様なニーズに応えます。良質な音楽，個性的なパーソナリティーの語りをメインに新しい音楽文化の発信に努めます。

災害など緊急時には，ラジオ第１放送と連携して機動的な編成を行い，地域情報波としてきめ細かなライフライン情報を提供します。

〔放送時間〕

○１日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について，教養・教育番組あわせて40％以上，報道番組10％以上，娯楽番組25％以上を編成します。

放送番組の改定

Ⅰ．４月の番組改定

１．総合テレビジョン

（１）現代を深く掘り下げ，見ごたえのある番組を展開

『NHKスペシャル』では，東日本大震災からの復興の課題と災害の脅威を深く掘り下げる番組や，原子力発電所事故後の廃炉に向けた動きを記録するシリーズを制作した。人間の細胞や進化などの生命の神秘にハイクオリティーCGで迫る番組など，NHKの質の高い制作力・技術力を駆使したシリーズにも取り組んだ。『土曜ドラマ』は，感動あふれるヒューマンドラマや現代を鋭く切り取る社会派ドラマを放送し，“NHKだからこそ作れる，高い志と品質のドラマ枠”というブランド力をさらに高めた。

（２）世界や日本の今を読み解くニュース・情報番組を強化

複雑化する国際関係や，国内の少子高齢化・財政の立て直しなど，日本が直面する問題を深い取材と丁寧な解説で伝え，NHKにしかできない報道の強化を図った。

（３）定時番組を充実するとともに，家族や地域の絆を見つめ直し，世代を越えて楽しみ心に残る番組を育てる

13年度に刷新した，土曜の夕方から夜間にかけての親子で楽しむことのできる番組は継続し，視聴の定着を目指して放送本数の増加や特集展開などの強化策を講じた。

（４）“これさえあれば”と各世代に必要とされる多彩な番組を制作

午後10，11時台は，視聴者の多様なニーズに応える時間帯として強化した。木曜は，『LIFE！～人生に捧げるコント～』をウイークリー化し，技術者や職人の真剣勝負を通じて日本のものづくりの底力・奥深さを伝えるエンターテインメント番組『超絶　凄（すご）ワザ！』を新設した。土曜にはBSプレミアムと連動した『幻解！超常ファイル　ダークサイド・ミステリー』を放送した。

（５）地域が主役となり，全国の視聴者が満足できる番組を編成

地域や，地域に生きる人が主役となる番組を，月に１回程度，金曜夜間に全国放送した。己の道を極限まできわめた人の波乱万丈な生き様（さま）に学び，その魅力に迫る『きわめびと』，全国のNHK54局のネットワークを生かして，毎日のニュースを“しあわせ”をキーワードに掘り起こして笑いと感動を届ける『しあわせニュース2014』を新設した。

（６）2020年東京オリンピック・パラリンピックを意識する番組の開発

日曜午後５時台には，2020年の東京オリンピック・パラリンピックで将来を期待される若手選手を発掘し，応援する番組を新設した。

２．Eテレ

（１）「教育」「福祉」「いじめ」「防災」などのテーマに重点的に取り組む

Eテレならではの視点で重要テーマに取り組んだ。教育の課題を取り上げる番組『エデュカチオ！』は，月１回から週１回の放送に拡充し，よりタイムリーに家庭や学校で親子が直面する課題を取り上げた。また，いじめの問題など重要テーマについては，より深く掘り下げ，広く伝えていくために，定時番組と特集編成の連携や波を越えた連携を積極的に行った。

（２）子どもや若い世代に向けた番組の定着を図る

平日午後６時台の子ども向け番組を，よりストーリー性を高めた視聴者参加型の番組に刷新したのをはじめ，午後７時台には，10代，20代の女性向けの手芸番組『ガールズクラフト』を新設し，若い世代に向けて多様なサービスを実施した。

（３）「健康」や「趣味」に関する番組など，中高年向け番組を充実

趣味・実用番組は，中高年の視聴者を意識した演出で内容の充実に取り組んだ。『きょうの健康』は，健康が気になり始める50代，60代にも向けて，病気の予防や早期発見を重視した内容にした。『きょうの料理』は，スタジオでのレシピの紹介にとどまらず，テレビならではの表現で，視聴者の「心」を動かす内容にして充実を図った。また，平日午後３時台は，『将棋フォーカス』『囲碁フォーカス』の再放送を新設し，趣味・実用番組のアンコールゾーンとしての存在感を高めた。

（４）社会の中核を担う視聴者に向けた教養番組を拡充

平日午後11時台は，社会の中核を担う視聴者や，それに続く若い世代の視聴者に向けた教養番組ゾーンとして，内容の充実を図った。『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』や『ミュージック・ポートレイト』は，放送時間を拡大し，より充足感のある内容とした。

（５）学校放送番組・高校講座の充実

学校放送番組では，子どもたちの日本語の表現やコミュニケーション力が重視される中，言語表現力を楽しみながら育てる番組『ことばドリル』を新設したほか，小学校中・高学年向けの図画工作番組『キミなら何つくる？』や，中学生・高校生に論理的思考力を身に付けてもらう番組『ロンリのちから』など，子どもたち，そして学校現場や家庭のニーズに応える番組を新設した。また，高校講座は，学習指導要領の改訂や教育現場のニーズに対応した内容の充実を図った。

（６）幼児・子ども向け番組ゾーンの活性化

朝の幼児・子ども向け番組ゾーンは，子どもたちの生活時間の変化に合わせ，番組の組み替えなどにより活性化を図った。最先端の映像表現を通じて，子どもたちのデザイン的な思考を育む『デザインあ　５分版』を新たに編成，朝のあわただしい時間でも視聴しやすい番組の流れにして，ゾーン全体の魅力をさらに高めた。

（７）外国人向け番組の刷新

日本の社会に親しもうとする日本語初級者の外国人に向け，日本語の習得だけでなく，文化にも親しんでもらう語学番組『使える！伝わるにほんご』を新設した。

３．BS1

（１）サッカーワールドカップ ブラジル大会を深く知り，より楽しむための番組を編成

６月12日（現地時間）から約１か月にわたり開催された『2014FIFAワールドカップ』の熱戦のもようを伝えた。BS1を見ればワールドカップのすべてが分かるという編成を目指し，20代，30代の若い視聴者を中心に幅広い視聴者層の開拓を図った。毎週日曜午後９時には『サッカープラネット』を午後11時から移設。毎週土曜の『Jリーグタイム』と合わせ，週末夜にサッカーゾーンを設定し，国内外のサッカー関連情報を詳しく伝えた。

（２）多彩なスポーツ中継ソフトを編成するとともに，スポーツ情報番組を強化

日曜午前０時台には『スポーツ酒場　“語り亭”』『チャリダー★　快汗！サイクルクリニック』『ザ・データマン～スポーツの真実は数字にあり～』を編成した。さらにスポーツエンターテインメント番組の開発にも力を注ぎ，新たな視聴者の獲得を目指した。また，MLBを中心に海外スポーツの最新情報を伝え，好評を得た『ワールドスポーツMLB』を土曜，日曜にも拡大し，毎日たっぷりと放送した。

（３）世界の複雑な動きをひもとき，深く知る国際・経済番組を充実

朝・夜のニュース番組をリニューアル。月曜から土曜の午前７時からは『キャッチ！世界の視点』とし，世界各地の最新情報を各国ではどのように報道したのかを伝えた。月曜から金曜の午後10時台は『国際報道2014』として刷新。世界情勢をこれまで以上に深く詳細に伝えた。また，週末の経済情報番組『Biz＋　サンデー』では働き盛りの40代，50代を中心とした視聴者に役立つ国内

外の最新の経済情報を発信した。

（４）国際共同制作を推進し，高品質なドキュメンタリーを提供

世界各国の社会問題，国際的に関心の高いテーマを丹念に取材し，ドキュメンタリーを制作した。国際共同制作を積極的に推進したほか，海外で制作されたドキュメンタリーなど，多彩なラインナップの番組を視聴者に届けた。日曜午後７，８時台にはスポーツ中継に限らず，国際的な話題や関心が高い特集番組『BS1スペシャル』を編成し，定着を目指した。

（５）2020年東京オリンピック・パラリンピックを意識する番組の開発

2020年に開催が決定した東京オリンピック・パラリンピックに向けて，将来を期待される若手選手を発掘する番組や，ビッグイベント開催への動きを伝える番組などを編成した。

４．BSプレミアム

（１）従来の視聴者に加え，新たな視聴者層も満足させる知的エンターテインメント番組を拡充

『ワイルドライフ』『世界ふれあい街歩き』『新日本風土記』など，継続番組の内容を一層充実させた。また，日本の運命を決める「選択」に直面した英雄たちの心中に深く分け入り，新しいアプローチで日本の歴史を描きだす番組『英雄たちの選択』や，世界各地で暮らす人々が待ち望む“一瞬”を探る紀行番組『世界で一番美しい瞬間（とき）』などを新設し，多彩で良質な番組を編成した。平日午後11時台は，リラックスゾーンをコンセプトに再編。J－POP界を代表する実力派アーティストが昭和の名曲を再生，その魅力を再発見するスタジオ音楽番組『The Covers』や，ベランダで繰り広げられる植物と人間の悲喜こもごもをドラマタッチで描く『植物男子　ベランダー』など，新たなタイプの教養・娯楽番組を新設し，ラインナップを充実させた。

（２）圧倒的な訴求力と話題性をもった大型企画を編成

土曜夜間は圧倒的な訴求力と話題性をもった大型企画『ザ・プレミアム』を拡充した。『体感！グレートネイチャー』『まるごと知りたい！A to Z』などの番組を継続したほか，国際展開も視野に入れた大型番組や，随時の企画募集によって，圧倒的なスケール感と斬新さで訴求力のある特集番組を一層充実させた。話題性の高い映画も随時編成した。

（３）“ニッポン再発見”をテーマに，地域の支援につながる番組の充実

月～金曜午後７時台は，“ニッポン再発見”をテーマに，全国各地の魅力を発信し，地域支援につながる番組を充実させた。火～金曜は，俳優・火野正平が全国を自転車で旅をし，人々の心に残る日本の風景をたどる『にっぽん縦断　こころ旅』を30分番組として拡充した。また，釣りを通じて地域の魅力を伝える『釣りびと万歳』，鉄道で全国を旅する『ニッポンぶらり鉄道旅』や『中井精也のてつたび！』，各地の旬な食材と料理人を通じて，地域の食の魅力を紹介する『食材探検おかわり！にっぽん』など，多彩な番組で地域の再生，地域活性化へ貢献した。

５．ラジオ第１放送

（１）午後の生放送ワイド番組の定着の促進

平日の午後１～４時台の生放送番組『午後のまりやーじゅ』では，中高年層に関心が高いエンターテインメント情報のほか，NHK各放送局とのネットワークを生かし，地域の話題を積極的に伝えた。また，事件事故・災害時には機動的な編成を行った。

（２）午後９時台に中高年の知的好奇心に応える教養番組を新設

中高年層の旺盛な知的好奇心を刺激する番組を新設した。文学作品に登場する音楽について作家自らがその意味や人生との関わりについて語る『ミュージック・イン・ブック』を新設，他のラインナップとは一味違う番組で午後９時台の強化を図った。

（３）土日夜間のラジオ深夜便の拡充

土日の『ラジオ深夜便』の開始時間を平日と同じ午後11時台からとし，50代後半以降のリスナーの期待に応えた。

６．ラジオ第２放送

（１）社会人向けの実用講座の新設

30代，40代の中堅社員が直面する課題をテーマにビジネスで役立つ実践的な知識・情報を伝える番組を新設，新しい分野の開拓を目指すとともに，ラジオ第２の存在感を高めた。

（２）英語学習番組の新設と再放送ゾーンの拡充

日本語の解説を付けず簡単な英語で構成したショートストーリーで英語感覚を養う番組を新設したほか，午前９時台と午後10時台に英語学習番組の再放送ゾーンを拡充し，社会人向けの実用講座とあわせて，学ぶ機会を増やした。

（３）教育・教養番組の充実

高い関心が寄せられている科学に関するテーマを第一線の科学者の解説で紹介する番組を新設し，「カルチャーラジオ」の充実を図った。

７．FM放送

平日夜間にパーソナリティーの個性が光る新番組

独自の世界観を持つ旬のアーティストをパーソナリティーに据えた番組を編成し，幅広い世代のリスナーの取り込みを図った。R&Bのアーティスト・MISIAや，アーティスト＆プロデューサーのヒャダインがパーソナリティーを務める番組を新設し，平日夜間帯を活性化した。

Ⅱ．年度途中の新設番組など

１．総合テレビジョン

（１）新設番組

後半期の改定では，土曜夜間に『妄想ニホン料理』（10月11日～），木曜夜間に『地球イチバン』（10月９日～），金曜夜間には『ファミリーヒストリー』（10月10日～）をそれぞれ半年ぶりに定時番組とした。

（２）ドラマの新シリーズ

『連続テレビ小説』は「マッサン」（９月29日～），『大河ドラマ』では「花燃ゆ」（１月４日～）を開始した。

毎週火曜夜10時からの『ドラマ10』は「さよなら私」（10月14日～），「全力離婚相談」（１月６日～）などを放送した。

木曜夜８時の『木曜時代劇』では，「ぼんくら」（10月16日～），「風の峠～銀漢の賦～」（１月15日～）などを放送した。

このほか，土曜夜９時『土曜ドラマ』では，「ボーダーライン」（10月４日～），「ダークスーツ」（11月22日～）などを放送した。

２．Eテレ

10月の改定では，ティーンズ向け番組として，『スクールライブショー』（10～３月）を放送したほか，学校放送番組の新シリーズとして，タブレットなどIT活用授業に対応した小学生向けの新しい体育授業番組『はりきり体育ノ介』（10月８日～）を放送した。また，語学番組の新シリーズとして『しごとの基礎英語』（９月29日～），音楽教養番組として，『亀田音楽専門学校』（10～12月）を放送した。アニメでは『アニメ　ログ・ホライズン２』（10～３月）を放送したほか，人形劇の『シャーロックホームズ』（10月12日～）を放送した。

３．BS1

プロ野球などのシーズン終了や欧米の冬時間等に伴い，11月３日以降，一部改定を実施した。

金曜夜間の編成を見直し，午後９時台にアジアゾーンとして『島耕作のアジア立志伝』『アジアで花咲け！なでしこたち』『エキサイト・アジア』を編成した。

午後11時台の『ワールドスポーツMLB』は，MLBのシーズン終了に伴い，内容と放送時間を一部見直して放送。MLBのストーブリーグや欧州サッカー，ウインタースポーツ，NFL，NBAなどの最新情報を伝え，水曜と木曜は20分サイズで放送した。金曜はプロ野球のオフシーズンにもプロ野球ファンの期待に応える特集番組を編成した。

また，午後７時から９時までの時間帯は，「エキサイティングスポーツ」として，サッカーのプレミアリーグやセリエAなど欧米サッカーなどを中心に放送した。欧米の夏時間の終了に伴い，日曜の早朝の編成を一部変更し，『PGAゴルフツアー』は午前６～７時台に，『ワールドニュース』は午前８時台の放送に変更した。深夜の編成については，月曜，火曜，木曜の深夜３時台を「ミッドナイトスポーツゾーン」とし，NFLなどを放送した。

４．BSプレミアム

10月の改定では，幅広い世代が楽しめる“知的エンターテインメントチャンネル”として，夜間帯を中心に視聴のさらなる定着を目指し，一部改定を実施した。水曜夜間には『ザ・プロファイラー』（10月１日～），『世界入りにくい居酒屋』（10月１日～）を新設した。また，土曜の夜には，『アニメ　山賊の娘ローニャ』（10月11日～）を，木曜夜間に海外ドラマの新シリーズ『ワンス・アポン・ア・タイム２』（９月25日～）などを新設した。

また，日曜の午前８時から10時台をファミリーゾーンとし，子どもと親が楽しめる番組を集中編成した。

５．ラジオ第１放送

プロ野球ナイトゲームの終了に伴い，木・金曜の午後８～９時台の編成を刷新した。木曜は，桐島かれんさんが多彩なゲストと心揺さぶられた出

来事や注目の人物を紹介する『かれんスタイル』を放送。金曜は，80年代から90年代に青春を過ごしたリスナー向けの音楽番組『僕らの青春 J－POP　平成ミュージック・グラフィティー』を放送した。

国内放送番組審議会

放送番組審議会は，放送事業者に対して放送法で設置が義務付けられている法定の審議機関である。NHKは国内放送に関わる「中央放送番組審議会」と８つの「地方放送番組審議会」，国際放送に関わる「国際放送番組審議会」を設置している。

番組審議会は，放送番組の適正を図るための自律措置として設けられているものであることから，委員の人選にあたっては学識経験者などの中から，社会動向や属性など全体の調和を考え，視聴者の意向が的確に反映されるよう，幅広い観点から委嘱を行っている。委員数は，15年３月現在で中央審議会は15人，地方審議会は10～12人で組織している。会議は，毎月１回の定例開催日に議題を設けて実施している（８月は休会）。会長の諮問に応じて全国向けの「国内放送番組編集の基本計画」と各地域向けの「地域放送番組編集計画」について審議し，答申したほか，番組全般について意見交換を行った。

１．中央放送番組審議会

中央放送番組審議会は，14年度中に11回開催し，会長の諮問により，12月に「平成27年度国内放送番組編集の基本計画」について審議し答申したほか，広く国内放送番組全般について活発な意見交換を行い，放送番組への反映を図った。

また，５月に13年度下半期，11月に14年度上半期の国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間について報告した。

14年度中の主な議題は次のとおり。

４月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（13年度第４四半期・１～３月）について

５月　国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間（13年10～14年３月），『しあわせニュース2014春』について

６月　『すイエんサー　指ずもうでメッチャ勝てるようになりた～い！！』について

７月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（14年度第１四半期・４～６月）について

９月　14年度後半期の国内放送番組の編成について

10月　経営計画における「達成状況の評価・管理」（14年度第２四半期・７～９月），『ハートネットTV＋　生きるためのテレビ』について

11月　国内放送番組の種別の実績および種別ごとの放送時間（14年４～９月），「平成27年度国内放送番組編集の基本計画」（案）について

12月　「平成27年度国内放送番組編集の基本計画」（案）－諮問－，『NHKスペシャル』「攻防　危険ドラッグ　闇のチャイナルートを追う」について

１月　「平成27年度国内放送番組編成計画」，経営計画における「達成状況の評価・管理」（14年度第３四半期・10～12月）について

２月　『戦後史証言プロジェクト』日本人は何をめざしてきたのか　知の巨人たち　第７回「昭和の虚無を駆けぬける　三島由紀夫」について

３月　インターネット実施基準と実施計画について

番組審議会の活動内容の公開については，各番組審議会の議事録を毎月，放送やインターネットなどで公表しているほか，各放送局で議事録の備え置きを実施するなど積極的に行っている。

２．地方放送番組審議会

全国８つの地域ごとに「地方放送番組審議会」が設けられ，各地域の放送番組の基本方針を審議している。

14年度中に各地域とも11回開催し，会長の諮問に応じて「平成27年度各地方向け地域放送番組編集計画」について審議し答申したほか，番組全般について意見交換し，その適正化を図った。

２節 放送番組の制作

報道・スポーツ番組

Ⅰ．取材・制作・放送システム

１．ニュース取材・制作設備

本部ニュースセンターの映像サーバーシステムの利用が定着した。ニュースセンターから送出するニュース・緊急報道・情報番組に加えて14年12月の衆議院選挙でも，大半の映像素材を本システムから送出した。名古屋局と岐阜局で15年３月から映像交換システムの運用が始まった。本部のシステムにも機能追加を行い，映像交換が可能となった。

ニュースセンター設備の老朽更新を進めており，14年８月には300系統近くの映像信号を処理・分配する設備を更新した。また，複数のリソースを一度に確認するための16分割リソース表示装置，特定の信号を選んでモニター表示する報道プレビュー設備を更新した。

15年１月には，ヘリコプターから撮影した空撮映像を元に３次元CGを作成するシステムをニュースセンターに導入した。15年３月には福島第一原発の３次元CGを制作し，東日本大震災関連のニュース解説に使用，多様な演出に貢献できた。

海外総支局の設備整備について14年度は，モスクワ支局の制作･伝送設備，ロンドン支局の制作･伝送設備，ウラジオストクの伝送設備の更新を行い，信頼性に加え運用性の向上を図った。ヨーロッパ総局においては，アスベスト対策のラック室移設に対応して映像切替設備の更新を行った。また，３か年計画で実施する海外総支局取材カメラや編集機のファイルベース化更新の１年目で，PCベースのノンリニア編集機の仕様検討を進め，順次各総支局に設備の配備を始めた。同時にファイルベースの取材用カメラを導入し，ファイルベース化の基本を確立させた。さらに，映像伝送設備としてサービス終了となったインマルサットMに代わるBGANなど順次整備した。

これらの対応により，海外総支局における機材･設備の安定運用と国際情報の発信力を強化した。

２．緊急報道設備

テレビの画面を縮小して防災情報などを放送することを画面縮小により生まれるスペースの形状からL字放送と呼んでいる。従来，L字放送は総合テレビのみ可能であったが，Eテレ（関東ローカル放送のみ）でも放送できるよう，送出設備の改修を行い，14年７月22日から運用を開始した。今回の改修では，画面縮小時にチャイム音を付加する機能も追加し，特別警報，記録的短時間大雨情報などの発表時，チャイム音を付加してL字放送が可能となった。また，８月にはL字放送用のテロップを作成する端末の更新を行い，入力した情報をインターネットやデータ放送に配信する機能を追加した。

８月７日から，気象庁は高解像度降水ナウキャストの運用を開始した。これは，従来の降水ナウキャスト（１km解像度の降水分布を60分先まで予測）を30分先の予測について解像度を250mにしたものである。運用開始に合わせて新しい気象画面作画装置を導入し，大雨や台風接近時などに詳細な降水予測を視聴者に伝えられるようにした。

９月２日から，気象庁は竜巻の目撃情報を活用し，竜巻発生の可能性がより高まっていることを伝える竜巻注意情報の運用を開始した。従来，竜巻注意情報の速報内容を手動入力して送出していたが，竜巻の発生・危険性を迅速に伝えるため関連設備の改修を行い，気象庁入電データをもとに速報スーパーを自動生成するようにした。

３．報道情報システム

報道情報システムは，ニュース原稿の作成から制作，送出までを担うNHKの報道を支える基幹システムである。多くのホストコンピューターとサーバー群を中核とした大規模なネットワークシステムである。

ニュースセンターのハイビジョンビデオサーバーシステムの地上放送（総合・Eテレ）でのニュース制作・送出の開始に合わせて，多数の報道情報端末にサーバー映像の試写とテロップの電子発注ができるアプリケーションを導入し，迅速かつ効率的なニュース制作が行える環境を整えた。

Ⅱ．緊急報道

14年度は，東日本大震災の余震とみられる地震は以前に比べれば減ったが，大雨による土砂災害や台風の上陸，死者・不明者が戦後最悪となった火山災害など，大きな災害が相次いだ。

NHKは，公共放送として国民の生命・財産を守る立場から被害の軽減や復旧に役立つ放送に組

織を挙げて取り組んだ。特設ニュースやL字放送，データ放送，インターネットなど，さまざまな手段で情報を伝えた。インターネット回線を使う「IP中継」も活用し，台風などの現場の様子を機動的に伝えた。地域放送では，被災者に役立つ生活情報などを詳しく伝えることにも力を入れた。

１．自然災害

（１）地震・津波

14年４月から15年３月末までに震度５弱以上を観測した地震は10回あった。このうち東日本大震災の余震とみられる地震は２回だった。

４月２日に南米チリ北部沿岸を震源として発生した巨大地震（マグニチュード8.1）で，翌日，気象庁は北海道から千葉県にかけての太平洋沿岸，伊豆諸島，小笠原諸島に津波注意報を発表した。地震発生から丸１日近くたって津波が到達し，岩手県の久慈港で55cmの津波が観測された。

７月12日の福島県沖を震源とする地震（マグニチュード7.0）では，福島県と宮城県，岩手県の沿岸に津波注意報が発表され，宮城県石巻市で17cmの津波が観測された。15年２月17日には三陸沖を震源とする地震（マグニチュード6.9）で，岩手県の久慈港で27cmの津波が観測された。

９月16日の茨城県南部を震源とする地震（マグニチュード5.6）では，栃木県や群馬県，埼玉県で震度５弱の揺れが観測された。総務省消防庁によると，この地震で群馬県と埼玉県で合わせて10人がけがをし，1,000棟以上の建物が一部損壊した。11月22日の長野県北部を震源とする地震（マグニチュード6.7）では，長野市などで震度６弱を観測した。総務省消防庁によると，この地震で46人がけがをし，1,800棟以上の建物に被害が出た。

（２）台風８号で沖縄県に特別警報

台風８号の接近に伴い，気象庁は，７月７日から８日にかけて沖縄県に暴風と波浪，大雨，高潮の特別警報を発表して最大級の警戒を呼びかけた。９日未明に全ての特別警報を解除した後，沖縄本島地方で急激に雨が強まったため，再び大雨の特別警報を発表した。

その後，北上した台風８号と梅雨前線の影響で広い範囲で大雨が降った。９日，長野県南木曽町では１時間に97ミリの猛烈な雨が降って土石流が発生し，住宅が流され中学生１人が死亡，３人がけがをした。

NHKは特別警報を全国放送で伝えたのをはじめ，連日，特設ニュースなどを放送した。長野県南木曽町の土砂災害では，ヘリコプターから撮影した画像データを立体化するシステムを初めて運用し，解説などに活用した。

（３）台風11号で三重県に大雨特別警報

８月９日，台風11号の影響で猛烈な雨が降り，気象庁は三重県に大雨の特別警報を発表した。台風は10日に高知県に上陸し，近畿を通って日本海に抜けた。広い範囲で大雨となり，がけ崩れや住宅の浸水などが発生した。栃木県では竜巻とみられる突風で２人がけがをした。

（４）広島市で大規模土砂災害

８月20日，前線の影響で西日本を中心に大気の状態が不安定になり，広島市安佐北区では１時間に130ミリの猛烈な雨を観測した。総務省消防庁によると，安佐南区と安佐北区の166か所で土砂災害が発生した。住宅が押し流されるなどして74人が死亡，69人がけがをした。

（５）御嶽山噴火

９月27日正午前，長野と岐阜の県境にある御嶽山が噴火した。山頂付近にいた登山者ら63人が死亡・行方不明となり，戦後最悪の火山災害となった。噴煙は火口からおよそ7,000メートルの高さに達したとみられ，火砕流も発生した。御嶽山の噴火は07年以来で，マグマの熱で地下水が熱せられて起きる「水蒸気噴火」だったとみられる。

（６）台風18号と台風19号

10月６日，台風18号が静岡県に上陸し，東海・関東を東進した。本州付近に停滞していた前線の影響も加わり，東日本の太平洋側を中心に大雨となった。総務省消防庁によると，６人が死亡し１人が行方不明となった。10月13日には台風19号が鹿児島県に上陸し，四国から関東へと進んだ。総務省消防庁によると，３人が死亡し96人がけがをした。

14年に日本に上陸した台風は４つ（８号，11号，18号，19号）で，この10年で最も多くなった。

２．映像取材体制

（１）航空取材

14年度は札幌・仙台（花巻空港で運用）・東京・新潟・静岡・名古屋・大阪・高松・広島・福岡・鹿児島・沖縄の12基地で15機のヘリコプターを運用し，全国の事件事故や災害などの緊急報道に対応した。また，長距離洋上飛行が可能な固定翼機の優先契約を継続した。14年10月には小笠原諸島近海に多数押し寄せた中国のサンゴ密漁船取材に対応した。

また，15年２月から硫黄島の航空自衛隊基地内

にヘリ燃料１万リットルの備蓄が可能となり，周辺海域での長時間取材が可能になった。

（２）IP中継・伝送体制

14年度はすべての放送局にIP送・受信機を配備するなど，IP中継・伝送体制の整備を一段と進めた。14年10月の台風19号報道では，台風の予想進路にクルーを展開し，全国の35か所からIP機器やiPhoneによる中継を111回行った。また，年末の総選挙開票特番では，午後８時台にこれまでになく多い21人の当確者の表情をIP中継で伝えた。また，IP機器は街頭演説取材でのいわゆる「映り込み」防止にも活用することで，公平公正かつ効率的な取材の支えとなった。

（３）空撮映像・画像立体化システム

データジャーナリズムの柱の１つである空撮立体化システムについて映像取材部と各拠点局に機材を配備し，本部カメラマンが各局のカメラマンを指導するなどして全国展開を進めた。14年８月の広島大規模土砂災害や９月の御嶽山噴火，さらに15年３月には福島第一原子力発電所の最新状況が立体化画像で詳細に放送され，記者解説を分かりやすく伝えるうえで大きな役割を果たした。

（４）東日本大震災

震災４年目となる14年度も，東北３県への全国応援を継続した。その日数は年間およそ2,700人日で，発生からの４年間で延べ２万人日を超えた。

Ⅲ．選挙システム

選挙システムは，ホストコンピューターと全国のサーバー・端末などをネットワークで結んで出口調査や最新の開票データなどを集計し，当選確実の判定や，番組・データ放送・インターネットなどの開票速報画面の作成などを行うものである。

12月の第47回衆議院議員選挙では，候補者情報を一元管理する候補者データベースで全国の立候補状況を管理し，公示日の候補者紹介等に活用した。投開票日の総合テレビでは，午後８時前より開票速報特別番組を編成し，選挙システムと連動した速報画面のほか，バーチャルCGや大型タッチスクリーンを活用した動きのある演出により，与党圧勝の状況を迅速かつ分かりやすく伝えた。また，BS1・R1・データ放送・インターネット・携帯コンテンツ等も選挙システムと結んで開票速報を実施した。データ放送やインターネットでは，全国各選挙区の詳細な開票状況を掲載し，番組では紹介しきれないきめ細かい情報の提供に努めた。

従来，選管が開票所で発表する得票資料はFAXで開票速報本部に送付していたが，全国的にFAXのレンタルが困難になりつつあることに加え，文字の小さい資料が読みづらいなどの課題があった。このため，選管の発表資料をスマートフォンのカメラで撮影してデータ送信し自動印刷する仕組みを14年度から一部の選挙で試行的に運用した。インターネットを利用するため電話回線の敷設工事が不要で，15年の統一地方選挙から本格運用となった。

Ⅳ．国際回線ネットワーク

海外からの中継や映像収集に24時間体制で対応するため，海外総支局を結ぶ国際回線ネットワークを構築して運用している。

１．ネットワークの仕組み

ニューヨークのアメリカ総局，パリのヨーロッパ総局そして東京の放送センターは，光ファイバーと衛星を組み合せた基幹回線で結ばれている。欧米の各支局は，それぞれの総局と回線が結ばれ，迅速かつ安定的な映像収集が可能である。

この基幹ネットワーク上には，映像ファイルを実時間より短い時間で高速転送したり，ファイル転送中に生中継が発生した際，自動的に両者を最適な速度に変更し同時並行で伝送を続行できる機能も搭載している。

ファイルで番組配信する海外の放送局も出始めていることなどから，映像ファイルを自動的に基幹システムに取り込むシステムも構築している。このような最新技術は効率的なネットワーク運用を可能にするだけでなく，より迅速な緊急報道を可能にしている。

このほか，アジア・アフリカ・中東地域の支局も東京まで迅速に映像を伝送できる回線を整えている。

２．緊急報道と映像収集

海外の政情不安・テロ・災害等の緊急報道では，NHKの海外総支局や取材現場だけでなく，世界各地の放送機関や通信社などからの映像を迅速に入手することが重要となるため，放送センターには，海外からの映像入手を専門に扱うチームを24時間体制で運用している。NHKでは世界19の国と地域，24の放送機関から映像を受信しBS1の放送などで利用しているため，緊急時にはこれらの映像を利用したり，現地の放送機関や通信社・映

像プロダクションなどに直接連絡をして映像入手を行っている。

14年度はシリア情勢，韓国旅客船沈没，チリ大地震，ソウル地下鉄事故，若田宇宙飛行士カザフスタン帰還，マレーシア航空機撃墜，スイス鉄道事故，スコットランド独立住民投票，過激派組織IS・イスラミックステート関連などさまざまな国際ニュース映像を扱った。MLB･プレミアリーグ･テニスなどの多岐にわたるスポーツ中継にも対応した。14年度に世界各地から届いた映像は４万3,000時間余りとなった。

３．映像伝送から映像データ共有へ

通信のデジタル化が進み，映像素材の収集方法は大きな変革期を迎えている。「映像伝送」の概念は，映像とメタデータを同時に必要なところで自在に入手する「映像データ共有」に変わりつつある。技術の進歩により，衛星・光ファイバー・インターネット・携帯通信など多様な手法で国境を意識することなく映像を共有できる時代になった。

先端技術を効率的に運用するため，先端技術を常に把握し，映像をより迅速に安定的に収集（共有）するシステム設計・構築をコンスタントに行う業務体制が求められている。

一方，最新技術が十分に取り入れられていない地域は通信インフラが脆弱（ぜいじゃく）であるため，従来型の衛星伝送を利用したり，小型の衛星通信端末などを持ち込んで対応した。

全世界から自在に映像を入手するためには，従来型から最新技術まで幅広い知識とノウハウが不可欠になっている。また，NHK報道の信頼性向上には，極めて高度なサイバーセキュリティ対策が不可欠なため，強力に対応策を展開した。

４．国際間の映像素材交換

NHKは，国際回線を使って内外のニュース映像を海外の放送機関にも提供している。

このうち「アジアビジョン：AVN」は，ABU（アジア太平洋放送連合）傘下の28の国と地域，28の放送機関（15年４月現在）が参加していて，毎日１回の衛星を使った送受信や，インターネット経由で素材を相互に交換している。

14年度に交換したニュースは13年度から33％も増えて１万2,018項目，このうちNHKは1,074項目のニュース映像をAVNに提供した。

その貢献度の高さで14年も13年に続き「アジアビジョン年間賞１位」に選出された。また，14年２月の45年ぶりの大雪とその被害，御嶽山噴火の素材提供が評価され，いずれも月間賞を受賞した。

アジアビジョンに提供された映像は，ジュネーブのEBU（欧州放送連合）本部へもインターネットを経由したファイルで送られ，欧州域内の放送機関に配信された。

Ⅴ．ニュース

政治では７月，政府が憲法解釈を変更して集団的自衛権の行使を容認する閣議決定を行った。戦後の安全保障政策の大きな転換点となる決定であり，政府・与党は，15年の通常国会での安全保障法制の整備に向けた準備を進めた。

11月，安倍総理大臣は，15年10月に予定していた消費税率の８％から10％への引き上げを１年半延期することを表明。国民に信を問いたいとして，衆議院の解散に踏み切った。

12月に行われた衆議院選挙では，安倍政権の経済政策・アベノミクスの継続を目指した自民・公明両党が全体の３分の２を上回る326議席を獲得して圧勝した。野党第１党の民主党は，選挙前より議席を伸ばしたものの73議席にとどまり，海江田代表が議席を失った。

経済では，４月に消費税率が８％に引き上げられた影響などから個人消費の低迷が続いた。10月に日銀が追加の金融緩和に踏み切り，円安株高が一段と進んだが，日本経済は力強い回復には至らなかった。

災害では，７月から10月に台風や局地的豪雨の被害が相次ぎ，８月の広島土砂災害で74人が死亡した。火山活動も高まり，９月の御嶽山噴火で63人の死者・行方不明者が出た。11月に長野県で震度６弱の地震，12月には四国で大雪による孤立が起きた。

東日本大震災については，岩手県，宮城県などの津波の被災地で，高台移転に向けた造成工事や災害公営住宅の入居が始まるなど復興に向けた動きが増えた。

その一方で多くの被災者が，仮設住宅での暮らしを続けているほか，人件費や資材の高騰で復興に向けた工事に支障が出るなど課題も多い。福島県では，原発事故の影響でふるさとへの帰還を含め将来の見通しが立たない被災者が数多くいる。

海外では，シリアとイラクにまたがる地域で過激派組織IS・イスラミックステートが勢力を拡大し，日本人を殺害した事件は大きな衝撃を与えた。ウクライナ東部で戦闘が激化し，マレーシア航空

機が撃墜され，欧米とロシアの対立が深まった。アメリカでは議会の中間選挙が行われ，野党・共和党が上下両院で多数派となった。

スポーツでは，６月にサッカーW杯がブラジルで開幕し，日本代表は１次リーグ敗退，ハリルホジッチ監督の下チーム作りが始まった。９月にはテニス全米オープンで錦織圭選手が準優勝，４大大会シングルスで日本選手初の快挙となった。１月の大相撲初場所では横綱・白鵬が33回目の優勝を果たし，大鵬を抜き単独歴代最多となった。20年東京五輪パラリンピックに向けては，会場見直しや追加種目を目指す動きが加速した。

１．主なニュース番組

（１）総合テレビ

毎正時のニュースのほかに早朝から深夜まで，視聴者の生活サイクルを踏まえ，それぞれの時間帯に即したニュース番組を放送した。

朝一番の『NHKニュース　おはよう日本』や午前中の動きをまとめた『正午ニュース』，午後は生活に身近なニュースを取り上げる『情報まるごと』，国内外のニュースを深く，多角的に掘り下げて伝える夜のメインニュース『NHKニュース７』や『ニュースウオッチ９』，そして深夜にはニュースとインターネットを連動させた『NEWS WEB』を放送した。

さらに１週間のニュースをまとめて伝える『週刊　ニュース深読み』，地上波唯一の専門的な国際ニュース番組『海外ネットワーク』，これらの番組で幅広い視聴者層の関心に応えた。

大きな事件・事故，災害，政局などの際は，放送枠の拡大や特設ニュースによって分厚く速報した。14年度の放送枠の拡大回数は210回・約49時間30分，特設ニュースは334回・約121時間45分に達した。また，視聴者にいち早く情報を知らせるため画面に文字で第一報を伝えるニュース速報は全国向けだけで730回に及び，主要なニュースのほか地震情報や交通情報など安心・安全に直結する情報を伝えた。

（２）Eテレ

手話ニュースは，毎日伝える『NHK手話ニュース』と平日夜の『NHK手話ニュース845』，土曜の『週間手話ニュース』，日曜の『こども手話ウイークリー』の４番組を放送した。特に災害報道に力を入れ，台風については朝の通勤・通学時間帯の前に定時枠とは別に特設ニュースを放送した。

（３）BS1

『BSニュース』は，毎日毎時50分から10分間を基本に24時間，国内外のニュースや各地の話題をコンパクトにまとめて伝えた。

『BS列島ニュース』は，平日の午後１時から１時49分までの49分間で，全国各地のNHKの放送局がその日の昼に伝えたニュースや地域放送で伝えたリポートをまとめて全国に発信した。

（４）R1・FM

ラジオニュースは，東日本大震災の災害報道を教訓に，災害時やそのおそれがある時に“減災”に役立つ「安心ラジオ」の機能を高めるため，ソフト・ハード両面で緊急対応力の強化を図ってきたが，14年度は機器の整備・改善が大きく前進した。

ラジオでは従来，緊急地震速報の自動音声終了後，直ちにQF放送（＝強制的に全国一律で通常番組を中断し臨時ニュースにする）を開始できないシステム上の欠陥があり，これを改修する工事を完了させたほか，全国ニュースの放送中に関東地方に気象警報等が発令された場合にローカル放送の「上乗せ」で迅速に伝える設備をスタジオ内に整備するなど，緊急報道のための機器の整備を進めた。

首都直下地震により放送センターが使用不能に陥った場合に備えて「さいたま報道別館」が13年度に整備されたが，14年度からは，全国ニュースの定期的な送出に加えてFMのローカル放送も定期的に放送した。

５月29日夕方，日朝政府間協議で北朝鮮側が拉致被害者の全面的な調査を行うことを約束したとの内容を安倍首相自らが発表した。R1では，テレビに先駆けて，ローカル放送中の局を含め臨時の全国ニュースで直ちに伝え，官房長官の緊急記者会見の中継を挟んで30分余り，ラジオ独自の特設ニュースで詳細に伝えた。

８月に西日本を縦断した台風11号については，８日深夜から10日夕刻まで足かけ３日間，定時ニュースの枠広げや最長40分の特設ニュースを頻繁に設け，刻々と変わる大雨などの情報や注意点を伝えた。また，10月５日から６日にかけて東海・関東を横断した台風18号でも同様の対応を取ったほか，10月13日に九州から東北まで日本列島を縦断した台風19号については，早朝から夜間まで通常番組をほぼ全て休止して台風報道に徹し，最新の情報と注意点を伝えた。

８月20日未明に発生し，74人が死亡した広島の土砂災害については，定時ニュースの枠拡大や特設ニュースで丁寧に伝えた。特に午前９時から午後１時までは高校野球中継をFMに迂回（うかい）して４時

間にわたり捜索状況や注意点などを現地からの中継リポートを交えて伝え続けた。

11月22日夜，長野県で震度６弱の地震が発生した際は，緊急地震速報の自動音声に続けて，新たに整備したばかりの，QF放送を直ちに開始できる装置を初めて実際に使用し，自動音声から切れ目なくラジオ３波独自で注意の呼びかけを短時間行った。その後，テレビと同時の全波臨時ニュース放送に移行し，再びラジオ独自放送になった後も約１時間にわたって震災報道を続けた。

12月14日投開票の衆議院選挙にあたっては，11月18日の安倍首相による解散表明日から投開票日まで，テレビと連携して詳しく報道し，聴取者の関心に応えた。具体的には，安倍首相の解散表明の記者会見，解散日の各党幹部の生中継インタビュー，公示日の各党党首ダイレクトインタビューなどを，テレビと同時音声，またはラジオ独自で伝えた。また，12月２日の公示日は，東京からは関東１都６県の88小選挙区の立候補者と比例代表の南・北関東ブロックおよび東京ブロックの名簿登載者全員の名前を午後11時台にローカル特設枠を設けて関東地方のリスナーに届けた。さらに選挙期間中には，全国の注目選挙区リポートを４日間，毎日１選挙区ずつ放送した。投開票日には，午後７時55分からR1・FMスルーで特番『速報！衆院選2014』を立ち上げて翌日の午前５時まで開票状況を伝え，その後も午前５時台と午前７時台に特設枠を設けて開票結果を伝えた。

過激派組織IS・イスラミックステートに日本人２人が拘束された事件で，２月１日午前５時頃，ジャーナリストの後藤健二さんを殺害したとする動画がインターネット上に投稿された。ラジオ第１では，５時８分に一報を伝えた後，７時40分までの間，長時間の特設ニュースを含めて断続的に，首相会見中継など関連ニュースを迅速に伝え続けた。

２．ニュースサイト「NHK NEWS WEB」

放送と連動し，政治，経済からスポーツまで各分野のニュースをインターネットで原則１週間公開している。大きな事件や事故，災害などの情報は「JUST IN」ニュースとして速報しているほか，注目ニュースは取材記者が深く掘り下げた署名記事「WEB特集」として掲載している。

（１）災害情報の充実

９月の御嶽山の噴火では，ネットを通じた映像の提供を実施。防災情報として常に確認できるよう，長野側と岐阜側の双方に設置した火口の様子を捉えるカメラの映像をリアルタイムで提供した。

（２）特設コンテンツの公開

ウェブの特性を生かしたネットならではの表現を試みる各種コンテンツを特設して公開した。御嶽山噴火の証言サイトでは動画や写真を3Dマップ上に掲載し，防災の教訓を伝えた。阪神・淡路大震災20年を振り返るサイトや東日本大震災の復興に向けた動きを伝えるサイトでは，被災者へのアンケートで寄せられた声を分かりやすく表示。また，経済の各種データについて，グラフなどを活用して一目で把握できるサイトなどを公開した。

（３）ハイブリッドキャストニュース

ハイブリッドキャストのニュースコンテンツとして，最新のニュースを一覧できるサイトを１月に公開した。ニュース原稿は全文を掲載し，記事の一覧に加えて，一つ一つの記事に静止画をつけられるようにした。ハイブリッドキャストを利用する際にニュースを確認したいというニーズに応えた。

３．報道室

NHKの全国取材網には各地の放送局のほかに報道室がある。事件・事故・災害・選挙報道はもちろん，地域の暮らしに密着した取材の最前線として活動している。

〔北海道〕

広大なエリアを抱える北海道で地域に密着して日夜取材にあたる報道室は，重要な役割を果たしている。

札幌局・千歳報道室は，新千歳空港の国際線ターミナルが急増する外国人観光客に対応できず遅延便が相次ぎ，新規の就航にも影響が出ている実態を全国に向けて伝えた。

札幌局・小樽報道室は，７月に小樽市で起きた飲酒運転による４人死傷ひき逃げ事件で，海水浴場での飲酒マナーやその対策を伝えたほか，『連続テレビ小説』「マッサン」の舞台となった余市町の盛り上がりを発信した。

札幌局・岩見沢報道室は，全国唯一の財政再生団体である夕張市の財政再建の取り組みを継続して伝えた。

旭川局・稚内報道室は，８月に礼文島で２人が死亡した土砂災害の現地の状況を詳報するとともに離島の防災上の課題を伝えた。また，ロシアと結んだカニの密漁・密輸を防止する協定で輸入が激減したロシア産カニの現状や，北海道の観光・経済への影響を伝えた。

北海道東部はこの冬，暴風雪や大雪，高潮災害

に相次いで見舞われ，釧路局・根室報道室，北見局・網走報道室，紋別報道室は昼夜を分かたず取材にあたり，中継も交えて地域の状況を伝え続けた。

根室報道室は戦後70年を迎える中，高齢化が進む北方領土の元島民のメッセージを伝える「北方領土　わたしの証言」シリーズを取材・放送するなど，進展が見られない北方領土問題を発信し続けた。

室蘭局・苫小牧報道室は，９月に管内の胆振地方などが記録的な大雨に見舞われ，大雨特別警報が発表された際，苫小牧市内などの被害状況を中継も交えて伝えた。また，10月にはむかわ町で草食恐竜のものとみられる歯の化石が見つかったという話題を発信し，全国的にも関心を集めた。

〔東北〕

東北管内の報道室は，東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興の動きや，日本海側の津波対策，漁業や農業の課題，地域を揺るがした大規模な選挙違反事件などを伝えた。

仙台局・石巻報道室は，災害公営住宅の整備や高台への集団移転など復興の動きを伝え，『NHKスペシャル』では早稲田大学と共同で実施した大規模なアンケート調査で，長期化する避難生活の厳しい現状や産業復興に向けた課題を明らかにした。

仙台局・気仙沼報道室は，月命日を中心に続けられている行方不明者の捜索や発見を待つ家族の思いを取材。また，南三陸町で震災遺構として保存の是非で揺れている防災対策庁舎について，被災者の思いを継続取材し，全国に伝えた。

盛岡局・大船渡・陸前高田報道室は，津波で壊滅的な被害を受けた陸前高田市の復興状況を継続取材し，元の場所へ戻ろうとする被災者や商店主が減っている実情，自治体の企業誘致が本格化し格差が生じている現状を全国発信した。

盛岡局・宮古報道室は，三陸鉄道の全線運転再開や不通になっているJR山田線の一部区間の三陸鉄道への移管について，沿線住民の声や街づくりへの影響などを多角的に伝えたほか，長期化する仮設住宅での生活などの課題を発信した。

盛岡局・釜石報道室は，ラグビーワールドカップの誘致や開催都市決定の際，復興の弾みにしたいという地元の期待を全国中継。被災地だからこそ生まれた新たなエネルギービジネスについても，海外での評価も交えて，国際放送で伝えた。

福島局・郡山支局は，郡山市を中心に原発事故の避難指示区域の一部を担当。14年４月に最も早く国の避難指示が解除された田村市都路地区を追い続けたほか，再生可能エネルギーやロボットなど産業復興にかかるニュース・企画を発信した。

福島局・会津若松報道室は，福島第一原発がある大熊町を担当しており，除染廃棄物の「中間貯蔵施設」受け入れを巡る住民の葛藤を全国ニュースで伝えたほか，避難の長期化に伴う自殺の問題を『クローズアップ現代』で伝えた。

福島局・いわき支局と南相馬報道室は，福島第一原発が立地する浜通りを拠点として，農地除染の課題を国に問うリポートを発信したほか，避難者アンケートで，移住の現実と課題を全国発信し，被災地で模索を続ける人々の姿を追った。

山形局・鶴岡支局は，東京の会社のコールセンターが給与の一部を未払いのまま突然閉鎖した問題を追跡取材し，元従業員のインタビューや誘致した自治体の対応をリポートで伝えた。

山形局・酒田報道室は，日本海で地震が起きると津波が最短で１分以内に到達すると国の検討会が推計した飛島を取材し，住民の不安や津波への備えを伝えた。

山形局・米沢報道室は，大雨で２年連続で川があふれて多くの住宅が浸水した南陽市の状況を全国ニュースで伝え，被害の深刻さや行政の対応を継続的に取材した。

青森局・八戸支局は，震災による漁船の減少で苦境が続くイカ釣り漁や，漁業の風評被害への賠償金支払いの動きを伝えた。流失が相次いだ橋の津波対策について最新の研究成果も報じた。

青森局・弘前支局は，平川市長選挙を巡り，落選した前市長をはじめ定員の４分の３の市議会議員が逮捕された選挙違反事件を伝えた。また，国の史跡の弘前城の大規模な石垣修理の準備状況を報じた。

青森局・三沢報道室は，米軍が三沢基地に大型の無人偵察機を配備する動きや，学校や地域の津波対策の進捗と課題を伝えた。

青森局・むつ報道室は，北海道函館市が大間原発の建設中止を求めた訴訟で，地元の反応を番組などで伝えた。また，農業後継者を家族以外に求める動きを報じた。

秋田局・大館報道室は，タケノコ採りに山に入った親子が遭難し県境を越えた青森県側で10日ぶりに救助されるまでを青森局と連携して取材し，奇跡的な生還を克明に伝えた。

秋田局・横手報道室は，90歳近くになるかやぶき職人が２人の弟子に技を伝えようと奮闘する姿を報告し，技術の伝承が全国的にも難しくなって

いる現状を伝えた。

〔関東甲信越〕

長野局・松本報道室は，死者・行方不明者が63人にのぼる戦後最悪の火山災害となった９月の御嶽山の噴火で，いち早く現場に駆けつけた。被害の状況を取材するとともに，その後も継続的に地元への影響を取材し，全国に伝えた。

長野局・飯田報道室は，リニア中央新幹線の工事を前にした住民の不安や懸念を伝えた。

新潟局・佐渡報道室は「50年に１度の大雨」とされた７月の佐渡島の豪雨の映像を全国に伝えた。

新潟局・長岡報道室は，新潟県中越地震から10年の節目で，中山間地が復興から集落存続に向けて模索する様子や，故郷に帰れず葛藤しながら生きる人たちの姿を10月放送の『クローズアップ現代』などで発信した。

新潟局・上越報道室は，３月の北陸新幹線開業に寄せる地域の期待や，進まない駅前開発の課題などを伝えた。

さいたま局・秩父報道室は11月，地元に伝わる手すき和紙「細川紙」の技術がユネスコの無形文化遺産に登録されたのを受け，地元の反応や技術継承を巡る課題を全国に伝えた。

さいたま局・所沢報道室は，自衛隊機による騒音対策として，所沢市の小・中学校にエアコンを設置するかどうかを巡って２月に行われた住民投票について詳しく伝えた。

さいたま局・熊谷報道室は，14年２月の大雪で被害を受けた県北部の農家の復旧・復興に向けた取り組みを継続して取材し報道した。

さいたま局・春日部報道室は，原発事故の影響で，県東部に避難している人たちが集う様子を取材，ふるさとへの募る思いを伝えた。

前橋局・沼田報道室は，建設か中止かで揺れた「八ッ場ダム」を巡る動きを取材し，１月にはダム本体の建設工事が本格化したことを地元の声などを交えて報じた。

前橋局・両毛広域報道室は，厳しい暑さで知られる県東部で子どもたちを熱中症から守ろうとする小学校の取り組みや，涼を求める人でにぎわう鍾乳洞など，暑さにまつわる地域の動きを多角的に伝えた。

宇都宮局・両毛広域報道室は４月，群馬と栃木の県境で２週間以上燃え続けた山火事の取材にあたるとともに，周辺住民の避難の様子などを全国に伝えた。８月には，竜巻が発生した栃木市などで取材にあたり，住宅や農業ハウスの被害状況を全国に発信した。

水戸局・つくば報道室は，近年，多発する局地的豪雨による土砂災害のメカニズムを解明するため防災科学技術研究所が行っている集中豪雨の再現実験や，大学・企業が進めているロボット開発など，科学技術の最先端の動きを発信し続けた。

横浜局・厚木報道室は６月，小田急電鉄の相模大野駅構内で起きた脱線事故を取材，復旧作業の状況などについて中継を交えて全国に伝えた。

横浜局・小田原報道室は８月，山北町のキャンプ場で雨で増水した川に車が流され親子３人が死亡した事故で，現場の映像をいち早く撮影し放送した。

甲府局・富士吉田報道室は，御嶽山噴火を受けて富士山周辺で進む防災対策を詳しく伝えたほか，「ダイヤモンド富士」など四季折々の美しい映像を数多く全国に発信した。

甲府局・大月報道室はリニア中央新幹線の実験線を巡る動きを伝えたほか，国の名勝・猿橋の紅葉など季節の映像を発信した。

千葉局・成田報道室は12月，韓国からアメリカに向かっていた旅客機が乱気流に巻き込まれて成田空港に緊急着陸した事故で，乗客が撮影した動画を入手するなどして被害の状況を詳細に伝えた。３月には成田空港入り口での検問が利用者の利便性向上のため廃止されたことなどを伝えた。

千葉局・銚子報道室は２月，震災による津波で大きな被害を受けた旭市で「津波避難タワー」が全て完成したことなど，災害への備えが進む被災地の様子を伝えた。また，３月11日には震災から４年を経た被災地の状況や遺族の思いを伝えた。

千葉局・房総報道室は10月，財政破綻の危機に直面する地方自治体の現状と地元住民の戸惑いを伝えた。

千葉局･東葛報道室は，振り込め詐欺について，先進的な取り組みをしている柏市などの取材を通じて，被害届けを出さない「埋もれた被害者」が数多くいる可能性を指摘し，２月に放送された『クローズアップ現代』などで全国に伝えた。

首都圏放送センター・多摩報道室は，俳優の高倉健さんが亡くなる前，国立市の出版社に送っていた戦争に関するメッセージを伝えるとともに，米軍横田基地の騒音問題などを取材・発信した。

〔中部〕

中部地方では，大雨の被害が相次ぎ，各報道室が，最前線で取材にあたった。また，地域に身近な報道者として，災害に関する課題や減災報道に取り組んだ。

富山県魚津市では７月，24時間雨量が観測史上

最多の250ミリ余りに達し，浸水や土砂災害が発生し，富山局・魚津報道室は，被害状況を伝えるとともに，災害を教訓とした避難判断の見直しなどの動きも継続的に報じた。

岐阜局・高山支局は８月，高山市内の川の護岸が崩れたり橋が流されたりした状況を迫真の映像とともに伝えた。

金沢局・能登報道室は８月の大雨で，石川県羽咋市の住宅の裏山が崩れ，女性が土砂に埋もれて亡くなったことを受けて，羽咋市が土砂崩れのおそれがある私有地の補強工事に補助金を支給する方針を固めたことをいち早くつかみ，ニュースで発信した。

愛知県では７月，県東部の水がめとなっている宇連ダムの渇水が続き，名古屋局・豊橋支局は，自治体や住民の動きや節水対策を取材し長期的に放送した。

南海トラフ巨大地震での津波被害が想定される地域を担当する津局・尾鷲報道室は，過去の津波の教訓を語り継ぐ中学生たちの活動を８月にリポートし，番組にも展開した。２月には，避難に時間がかかる高齢者の体力維持のための講座についてリポートした。

名古屋局では，中部空港報道室が1944年の昭和東南海地震の体験者のインタビューを全国放送したほか，岡崎報道室が，45年の三河地震の記憶の継承について伝えた。また，豊橋支局は，災害時に必要な水源の確保に動く自治体の課題や津波避難用の人工高台を造成する動きなどを放送した。

金沢局・小松報道室は３月，日本海側の津波対策として石川県加賀市と福井県あわら市の隣接する２つの地区が行政の壁を越えて互いに協力してハザードマップ作りを行い，国からも県境の防災対策として注目された取り組みについてリポートした。

９月，岐阜県と長野県の県境にある御嶽山が噴火した際，岐阜局・高山支局は，いち早く登山者の救助や捜索の取材にあたったほか，麓の温泉地の住民や観光への影響など，地元に密着した情報を詳細に伝えた。また，名古屋局･小牧報道室は，噴火の被害者遺族に寄り添う企画を発信した。

全国最多の原子力発電所が集中する福井県にとって，原発の再稼働と廃炉を巡る動きが活発化した１年でもあった。２月，国の原子力規制委員会は，関西電力高浜原発の３・４号機について，再稼働の前提となる審査に合格したとする判断を示し，翌月には，高浜町議会が再稼働に同意した。一方，３月には運転開始から40年以上が経過している美浜原発１・２号機と敦賀原発１号機の廃炉が正式に決定した。

福井局・嶺南報道室は，再稼働や廃炉の動きに対する地元の反応などを幅広く取材し，全国の視聴者に伝えた。また再稼働にあたって大きな課題となる原子力防災，特に住民避難の難しさを検証し，リポートした。このほか，規制委員会から原子炉の真下に活断層があると判断され廃炉の可能性がある敦賀原発２号機や高速増殖炉「もんじゅ」で，機器の点検漏れなどが相次いだ問題などについて，地元への影響を中心に取材を継続した。

愛知県東海市では９月，新日鉄住金名古屋製鉄所で石炭塔が爆発して15人が負傷する事故が起き，名古屋局・中部空港報道室は，初動から中継態勢をとり，状況を繰り返し伝えたほか，その後の原因や課題を追跡取材して伝えた。

１月には，愛知県犬山市の国宝・犬山城の城下町で，５棟が全焼する火災が起き，名古屋局・小牧報道室は初動対応だけでなく，延焼が続いた原因と古い街並みの保存と活用の課題について詳しく放送した。

６月，ニホンウナギが絶滅危惧種に指定されたことを受け，名古屋局・岡崎報道室は，全国２位の養殖産地である愛知県の実情やウナギの孵化（ふか）に向けた新たな取り組みついて多角的に取材し放送した。

金沢局・能登報道室は，３年連続で水揚げ日本一となっていた能登沖で捕れるフグについて，ブランド品として売り出そうとする地元の飲食店の新たな取り組みを６月，全国に向け詳しく伝えた。

岐阜局・多治見報道室は９月，秋篠宮眞子さまを招いて開かれた「陶磁器フェスティバル」の取材を通じ，地場産業・陶磁器をさまざまな角度で取り上げたほか，ローカル線を生かした観光地づくりなど，リニア中央新幹線の開業を見据えた新たな街づくりや観光誘致の動きを詳細に報じた。

静岡局・浜松支局は10月，名古屋大学大学院の天野浩教授のノーベル物理学賞受賞決定に際し，浜松市出身の天野さんの家族や恩師，それに出身高校の生徒たちの反応を取材，受賞の喜びに沸く地元の様子を全国に伝えた。

２月，愛知県の中部空港が開港から10年を迎え，名古屋局・中部空港報道室は，国際拠点空港として海外26都市と結ぶ空港について，旅客数拡大に向けた動きや貨物を巡る最新動向など，地域経済に関わる課題と展望を放送した。

３月14日，北陸新幹線が開業し，富山県内では黒部宇奈月温泉・富山・新高岡の３駅の運用が始

まったのを受けて富山局の魚津・高岡の両報道室は，地元の歓迎ぶりや，２次交通整備，新ビジネスなどの動きを開業前から継続的に報じ，開業後も効果の検証を進めた。

３月に石川県で行われた陸上の男子20km競歩で，地元出身の鈴木雄介選手が１時間16分36秒の世界新記録をマークした。金沢局･小松報道室は，選手本人や父親，それに中学時代の恩師であるコーチにインタビューを行い，記録達成の要因となった世界一美しいと呼ばれるフォームの秘密をリポートで紹介した。

３月，三重県四日市市に「四日市公害と環境未来館」が開館し，津局・四日市報道室は，長年にわたって公害の教訓を語り継ぐ活動をしてきた語り部や患者たちの思いを伝えるリポートや番組を放送した。一方で「公害のまち」のイメージを変えようと，ウミガメの産卵場所を保全する活動に取り組む人たちのリポートも９月に放送した。

伊勢神宮では社殿を建て替える20年に１度の式年遷宮が終わり，観光客減少が課題となったため，津局・伊勢報道室は９月，外国人免税制度拡大の効果を零細業者に広げるうえでの課題を指摘するリポートを，12月には観光情報を海外発信する取り組みやイスラム圏から観光客を受け入れる取り組みのリポートを放送し，外国人観光客誘致を進める地域の動きや課題を伝えた。

津局・尾鷲報道室は，人口減少が続く地域の再生の取り組みとして，行政が「空き家バンク」を設けた取り組みや，Iターンで漁師を目指す若者を支える漁協などの取り組み，限界集落を支える地域の取り組みなどをリポートした。

〔近畿〕

近畿地方の各報道室はこの１年，災害報道や緊急報道に加え，地域の課題に密着した取材を続けた。

和歌山局・南紀新宮報道室は，政府が北西太平洋での調査捕鯨を行うか検討を続ける中，４月に古式捕鯨発祥の地とされる太地町から捕鯨船が出港したニュースなど，多くの動きを伝えた。

５月，兵庫県姫路市沖でタンカーが爆発・炎上し，１人が死亡４人がけがをした事故で，神戸局・姫路報道室は，発生から警察によるタンカー会社の捜索，船の引き上げまでの一連の動きを伝えた。また『大河ドラマ』「軍師官兵衛」の放送にあわせて県域のニュース番組内に設けた「官兵衛参上」のコーナーは12月までに計43本を放送。ドラマをきっかけに始まった地域を元気にしようとする各地の動きを伝えた。「軍師官兵衛」に合わせて黒田家発祥の地とされる滋賀県長浜市では博覧会が開かれ，大津局・彦根報道室は８月に入場者が30万人に達したことを取り上げた。

６月，ユネスコの記憶遺産の国内候補として，シベリア抑留と引き揚げの資料が推薦された。京都局･丹後舞鶴報道室は舞鶴引揚記念館を取材し，つらい労働や引き揚げ者の思いを今に伝える資料を企画で放送した。

７月，「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて10年の節目を迎え，和歌山局・南紀田辺報道室は，熊野古道の語り部活動を継承しようとする地元の子どもたちの活動などを伝えた。また，和歌山局・橋本報道室は，開創1200年を前にした高野山の中門再建などの動きを取材した。

８月の記録的な豪雨で，京都府福知山市では，4,600棟が浸水した。京都局・丹後舞鶴報道室と福知山報道室は連携して被害の状況や生活再建に役立つ情報をニュースや企画で伝えた。和歌山局･串本報道室は，秋にかけて相次いだ台風の被害を取材したほか，明治時代に串本町沖で沈没したトルコ軍艦乗組員の追悼行事などを伝えた。

防災月間の９月，京都局・学研都市報道室は，かつて京都府南部に水害が起きた原因を探る中で，川底の位置が周辺の住宅地よりも高い「天井川」の存在に注目し，京都大学・防災研究所を取材して決壊すると濁流が一気に流れ落ちる構造上の問題を指摘した。紀伊半島を襲った豪雨災害から３年を迎え，奈良局・奈良やまと路報道室は，特集シリーズを組んで被災地の現状や復興の動き，防災の取り組みなどを伝えた。

関西空港は開港20年を迎え，大阪局・関空報道室は，アジアからの観光客に沸く空港の現状や経営戦略について番組やリポートで伝えた。関西空港は運営権を民間に売却して１兆円を超える債務を返済する計画を進めているが，進捗状況や課題を継続的に取材し，記者解説などを交えて適宜報道した。

10月には台風19号が近畿に上陸。神戸局・淡路報道室は，土砂が流れ込んだ洲本市の観光ホテルの状況を素早く伝えた。

12月，和歌山県白浜町の動物公園でジャイアントパンダの双子の赤ちゃんが誕生した。和歌山局･南紀田辺報道室は，誕生の瞬間などの貴重な映像を撮影したほか，長期間飼育員に密着し特集番組で飼育の難しさを伝えた。

１月３日早朝，兵庫県の城崎温泉で２人が死亡する火災が発生した。神戸局・豊岡報道室はいち早く現場に駆けつけて映像を撮影，その後も温泉

街の景観保護と防災の在り方を検討する地元の取り組みなどを伝えた。

国宝･姫路城は平成の大修理を終え，３月27日，５年ぶりに大天守が一般公開された。神戸局・姫路報道室は，城や工事を巡る人々の思いや，観光客増加でにぎわう地元の動きを全国に伝えた。

〔中国〕

中国地方では大きなニュースが相次ぎ，各報道室・支局は最前線で取材にあたった。

広島局・福山支局は８月，広島市の大規模土砂災害で救助活動に向かった福山市の医師やボランティアグループを取材した。

広島局・呉報道室は10月，特産のかきの解禁日が遅れることを伝えた。夏場の日照不足が原因で，土砂災害が起きるなど雨が多かったこの年の広島を象徴する出来事の一つだった。

７月，岡山県倉敷市で小学５年の女子児童が連れ去られる事件が起きた。岡山局・倉敷報道室は警察や地域を取材し，女児が無事保護され，容疑者が逮捕された際には，速やかに警察署前から中継で最新の情報を伝えた。

12月，島根県浜田市の沖合で長崎県の巻き網漁船が沈没し，乗組員５人が死亡・行方不明となった。松江局･浜田報道室は捜索や駆けつけた家族，それに原因究明の状況を伝えた。

鳥取局・米子支局は，北朝鮮によって拉致された米子市の松本京子さんの兄が帰国を待つ思いなどを，拉致から37年といった節目に繰り返し伝えた。一方で，隣の境港市の市長が８月，経済視察を目的に北朝鮮を訪問する動きも報じた。

山口局・下関支局は４月，注目されていた鯨の捕獲数がこのシーズン，捕獲枠の４分の１にとどまったという情報を発信した。前月，国際司法裁判所が，日本の捕獲数と捕獲枠に大きな差があることを問題視し，今の方法の調査捕鯨の中止を命じる判決を出していた。

12月，山口県長門市の養鶏場で強毒性の鳥インフルエンザウイルスが検出され，およそ３万3,000羽のニワトリが処分された。山口局･萩報道室は，一連の経緯を全国に伝えたほか,「焼き鳥のまち」として売り出している地元地域が風評被害を防ごうとする取り組みも継続的に紹介した。

〔四国〕

四国管内の各報道室は，相次いで四国に接近・上陸した台風等の災害報道の拠点として大きな役割を果たしたほか，伊方原発の再稼働問題などを伝えた。

伊方町を担当する松山局・八幡浜報道室は，再稼働に向けた動きの取材に力を入れた。愛媛県は社会福祉施設に原発事故の際の避難計画の作成を求めたが，入所者の避難方法など課題が山積していることや，大分県への避難が想定されている半島部の住民たちの避難先が決まっていない問題などを伝えた。一方，八幡浜市は全国でも有数のみかんの産地だが，高齢化や過疎化によって，担い手が不足している。人手を確保しようというNPO団体の取り組みを伝えた。

松山局・新居浜報道室は，10月，18万人が訪れた愛媛県新居浜市の秋祭りで，太鼓台と呼ばれる山車をぶつけ合う危険行為で逮捕者が相次いだことをリポートし，祭りの安全運行を願う市民の思いを伝えた。また，土砂災害を防ぐため愛媛県西条市に設置された「木製小型ダム」について，従来の砂防ダムより低予算で設置できる利点などについてリポートした。

松山局・今治報道室は，広島県と愛媛県を結ぶしまなみ海道を走る国際サイクリング大会を取材した。サイクリングブームの中，世界中から7,000人余りの愛好家が参加する大きなイベントになり，地元の住民たちが力を合わせてもてなし，成功させる様子を伝えた。

高知県西部を担当する高知局・くろしお報道室は８月，台風11号の影響で約1,000ミリの雨が降り，一時，氾濫危険水位を超えて洪水のおそれが高まった四万十川の様子や避難した住民の声などを伝え，防災・減災報道に努めた。

徳島局・阿南報道室は８月，台風11号による大雨で中心部一帯が浸水した那賀町や，中学校校舎の２階まで浸水する被害が出た阿南市などで，災害発生から復旧までの動きを詳しく伝え続けた。

四国遍路が開かれて1,200年とされた14年，管内に多くの札所をかかえる高松局・丸亀報道室は７月，日本と韓国の有志が共同で遍路小屋を設置したニュースや９月，観音寺市の彫刻家がスペインの遍路道に仏像を彫った話題などをリポートし，地域の盛り上がりを伝えた。

〔九州・沖縄〕

５月11日，宮崎県内を走行中のバスの中で男がはさみのようなものを持って一時, 立てこもった。バスは，熊本県や鹿児島に接するえびの市に停車したため，熊本局・人吉報道室が九州自動車道を使って現場に到着，スマートフォンで映像を撮影し，いち早く全国に伝えた。

７月７日，台風８号の接近で沖縄県内に台風では初めて特別警報が出され，36人がけが，住宅76棟で床上浸水の被害が出た。沖縄局・宮古島報道

室は最初に特別警報が出た宮古島で防災・減災に向けて取材を続け，情報を発信した。

さらに，８月と10月には，鹿児島に台風が上陸，奄美群島を受け持つ鹿児島局・奄美報道室は，地域の現状を取材して全中や管中で繰り返し中継を行い，防災情報の発信に努めた。

７月，自衛隊に導入される新型輸送機・オスプレイの配備先に佐賀空港が浮上し，佐賀県など関係機関への協力要請が始まった。空港からおよそ４kmの福岡県柳川市が悪天候の場合の飛行ルートとなることが示され，福岡局･大牟田報道室は，12月に初の住民説明会が開かれるまで，柳川市の対応や住民の動きなどを詳しく伝えた。

８月，米軍普天間基地の移設計画を進める政府は，沖縄県名護市辺野古沿岸部の埋め立て予定地で，海底のボーリング調査を始めた。本島北部と中部を担当する沖縄局の名護と沖縄両報道室が中心になって取材を進め，調査の開始，現場での作業，さらに県内移設に反対する市民グループの動きをきめ細かく伝えた。

９月，川内原発の再稼働を巡り，原子力規制委員会は，安全対策が新しい規制基準に適合していると判断したのを受け10月から11月にかけて鹿児島県と地元・薩摩川内市は再稼働に同意した。鹿児島局・薩摩川内報道室は地域の受け止めや課題をきめ細かく取材し，避難計画を検証する番組などを発信した。

御嶽山の噴火から10日後の10月７日，活火山の霧島連山で登山客へのヘルメットの貸出が始まり，鹿児島局・空港報道室は，貸し出しの様子や反応などを取材し，火山への備えを伝えた。さらに硫黄山の火山活動の高まりから周辺の立ち入りが規制されるようになったことも取材し，啓発的な情報を発信した。

10月，長崎では45年ぶりとなる国体「長崎がんばらんば国体」が諫早市をメイン会場に開催された。20年の東京オリンピック開催が決まり，若手選手に注目が集まる中，長崎局・諫早報道室は，取材拠点として開会式の様子や五輪を目指す若手選手の熱気を全国に伝えた。

15年２月12日，海上自衛隊鹿屋基地のヘリコプターが行方不明になり，翌日，宮崎県えびの市の山中で発見，乗員３人全員の死亡が確認された。宮崎局・都城報道室は，行方不明の情報を得て，いち早く現場周辺に駆けつけ，「ドスンという大きな音を聞いた」という住民のインタビューを撮影，さらに自衛隊員が手がかりを求めて聞き取りを行う様子などを取材し伝えた。

北九州市と鹿児島市を結ぶ東九州自動車道は，３月に福岡県豊前市から大分県宇佐市までの区間が開通するなど，北九州市と宮崎市の間がほぼ高速道路でつながった。沿線を担当する北九州局・行橋報道室と大分局の中津報道室と佐伯報道室は，開通に向けた動きや課題を取材し，観光や物流の促進を通して地域振興を期待する人たちの動きを詳しく伝えた。

４．海外総支局

15年３月31日現在，４総局・25支局，計29の総支局に計80人の特派員がいる。

各総局がカバーする主な地域は，アジア総局がアジア・オセアニア。中国総局が中国・台湾・モンゴル。ヨーロッパ総局が欧州・ロシア・中東・アフリカ。アメリカ総局が南北アメリカとなっている。

アジア総局管内では，南シナ海の島々の領有権を巡って中国が海洋進出の動きを強め東南アジアの一部の国々と対立を深める実態や，アメリカとフィリピンの新たな軍事協定の動きなどを伝えた。また，タイでは，14年５月，軍によるクーデターが起き，その後の暫定政府発足の動きや経済状況を取材。さらに，インドのモディ政権の誕生，インドネシアのジョコ大統領，アフガニスタンのガニ大統領の就任など，各国の政権交代を詳しく伝えた。

韓国では，14年４月，南部で旅客船が沈没し，修学旅行生ら295人が死亡する事故が起きた。パク・クネ政権はこの事故の対応や高官人事などを巡って批判を受け，支持率が低下した。こうした内政課題とともに，対中国関係を重視する一方でいわゆる従軍慰安婦問題などを巡って日本批判を続ける外交姿勢を継続的に伝えた。

北朝鮮は，14年５月に行われた日本との政府間協議の合意に基づき，拉致被害者などの再調査を行うと表明した。日朝協議や北朝鮮の思惑について，北朝鮮国内からの中継も含め，詳しく伝えた。

中国総局管内では，習近平政権の反腐敗キャンペーン，天安門事件25年，人権活動家への弾圧，海洋進出，中国主導のアジアインフラ投資銀行設立の動きなど，国際社会で影響力を強める中国の動向を多面的に伝えた。日中関係で，中国側は歴史問題などで日本に対しけん制を続ける一方で，11月のAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の際，久しぶりに首脳会談が行われ，関係改善に向けた動きもあった。情報取材に基づき，中国側の思惑を分かりやすく読み解いて伝えた。また，香

港で学生たちが民主的な選挙を求めて14年10月から２か月余り続けた抗議行動を，中継を交え取材班が詳しく伝えた。

ヨーロッパ総局管内では，14年６月，シリアとイラクをまたがる地域に過激派組織IS・イスラミックステートが一方的にイスラム国家の樹立を宣言し，地域の安定を脅かす事態となった。15年１月から２月にかけ，ISに拘束されていた日本人２人が殺害された。取材班を展開して最新状況を伝えるとともに，総力をあげてISの実態に迫った。また，14年７月のイスラエルによるガザ地区への軍事侵攻，イランの核開発問題を巡る最終合意に向けた交渉を詳しく伝えた。アフリカ地域では，14年８月から西アフリカを中心にエボラ出血熱の感染が拡大。ナイジェリアでは，イスラム過激派組織「ボコ･ハラム」が勢力を拡大し，14年４月，200人以上の女子生徒を誘拐するなど新たな脅威となった。アフリカに新設されたヨハネスブルク支局の記者が安全確保に努めながら現地取材を展開した。

ヨーロッパでは，14年９月のイギリスからのスコットランド独立の是非を問う住民投票や「ベルリンの壁」崩壊25年後の欧州ロシアの動向を重点的に取材した。また，15年１月のフランス・パリの新聞社などの襲撃事件や，15年３月，フランス南部でドイツ機の副操縦士が旅客機を故意に墜落させたと見られる事件で，機動的に取材班を展開し，詳しく伝えた。

ウクライナでは，東部で親ロシア派と政府軍の戦闘が激化し，14年７月，マレーシア航空機が撃墜され，298人が犠牲となった。ロシアに対する欧米や日本の制裁の動きとその影響，ロシアの強硬姿勢や停戦協議などを多角的に伝えた。

アメリカ総局管内では，14年11月，連邦議会の中間選挙で野党・共和党が下院に加えて上院でも８年ぶりに多数派となった。選挙戦のほか，開票の速報態勢をとり，詳細に伝えた。また，ISやウクライナ情勢などを巡って「弱腰」と言われるオバマ外交の在り方，TPP（環太平洋パートナーシップ協定）や沖縄の基地問題についても精力的に取材した。

海外総支局では，国際放送の拡充に合わせて，現地のニュースをきめ細かく出稿し，NHKの海外発信力の強化に貢献している。

幅広いNHKのネットワークを生かして，グローバル化が進む世界の最新情勢や，日本の参考となるような海外の事例などを，正確かつ速やかに視聴者に伝えようと努めている。

NHKの海外総支局（15年３月31日現在）

■アジア総局（バンコク）：マニラ，ジャカルタ，ハノイ，ニューデリー，イスラマバード，シンガポール，シドニー，ソウル

■中国総局（北京）：上海，広州，香港，台北

■ヨーロッパ総局（パリ）：ロンドン，ベルリン，ウィーン，カイロ，ドバイ，ヨハネスブルク，エルサレム，テヘラン，モスクワ，ウラジオストク

■アメリカ総局（ニューヨーク）：ワシントン，ロサンゼルス，サンパウロ

以上の29総支局に，記者，制作記者，ディレクター，カメラマン，技術担当，経理担当，計80人の特派員がいる。

Ⅵ．気象情報

14年度，総合テレビの気象情報の放送時間は，平日は１日およそ１時間20分で，気象予報士の資格を持つ12人の気象キャスターが各番組に出演した。台風や大雨災害などの際には定時ニュースのほか特設ニュースでも気象解説を行い，防災・減災のための注意点などを伝えた。新しい気象画面の導入も進め，雨量を250メートルメッシュで表示できる「高解像度降水ナウキャスト」を９月から導入し，台風や局地的な大雨の際などに活用した。風向・風速の予測と雨・雪の予測を重ねて表示できる画面も開発し，１月から運用を始めた。

Ⅶ．スポーツ

１．FIFAワールドカップ2014

６月12日～７月13日（現地時間）の１か月間，ブラジルでFIFAワールドカップが開催された。大会には日本を含む32チームが参加した。１次リーグは４チーム×８グループの総当たり戦，以降は決勝トーナメントで，３位決定戦を含め全64試合が12会場で行われた。

ザッケローニ監督の率いる日本は，１次リーグ初戦のコートジボワール戦では，本田圭佑のゴールで先制したものの，後半２点を失って逆転負け。続くギリシャ戦は，無得点で引き分け。波に乗れない日本は第３戦・コロンビア戦でも４失点で敗れ，１勝も挙げることなく大会を去った。

大会を制したドイツはベテランFWクローゼが大会歴代得点王となる通算16ゴール目を挙げるなど順調に勝ち進み，決勝ではGKノイアーらの活躍でFWメッシ擁するアルゼンチンを延長戦の末，

振り切った。大会MVPはメッシ，得点王はコロンビアの新星ハメス・ロドリゲスが獲得した。

２．AFCアジアカップ2015

１月９日から31日まで，オーストラリア５都市でアジアカップが開催された。

日本はW杯後にアギーレ監督が就任，新体制で大会に臨んだ。１次リーグは３連勝で首位突破と，快調な滑り出しをみせたが，準々決勝のUAE戦では相手の堅い守りに苦しみ，延長戦まで戦って１-１。日本はPK戦で本田圭佑・香川真司の２人が失敗，ベスト８で姿を消し，連覇はならなかった。

決勝はオーストラリアと韓国が対戦し，延長戦までもつれ込む接戦となったが，大会無失点を続けていた韓国から２点を挙げた開催国オーストラリアが，初タイトルを獲得した。

３．Jリーグ

JリーグはFIFAワールドカップの中断期間を挟んで３月から12月にかけて開催された。

J1は序盤，セレッソ大阪が話題の中心となった。ウルグアイから加入したFWフォルランは10年ワールドカップMVP。Jリーグ全体でも久々の大型補強で，同じチームの日本代表FW柿谷，MF山口らとのプレーには注目が集まった。しかし成績にはつながらず，シーズン終盤にはチーム６年ぶりの降格が決定した。浦和レッズは新加入のFW興梠ら強力攻撃陣で勝ち点を重ね，首位を快走し，夏場には勝ち点で２位以下に大差をつけ，独走の気配を見せた。しかし後半主力選手の負傷離脱もあり，急激に失速し，優勝を逃す結果となった。

昇格初年度のガンバ大阪は，シーズン序盤は苦戦が続き，６月まで低迷していたものの，中断期間明けからエースFW宇佐美や途中加入のFWパトリックが節目の試合で活躍し，後半戦17試合でわずか２敗という好成績で，逆転優勝を達成した。ガンバ大阪はリーグ戦のほか，Jリーグ杯・天皇杯でも優勝し，J1昇格初年度に三冠獲得という記録的なシーズンとなった。

また，ピッチ外では，３月に埼玉スタジアムで外国人排斥とも受け取られる横断幕が掲げられたことをきっかけに，差別撤廃への取り組みがクローズアップされた。

J2は湘南ベルマーレが圧倒的な強さで優勝，１年でのJ1復帰を決めた。昇格残り２枠は，２位松本山雅と，プレーオフを制した６位モンテディオ山形が獲得した。

新設されたJ3は，U-22選抜を含む12チームでリーグ戦を実施した。初代王者に輝いたツエーゲン金沢がカターレ富山と入れ替わって初のJ2昇格を決めた。J2・J3入れ替え戦はカマタマーレ讃岐が長野パルセイロを下し，J2残留となった。

４．野球

プロ野球は３月28日に開幕。４年連続でセ・パ同時の開幕となった。パ・リーグはソフトバンクがシーズン最終戦で２位オリックスとの直接対決を延長戦の末に制し３年ぶりの優勝を果たした。オリックスはゲーム差なしの２位と躍進した。３位は日本ハム，以下ロッテ，西武，楽天だった。

セ・リーグは巨人が２位阪神に７ゲーム差をつけ，３年連続36回目のリーグ制覇を果たした。３位の広島は２年連続でクライマックスシリーズ進出。４位以下は中日，DeNA，ヤクルトだった。

クライマックスシリーズのファーストステージ，パ・リーグは，３位日本ハムが２位オリックスを２勝１敗で下してファイナルステージへ進んだ。ファイナルステージは最終の第６戦までもつれ込む激戦となったが，ソフトバンクが通算４勝３敗（アドバンテージの１勝を含む）で日本ハムを退け，３年ぶりの日本シリーズ進出を決めた。

セ・リーグのファーストステージは阪神が広島を１勝１分で下し，ファイナルステージで巨人に挑んだ。勢いに乗る阪神は敵地で巨人に４連勝，９年ぶりとなる日本シリーズ進出を決めた。

日本シリーズはパ・リーグ覇者のソフトバンクがセ・リーグ２位から勝ち上がった阪神を４勝１敗で退け，６回目（南海，ダイエー時代を含む）の日本一に輝いた。勇退が決まっていた秋山幸二監督は地元ヤフオクドームでの胴上げで有終の美を飾った。

センバツ高校野球は龍谷大平安（京都）が決勝で履正社（大阪）との35年ぶりの近畿勢対決を制し，初のセンバツ優勝を果たした。夏の甲子園では大阪桐蔭が４対３で三重を下し２年ぶり４回目の栄冠に輝いた。三重県勢として59年ぶりに決勝進出，初優勝を狙った三重はわずかに及ばなかった。

全日本大学選手権は，東海大学が神奈川大学を２対０で破り13年ぶり４回目の優勝を飾った。リーグ戦から公式戦18連勝で大学日本一へと駆け上がった。

社会人野球の都市対抗は，西濃運輸（大垣市）が富士重工（太田市）を下し33回目の出場で初優勝を果たした。秋の日本選手権はトヨタ自動車が

セガサミーを５対０で下して，３大会ぶり４回目の優勝を飾った。

５．大リーグ

ワールドシリーズは青木宣親の所属するカンザスシティ・ロイヤルズとサンフランシスコ・ジャイアンツが対戦し，最終第７戦までもつれ込んだ結果，ジャイアンツがここ５年で３回目のチャンピオンタイトルを獲得した。青木はシーズン終了後，ジャイアンツに機動力野球の担い手として高い期待を受け，移籍することになった。

2013シーズンに続いてニューヨーク・ヤンキースでプレーしたイチローは代打や守備のみでの出場が多く満足のいくプレーができなかった。しかし出場すればヒットを打つ確率は高く，大リーグ14年間で通算2844安打を達成した。

2013シーズンワールドチャンピオンのボストン・レッドソックスはチームの攻守がうまくかみ合わず2014シーズンは地区最下位となったが，上原浩治と田澤純一はリリーフ投手陣の中心として活躍した。上原は守護神の役割を果たし，2014シーズンはオールスターゲームでも初めてプレーした。田澤は抑えの上原につなぐセットアッパーとして，150kmを超える速球を生かした力強い投球が光った。

ヤンキースの田中将大は大リーグ１年目は２桁勝利をあげる活躍を見せたが，後半は右肘の故障により約２か月間，登板出来なかった。

テキサス・レンジャーズのダルビッシュ有はシーズン前半はオールスターゲームに選ばれるなど順調な活躍を見せていたが，後半は右肘の違和感を訴え戦線離脱した。

マリナーズの岩隈久志は安定感のあるピッチングでメジャーを代表する投手へと成長を続けた。

シカゴ・カブスの和田毅は，大リーグで初勝利をあげた。同じく藤川球児は13年に行った右肘手術からの再起を目指すシーズンとなった。

６．大相撲

14年度の大相撲界は無敵の横綱白鵬を中心に，遠藤，逸ノ城，照ノ富士と若手力士が次々に台頭した。「相撲女子」という言葉も生まれた。

５月の夏場所は新横綱・鶴竜の誕生に期待が高まったが鶴竜は精彩を欠き，横綱昇進後は優勝を果たせていない。夏場所から６連覇を果たした白鵬は九州場所で昭和の大横綱・大鵬の32回優勝に並ぶと，初場所で記録を更新した。春場所でも優勝し，大鵬の記録に並ぶ２回目の６連覇を果たした。しかし審判部批判やメディアとの確執など土俵外での話題も多かった。

14年度当初は人気を一身に集めた遠藤は，幕内上位の壁は厚く，期待に応える成績は残せない場所が続いた。モンゴル出身の逸ノ城は，圧倒的な強さと素朴なキャラクターのギャップで話題をさらった。また春場所で白鵬に勝った照ノ富士にも期待が集まった。

７．ゴルフ

男子ツアーでは，松山英樹，石川遼の２大スターがアメリカPGA出場を優先したため，ベテラン勢が中心となった。79回目を数えた日本オープンは千葉県の千葉カントリークラブ梅郷コースで開催された。

マスターズチャンピオンのアダム・スコットがJGA特別推薦で緊急参戦し，首都圏近郊ということもあり，注目度の高い大会となった。池田勇太と片山晋呉が最終組でしのぎを削り，最終的には選手会会長でもある池田勇太が初優勝を果たした。

日本女子オープンは琵琶湖カントリー倶楽部で開かれた。アメリカツアー参戦中の宮里美香やアマチュア優勝を果たした勝みなみが出場し注目を集めた。しかし05年の優勝から連続出場していた宮里藍は15年度アメリカツアーのシード権獲得のため不参加となった。ディフェンディングチャンピオンの宮里美香は最終日にスコアを崩し，５打差を逆転したテレサ・ルーが初の栄冠を獲得した。

日本選手最上位にはアマチュアの高校２年生永井花奈が入りローアマチュアも獲得，日本女子の層の厚さを印象づけた。

兵庫県で行われたシニアオープンは，13年，メジャータイトルを手にした井戸木鴻樹と倉本昌弘の最終組対決となった。７位タイからスタートの渡辺司が猛追したが，倉本がバーディーで締め，２回目の優勝を手にした。

番組制作の委託

１．関連団体等への番組制作委託

NHKは，質の高い放送番組の安定的確保を図るとともに，外部の専門的能力を効果的に活用することで，番組の一層の多様化を推進する視点から，関連団体へ番組制作委託を行っている。

2014年度も，NHKエンタープライズ・NHKエデュケーショナル・NHKグローバルメディアサービスに，大型企画をはじめ各分野の番組制作を委託，NHKサービスセンターに広報番組の制作を委託，NHKプラネットに全国および地方番組の制作を委託，日本国際放送に国際番組の制作業務を委託した。

また，NHKでは，多様な番組を送り続けるために，関連団体を通じて番組制作会社への放送番組制作委託も行っており，外部のさまざまな制作パワーを効率的に活用している。

14年度の主な番組制作会社への制作委託

○地上波

総合では，『タイムスクープハンター』『キッチンが走る！』，Eテレでは『ETV特集』『Eテレ0655・2355』などを制作・放送した。

○衛星波

BS1では，『ドキュメンタリーWAVE』『チャリダー★』，BSプレミアムでは，『世界で一番美しい瞬間（とき）』などを制作・放送した。

２．番組制作会社への直接委託（外部制作委託・本体）

番組制作会社が，関連団体を経由することなく，直接編成部門に提案する窓口として，06年６月に編成局内にソフト開発センターが設立され，12年６月からは組織改正に伴いコンテンツ開発センターがその窓口になった。特集番組や新番組の提案について，NHK，NHKの関連団体，それに番組制作会社の３者が，番組の企画提案や制作・演出手法を競い合うことで，より高品質，効率的，多様な放送番組を創造することを目的としている。

14年度は，「企画競争」として１年間で12回の募集を行った。テーマや期間を決めず通年募集している企画競争を含めると，参加した番組制作会社は延べ413社で，850件の企画が寄せられた。企画競争から生まれた番組としては，『総合診療医ドクターG』（総合：金，22:00），『タイムスクープハンター』（総合：土，23:30），『ドラマ10』「聖女」（総合：火，22:00），『プレミアムドラマ』「昨夜のカレー、明日のパン」（BSP：日，22:00），『プレミアムよるドラマ』「おわこんTV」「タイムスパイラル」「キャロリング～クリスマスの奇跡～」（BSP：火，23:15）などを番組制作会社制作の定時番組として放送した。

番組制作会社との委託契約などにあたっては，下請法に準拠した手続きをとっている。また，「番組制作会社との取引基準」に基づき，公共性・透明性を高めるとともに，「NHK放送ガイドライン」を周知し，公共放送としての質の確保に努めている。

情報番組

Ⅰ．経済・社会情報番組

経済・社会情報番組部は，14年度も，時代と人に向き合う番組を放送し続けてきた。

14年度は『クローズアップ現代』『サキどり↑』『週刊　ニュース深読み』『プロフェッショナル仕事の流儀』『ドキュメント72時間』（以上，他部局との共管番組含む）と，後期から『ファミリーヒストリー』も加わり，６番組を定時番組として担当した。また，『NHKスペシャル』をはじめとする特集番組も多数制作した。

（１）定時番組

『クローズアップ現代』は22年目，「“いま”を切り取り“時代”を見つめる」という基本方針を堅持し，さまざまな話題に切り込んだ。特に少子高齢化と人口減少の構造的課題を主要な柱として，地域の現状と解決への模索を継続的に放送。高齢者ドライバーの事故を防止する対策，孤立し犯罪を繰り返す高齢者を支える地域の取り組み，認知症の早期医療とケアのアプローチ。そして中小企業連携による地方再生の動きや，ふるさと納税ブームの背景など，日本社会が直面する課題を多面的に掘り下げ，解決の糸口を探った。もう一つの柱は，子どもに関わる企画。子どもの貧困，少年犯罪と愛着形成，急増する保育園と住民トラブル，不登校の陰にある睡眠障害の問題など，子どもたちを取り巻く環境の変化と，心身に与える影響を伝えた。さらに緊急報道対応にも積極的に注力し，御嶽山噴火，広島土砂災害，相次ぐ豪雪被害などの制作に携わった。

『プロフェッショナル　仕事の流儀』は，あらゆる分野で活躍する一流の“プロ”の仕事を徹底

的に掘り下げるドキュメンタリー番組。14年度は，プロサッカー選手・本田圭佑，競泳選手・北島康介，メジャーリーガー・上原浩治などのトップアスリートをはじめ，巨大コンテナの積み降ろしを担うクレーン運転士，宇宙工学者，ガーデンデザイナー，かけつぎ職人など，さまざまなプロフェッショナルを通して，仕事の奥深さと哲学を伝えた。また，「“雪と闘うプロ”スペシャル」，「“清掃のプロ”スペシャル」などの特別番組も放送した。

『サキどり↑』は，新しいサービスやライフスタイルを紹介し，暮らしを応援する経済番組。「養殖魚ビジネス」「農業ベンチャー」など第一次産業の最新の取り組みをはじめ，「ヘルスツーリズム」や「ジビエブーム」などのトレンド，そして「ロボット共生時代」「休眠特許の活用」など，日本のもの作りの動向に至るまで，生活者の目線で新しい価値観やビジネスの潮流を伝えた。

『ドキュメント72時間』は，さまざまな場所に３日間密着し，そこを行き交う人々の人間模様や知られざるドラマを記録するドキュメンタリー番組。青森県の恐山や，千葉県の巨大総合病院の小さなコンビニ，さらには国道16号線250㎞の完全走破など，全国各地にカメラを据え，人々のリアルな暮らしを切り取った。

『ファミリーヒストリー』は，著名人の家族の歴史を取材し，本人も知らないルーツや真実に迫る番組。豪農の家に育ち栄光と没落を経験しながら，さまざまな苦難を乗り越え息子を育てた武田鉄矢の母親。満州医科大学出身のエリート医師で，終戦で全てを失いながらも医師としての覚悟を最期まで貫いた梅宮辰夫の父親の物語など，時代に翻弄されながら力強く生き抜いた人々の「家族の絆」を描いた。

（２）特集番組

経済・社会情報番組部では，ジャーナリスティックな切り口で，多彩な特集番組を制作してきた。

14年度は『NHKスペシャル』11本のほか，BSP『踊る阿呆　森山未來・自撮り365日』『年末スペシャル　朝まで！ドキュメント72時間』などの特集番組を制作。夏期特集『君が僕の息子について教えてくれたこと』では，自閉症の東田直樹さんと彼のエッセイを英訳したイギリスの作家との交流を通して，自閉症の子どもの知られざる世界観と家族の希望の物語を描き，大きな反響を呼んだ。番組は文化庁芸術祭大賞を受賞。

『NHKスペシャル』「民族共存へのキックオフ」では，祖国のボスニア・ヘルツェゴビナをW杯初出場に導いたオシム氏に密着。長年にわたる民族紛争により今も根深い対立が続く中，敵同士だった民族を団結させ，代表チームへと導いたオシムの苦闘に迫り，ボスニア初出場に託された民族共存への思いを描いた。

定時番組からの特集展開としては，『クローズアップ現代』からの継続取材で『NHKスペシャル』「子どもの未来を救え～貧困の連鎖を断ち切るために～」を制作。子どもの６人に１人が“貧困ライン”以下で暮らす現状に迫り，親から子の世代への貧困の連鎖を断ち切るために，どのような対策が必要かを伝えた。

Ⅱ．生活・食料番組

生活・食料番組部は，現代社会のさまざまなテーマを「生活者の視点」から見つめ，視聴者の関心や疑問に答える情報番組を制作した。

14年度は，月～金曜朝の『あさイチ』，月～水昼の『ひるブラ』，日曜朝の『うまいッ！』，土曜夕方の『マサカメTV』を定時番組として放送した。

（１）定時番組

『あさイチ』は，視聴者が“一番欲しい”“もっと知りたい”と考える情報がたっぷり詰まった，“市場”のような活気ある番組。５年目を迎えた。主なターゲットは家庭を守る主婦。長引く不況やセーフティネットの綻びによるかつてない不安な時代を賢く生きていくための「信頼できる情報」を，いち早く家庭に届けてきた。社会問題，政治の話題から，エンタメ，生活実用情報までを，ニュースとはひと味違う「生活者の視点」から，掘り下げて伝えた。また，視聴者からの質問や意見をファックスやメールで受け付け，生放送の中で積極的に紹介。番組は視聴者の身近な存在となり，確実な支持が得られている。

中継番組『ひるブラ』は，「行ってみたい！」「見てみたい！」「食べてみたい！」四季折々の姿を見せる全国各地の“旬”な場所を訪ね，その地域の魅力を生中継でダイレクトに届けた。東京のスタジオ出演者が画面の小窓で登場し，率直な質問や反応を投げかける演出スタイルが定着した。

土曜夕方の『マサカメTV』は，一流の達人がもっている，アッと驚く“まさか”の「目の付けどころ！」，“マサカメ”をクイズ形式で紹介しながら「物事の意外な着眼点」を楽しむ番組。どんなマサカメなのか，親子で気軽に視聴できる番組を目指し，定着している。

『うまいッ！』は“うまいッ！”と思わず叫び

たくなる日本各地の絶品食材をテーマに，おいしいものを届けたいと奮闘する生産者に密着。味を極める技や工夫をひもとくとともに，健康効果や歴史文化などのうんちく，とっておきの調理法を紹介。多角的に食材の魅力を描き，食を支える人々と産地を応援する番組として定着し，好評を得ている。

（２）特集番組

朝の情報番組『あさイチ』を「仕事で見られない」「夫にも見せたい」との声に応え，夜に放送。『あさイチ』で放送し反響が大きかったテーマを，さらに深く取材し，『夜だけど…あさイチ』「どうする？家庭内別居SP」（8.11），「母が重たいSP」（12.27）として放送し，他番組とも積極的にコラボ，新たな視聴者層の獲得に貢献した。

『うまいッ！』は視聴者層の拡大を目指し，夏の22時台に『うまいッ！夏スペシャル「世界が絶賛！ニッポンのビール」』（8.15），秋の18時台に『うまいッ！秋スペシャル　オドロキ☆肉の新世界』（11.24）を放送。夜間と夕方，それぞれの視聴者層に向けて，ブームを呼んでいるクラフトビールや熟成肉・ジビエの魅力を，海外取材も交えて楽しく分かりやすく紹介した。

番組の認知度を高め，さまざまな年齢層の視聴者を取り込もうと，『マサカメTV　びっくり映像満載！夏休みスペシャル』（8.19）を放送。不思議な動画の撮影術のからくりをやさしい科学とともにひもとき，都内の川に生息する巨大魚を葉っぱで釣り上げるという冒険パートを織り交ぜ，肩の凝らないドキュメントを楽しんでもらうとともに，知られざる都会の生き物事情を伝えた。

Ⅲ．科学・環境番組

科学・環境番組部は，総合テレビ・Eテレ・BSプレミアムで12タイトルの定時番組と，NHKスペシャル13本など数多くの特集番組を制作。「科学報道」「科学ロマン」「生活科学」を３本柱として，先端技術，医学，宇宙，自然，健康，食品などの最新情報を科学的な視点で分かりやすく伝えた。継続して取り組む東日本大震災関連では，地震，津波や原発事故について科学の切り口で迫り，リスクに強い社会の構築に貢献した。

（１）定時番組

放送開始から20年目を迎えた『ためしてガッテン』は，視聴者の役に立つ生活科学番組として評価され，14年度は海外にも取材・ロケを広げた。『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』『コズミックフロント』は，圧倒的な映像と迫力あふれるCGをさらにスケールアップ。Eテレの『サイエンスZERO』は，科学の最前線を分かりやすくかつ深く掘り下げて伝えた。国内外の受賞も相次いだ。

①総合テレビ

『ためしてガッテン』では，20年目の特集として「厳選ワザ39連発SP」を制作。「撲滅！しつこいひざ痛」「風邪はノドからSP」「謎の肺炎が急増中」「ついに耳鳴りが治る」「新常識“伸ばさない”ストレッチ」など，最新の医学情報を分かりやすく伝え，視聴者から高い支持を得た。また「とろろ昆布　ネバネバパワー」「最強野菜らっきょう」など地方局と連携し，各地の食材の魅力を発掘した。

『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』では，世界の動物を追い求め，「ハチクマ軍団VSスズメバチ軍団」「小さなカニの大家族」「大西洋縦断！世界最大のウミガメ」など，自然のドラマを粘り強く追跡して映像化した。「臆病？大胆？イノシシ」「ニホンカモシカ　雪崩とともに生きる！」「シリーズ東京湾」など，日本の生きものたちの意外な素顔に迫った回も人気を博した。

また『クローズアップ現代』は，科学，災害，野生動物被害など幅広いテーマで11本制作。「STAP細胞」「論文不正」では，日本の科学研究が抱える問題に向き合い，「韓国船沈没事故」「デング熱」「御嶽山噴火」といった緊急報道も積極的に取り組んだ。

②Eテレ

日本唯一のウイークリー本格科学番組『サイエンスZERO』では，「“ぼんやり”に潜む謎の脳活動」「老化の謎に迫る」「恐竜の細胞が見える！？」など医学から考古学，宇宙など話題性の高い科学情報を，深く分かりやすく伝えた。また，原発問題を検証する「シリーズ原発事故」や，タイムリーな「ノーベル賞特集」「噴火の前兆は捉えられるか」などの企画を放送した。

③BSプレミアム

『コズミック　フロント』では，最先端の宇宙の研究をダイナミックなCGを織り交ぜて映像化。「超新星1987A」「エレメントミステリー」や４Kで制作した「若田飛行士が見た“宇宙絶景”」など本格宇宙番組としての神髄を発揮した。また，宇宙で一番を探す「宇宙でイチバン！」や，「なんだこりゃ！奇妙な星の一生」では新機軸の演出に挑んだ。『ワイルドライフ』はダイナミックな世界の自然を記録し，一部は４Kでの制作に取り組んだ。

（２）特集番組

14年度の特集番組は，『NHKスペシャル』を13本放送したほか，総合テレビの特集やBSPの『ザ・プレミアム』も意欲的に制作した。また，国内外の映像祭で科学番組の受賞が続いた。

『NHKスペシャル』では，人間の細胞の神秘に迫った大型シリーズ「人体　ミクロの大冒険」（全３回）を放送。４K高精細CGを使った作品は国内外で注目され，科学技術映像祭部門優秀賞を受賞した。また，日本の科学界を揺るがせた「調査報告　STAP細胞　不正の深層」や，医療をテーマにした「認知症をくい止めろ」「医療ビッグデータ」を制作，腸内細菌の最新知見を高精細CGで描いた「腸内フローラ」は科学ジャーナリスト賞を受賞した。また，知床の自然を舞台にした「知床　ヒグマ　運命の旅」は科学技術映像祭部門優秀賞を受賞。13年度に制作した番組でも，老植物写真家の日々の営みを追った「足元の小宇宙」が放送文化基金賞最優秀賞，「世界初撮影！深海の超巨大イカ」が英・ワイルドスクリーンフィルムフェスティバル最優秀賞を受賞。NHK科学番組の高い制作力と技術力が国内外で高く評価された。

さらに，東日本大震災以来制作を続けている，地震や原発事故を検証するシリーズでは，40年に及ぶ福島第一原発の処理を追う「シリーズ廃炉への道　第１回」や，放射能大量放出のメカニズムに迫った「メルトダウン　File.5」「史上最大の救出」を放送。そのほかにも「緊急報告　広島　同時多発土砂災害」「緊急報告　御嶽山噴火」にも参加し，災害に強い社会を作る公共放送の使命を果たし，科学ジャーナリズムとしての真骨頂を発揮した。

総合テレビの特集では，新種発見に挑む『ダーウィンが来た！夏のスペシャル「ミラクル・スピーシーズ」』や，火山島の噴火現場の撮影に挑戦した年始特集『日本列島誕生』，春期特集『桜満開！星は満天！記憶に残る“宇宙絶景”』と，スケール感あふれる番組を放送。また開発番組では，全国60万人のさまざまな学会の研究者からのアンケート回答をもとに生活の難問を解決する『おしえて！ガッカイ』を２本制作した。

BSPの特集『ザ・プレミアム』では，世界の天文機関と協力して宇宙の絶景を選んだ「138億年の超絶景！宇宙遺産100」や，ダイオウイカを撮影した潜水艇を用いた「深海のロストワールド」（４K）を制作。他にも８K「牧野富太郎の植物図鑑」「富士山」など高精細映像に取り組んだ。

「ロボットコンテスト」は，８月にインド・プネで開催されたABUアジア・太平洋ロボコンを９月に放送。27回目を迎えた高専ロボコンは11月に両国・国技館で全国大会が開催され，12月に放送。地区大会のライブストリーミングも実施した。また，10月に日本科学未来館で開催された「サイエンススタジアム」では，科学番組の公開収録，展示を実施。ウェブでは，健康情報を視聴者の嗜好にあわせて提供するポータルサイトの「マイ健康」を開設した。

教育番組

Ⅰ．青少年・教育番組

青少年・教育番組部は，幼児から青少年までの若い世代に向けて，楽しみながら豊かな情操を育むことのできる教育番組や学校放送番組，ファミリー向け番組を制作した。

いずれのジャンルでもテレビ・パソコン・モバイルを連動させた番組開発に積極的に取り組み，本格的な多メディア時代にふさわしいサービスを提供している。

（１）幼児向け番組

幼児の生活時間帯が年々繰り上がっていることを受け，朝の放送枠順を見直すとともに，『デザインあ　５分版』の枠を新設。幼児向け番組の一層の充実と新たな視聴層の獲得に努めた。また，定時化を目指し『ミミクリーズ』を開発した。「似ているものを探すことが科学の第１歩」とのコンセプトに基づき，幼児向け番組の新たな視点を提示，日本賞部門賞を受賞した。

（２）こども番組

小学生を対象とした『Let's 天才てれびくん』が新たにスタート。「天てれ」の名前は引き継ぎつつ，「ストーリー性」「ゲーム性」「双方向イベント性」を３つの柱として，子どもがより主体的に関わる番組としてリニューアルした。毎週１つの都道府県にちなんだキャラクター「どちゃもん」が登場し，その都道府県を舞台にストーリーを展開。年間６回の公開生放送も実施した。視聴率は世帯平均，４～12歳男女ともに13年度を大きく上回り，生放送のデータ放送参加者数も平均10万人を突破。最高13万2,000人に達した。『ビットワールド』も，13年度に続きデータ放送やPCを利用した視聴者参加型のゲーム企画を積極的に展開し，新しい双方向スタイルの番組を提示した。ハイブリッドキャストへの展開も視野に入れ，現

代の子どもたちのメディア環境にマッチしたエンターテインメントを提供している。

（３）若者番組

14年度は，高校生とその親世代を主な対象とする番組『Rの法則』のさらなる浸透・定着を目指した。13年度に続き動画サイトとのコラボ企画を展開,「公開復興サポート」「いじめキャンペーン」などのイベントに参加したほか，１月にはLINEの公式アカウントを取得。２か月で約60万人の「お友達」を集めた。また，若者の仕事を切り口にした『人生デザイン　U-29』を新たにスタート。若い社会人の新しい生き方や人生の選択を伝えた。

（４）ファミリー向け番組

家族に向けたニュース解説番組『週刊　ニュース深読み』は番組開始から５年目を迎えて定着し，年間平均世帯視聴率10％超を達成。世の中の旬の関心事を分かりやすく深く読み解いている。

また教育情報番組『エヂュカチオ！』をウイークリー化,子育てに悩む親たちの高い支持を得た。

（５）特集番組

４月，７月，10月，大みそかに『しあわせニュース2014』を総合テレビで生放送。全国各局から寄せられた心温まる話題をお茶の間に届けた。

６月には『ETV特集　本当は学びたい』を制作。経済的困難のため学びからドロップアウトした子どもたちの抱える根深い問題を浮き彫りにした。

７月には，家族で楽しめる開発番組として総合テレビで『天使のアングル』を放送。子どもたちならではのものの見方を通して，今の世の中を楽しくあたたかく伝えた。

８月には企業の訓練を実況形式で伝える開発番組『くんれん～あなたの知らない危機管理の世界～』の第２弾を放送，ロープウェー脱出訓練の様子を通して，その道のプロたちの地道な取り組みを楽しく伝えた。

このほかにも，『Rの法則』『グレーテルのかまど』『歴史にドキリ』などが放送時間を拡大するなどして特集番組を制作，定時番組をさらにパワーアップし番組ファンに届けた。

Ⅱ．学校教育番組

14年度は，急速に進む教室のICT化に対応するため，教育ポータル「NHK for School」の大規模なリニューアルを実施。従来通りの“学校の先生向けサイト”として使いやすくするとともに，子どもたちが自らアクセスして楽しみながら学ぶ“動画サイト”として新たにオープンした。坂本龍一などのキュレーターがユニークな動画を紹介する動画特集コーナー「すくどう」を新設。また，「ヤフーきっず」との連携を図り，外部サイトから「NHK for School」の動画へと導入する環境を整えた。この結果，10月にはユーザー数が130万人に達するなど，アクセスの大幅増につながった。

（１）定時番組

学校教育番組として43番組（幼稚園・保育所向けテレビ２，小学校向けテレビ35，中学校・高等学校向けテレビ６）を放送した。

新番組としては，小学１～２年生向けの国語番組『ことばドリル』，小学１～３年生向けの算数番組『さんすう犬ワン』，小学３～６年生向けの体育番組『はりきり体育ノ介』，小学５～６年生向けの図工番組『キミなら何つくる？』，小学５～６年生向け外国語活動番組『プレキソ英語』，中学・高校生向け国語番組『ロンリのちから』を放送した。

また，過去の学校放送番組をアンコール放送する『学校放送ライブラリー』を継続した。

さらに幼保・小学校低学年向け国語番組『おはなしのくに』を，独立型ハイブリッドキャストコンテンツとして展開した。

（２）特集番組

NHK全国学校音楽コンクール関連として，『発表！Nコン2014課題曲』『Nコンマガジン　スーパー合唱教室』『桜の季節～EXILE ATSUSHIが中学生に贈る歌～』『ゆうきを歌おう』等を放送し，10月に行われる全国大会に向けて多面的な展開を図った。また，「NHK杯全国放送コンテスト」関連として，『ティーンズビデオ』『ティーンズラジオ』で優秀な作品を紹介した。さらに，教育現場から要望の多かったスマートフォンの使い方に関する番組『スマホ・リアル・ストーリー』を夏の特集として放送したほか，15年度に向けて小学校高学年向けの道徳番組，社会科番組，音楽番組の開発にも取り組んだ。

また，『いじめをノックアウト』を核にNHK全体でいじめの問題を考えるキャンペーンを展開。５月，９月，３月に『いじめをノックアウトスペシャル』を放送。視聴者から寄せられた「行動宣言」は，３月までに83万件を超えた。

さらに，公開収録の『学ぼうBOSAIスペシャル　もしもに備えるいつもの防災』『なわとびかっとび王選手権2014』など，多数の特集番組を放

送した。

（３）教育イベント関連

①**「第65回放送教育研究会全国大会」**（11月21～22日）は，神奈川県川崎市と東京都渋谷区・足立区で開かれた。「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」をテーマに，学校現場でどう番組やNHK for Schoolを視聴・活用していくかについて，活発な議論が展開された。

②**「第81回NHK全国学校音楽コンクール」**には，小・中・高合わせて2,577校，約10万人が参加した。NHKホールで行われた「全国コンクール」（10月11～13日）では，小学校，中学校，高校の部を生放送した。

③**「第61回NHK杯全国高校放送コンテスト」**には地方予選を含め，全部門合わせて1,681校が参加した。

④**「第31回NHK杯全国中学校放送コンテスト」**には地方予選を含め，全部門合わせて635校が参加した。

⑤**「学校放送番組・ICT活用講座」**は全国10か所で実施し，学校放送と，それに連動したウェブサイトの具体的な活用方法を学ぶ体験型の研究交流講座が開催された。その他，専門の担当者が学校現場などで活用法を紹介する研修として「NHK for School リエゾン」を，35か所で実施した。

（４）学校教育関連委員会

①教育放送企画検討会議

（年２回／６月，12月）

各ブロックからの意見を集約し，具体的な番組計画を立案した上で，学識経験者，全国放送教育研究会連盟役員，教員，教育行政関係者と，14年度の学校放送の制作方針および学校放送の将来の在り方について検討を行った。

②学校放送番組委員会

各番組の企画・制作にあたって，学識経験者，教員，教育行政関係者などと意見交換を行い，学校現場の意向や要望を反映させた。

Ⅲ．趣味・実用番組

（１）定時番組

定番ジャンルである料理については，長年多くのファンからの支持を受けている『きょうの料理』，主に初心者に向けて料理の基本を分かりやすく伝える『きょうの料理ビギナーズ』を月～木曜の午後９時台に放送した。

同じく固定ファンに支えられている園芸については，野菜作りの楽しさを伝える『趣味の園芸やさいの時間』，園芸初心者向けのミニ番組『趣味の園芸ビギナーズ』，本格的な園芸ファンのニーズにも応える『趣味の園芸』の３番組を，日曜朝８時台に放送した。

クラフト系の番組としては，手芸など手作りの楽しさを伝え，固定ファンから支持されている『すてきにハンドメイド』を木曜９時台に放送。さらに14年度は，13年度開発した『ガールズクラフト』を定時化。小中学生向けに安価な素材でかわいい雑貨やアクセサリーを手作りするノウハウを伝授，大きな反響を得ている。

趣味のジャンルを扱う『趣味Do楽』は月～水曜夜９時台に放送。プラネット本社が「はじめての四国遍路旅」を制作し，番組・テキストともに好評を博した。

月～木曜の夜間には，暮らしに役立つさまざまなノウハウをコンパクトに伝える５分ミニ番組『まる得マガジン』を放送した。

若者に身近な事象を経済学で分かりやすく読み解いていく『オイコノミア』は，３年目を迎え，存在感のある番組として定着し，15年度の時間枠拡大に向けての開発も行った。

同じく３年目を迎えた『団塊スタイル』は，テーマの幅を広げ，団塊世代の視聴者からの支持を集めている。

『サラメシ』は取材を希望する視聴者からの投稿がコンスタントに来ており，「昼ごはんを通して日本の今が見える」ユニークな番組として多くのファンをつかんでいる。

（２）特集番組

『オイコノミア』では，新春スペシャル「今年は“ライブ”が熱い！？」（1.2）を制作。音楽やお笑いのライブのにぎわいを経済学で読み解き，14年度，43分サイズの開発番組となった。

園芸ジャンルでは開発ミニ番組として『趣味の園芸ラボ』を制作。毎年恒例の『きょうの料理クッキングコンテスト　2014』は，地元を盛り上げる料理・大切な人に贈る一皿という２つのテーマで料理を募集した。

Ⅳ．外国語講座番組

（１）定時番組

Eテレでは17番組，ラジオ第２放送では27番組の合計44の定時番組を制作・放送した。

①Eテレ

2020年の東京オリンピックや外国人観光客の増

大を背景に，英語ではCEFR（セファール・ヨーロッパ言語共通参照枠）に準拠した番組をレベル別に配置した。新番組としては，小学校での英語教育が加速されるのを受け，『プレキソ英語』を３年ぶりに全面リニューアルし，英語の音を楽しむオールイングリッシュの内容とした。アニメ『The Sushitown～あるスシのくらし～』は人気コーナーとなり，３分の日本語版ミニ番組も制作してシリーズ放送，本編との相乗効果で視聴者に定着し，教育現場でも高い評価を受けた。そのほか，前期の『おとなの基礎英語』はシーズン３を制作。また，シーズン２となる後期制作の『しごとの基礎英語』は内容を深化させるとともに，放送と通信を連携させたハイブリッドキャストで，新サービスの充実を図った。『ニュースで英会話』はインターネットとの連動が相変わらず好調であり，『スーパープレゼンテーション』は高い認知度と内容の濃さで視聴者の支持を得た。

他言語では独・仏・中・西・伊・ハングル・露・アラビアの８言語を放送。欧州４言語では14年度も「EURO24」と題し，CEFRのA1レベルを参考に内容を組み立てた。また，在日外国人向けの日本語講座では，実践的かつ効率的に日本語が習得できるように『使える！伝わるにほんご』を新作した。

②ラジオ第２

英語講座では，ニーズの高い多読多聴型番組として『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』を新作した。易しく自然なストーリーを気軽に聞ける番組として人気となり，通年制作した。『基礎英語』シリーズは，学校現場でも採用が進むCan-do（何ができるか）の考え方を採用するなど，カリキュラムへの信頼性を堅持。日常会話の習得をはかる『ラジオ英会話』，『英会話タイムトライアル』も好調だった。英語以外の外国語では『まいにち○○語』，『レベルアップ○○語』という講座をきめ細かく制作し，言語をより深く学びたいリスナーの要望に応えた。

ホームページのサービスでは14年度，これまで「NHK語学番組ホームページ」「デジタル基礎英語」「マイ語学」と別々に運用していた３サイトを「NHKゴガク」として統合した。個人ページに視聴履歴が残せる「マイ語学」会員は51万5,000人と，13年度当初時点の18万9,000人から大きく増加した。また，14年度のサイト利用者数はNHKオンラインの中でニュースに次いで２位を維持し続けた。

（２）特集番組

Eテレでは，７月に外国人による日本語弁論大会『ワタシの見たニッポン』を放送。年末年始には『ニュースで英会話年末スペシャル』で，2014年のニュースを，conflict（紛争），outbreak（発生），achievement（成就）の３つのキーワードで紹介した。また，『スーパープレゼンテーション新春SP「伊藤穰一×山中伸弥　未来を語る」』では，ノーベル賞受賞者の山中伸弥教授の素顔も垣間見られ，番組の存在感を改めて示した。

ラジオでは，６月，ワールドカップサッカー・ブラジル大会開催にあわせ，FM放送で『こころにしみるユーロソング　ワールドカップで盛り上がるぞスペシャル』を５日連続で放送。ヨーロッパのみならず，アフリカ，中南米などワールドカップ出場国の音楽を紹介した。ラジオ第２では年末に，基礎英語３番組の出演者が勢ぞろいし公開番組収録を行った『基礎英語スペシャルレッスン』や，スポーツの話題を取り上げた『スポーツニュースで英会話』を放送した。また，「語学番組」が15年に放送開始から90年を迎えるのを記念して３月，テレビ（Eテレ）とラジオ（第２）で同時生放送の『放送90年！もっと届け、ゴガクのこと』を制作。言葉を学ぶことの楽しさを伝えてきた語学番組の歩みを，当時の貴重な資料とともに振り返り，語学番組90年の歴史を掘り下げる番組となった。

Ⅴ．文化・福祉番組

文化・福祉番組部では，教養・生涯学習への多様な要望に応える文化番組，子ども・障害者・高齢者等の社会的弱者の課題に取り組む福祉番組など，多彩で高品質な番組を制作してきた。

14年度は，従来通りの教養および知的エンターテインメント番組に加えて，発災から４年目に入った東日本大震災に関連した番組をもうひとつの重要な柱として，引き続き番組の制作に当たった。福祉番組や宗教番組，『ETV特集』などで，東日本大震災や原発事故の深刻な影響や，今も翻弄され苦しむ人々の姿を取材し，放射能被ばくの実態や，その後も続く避難の状況，復興に向けての試行錯誤について，文化・福祉番組部ならではの蓄積や経験を生かした番組を放送した。

一方の知的エンターテインメントは，総合テレビの定時枠で『探検バクモン』『地球イチバン』などを，またEテレでは，夜10時台に『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』，夜11時台に『先

人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』『100分de名著』などを放送した。

（１）定時番組

総合テレビでは，『探検バクモン』がリニューアル３年目を迎え，爆笑問題とゲストが，視聴者に代わって，普段は入ることができない現場を探検するスタイルを踏襲。長崎の「軍艦島」，「防衛大学校」など，多種多様な場所を訪ね「今」を描いた。「東京ベイエリア」をテーマに時間を拡大して，産業廃棄物の処理について見直すなど，新たな課題にも取り組んだ。

紀行ドキュメンタリーとしてリニューアル２年目を迎えた『地球イチバン』は，番組ナビゲーターに俳優の役所広司さんを起用。世界は違うからこそ面白いをコンセプトに，地球最古の航海術を受け継ぐ民や，モンゴルで4,000年続く最古の鷹匠（たかじょう）など，普段目にすることのできない風景や暮らしに迫った。またイタリアの世界一高価なキノコや，コンゴの服にお金をかける男たちなど，衣食住にまつわるさまざまなイチバンを取り上げ，現代人の価値観を揺さぶる多様なテーマにも挑戦した。全19本の放送回で個性あふれる世界の表情と生活文化を伝えた。

Eテレの『ETV特集』では，日本社会の課題を弱者の立場から凝視するとともに，歴史や文化に新たな角度から光を当てた番組編成を目指した。前者では，子どもの貧困が「学び」に深刻な影響を与えている現実を描いた「本当は学びたい～貧困と向き合う学習支援の現場から～」，認知症当事者の声を伝えた「私たち抜きに私たちのことを決めないで～初期認知症と生きる～」，忘れてはならない重い課題を掘り起こした「薬禍の歳月～サリドマイド事件50年～」などを制作。後者については，埋もれた古代史を取り上げた「発見！謎の金銅製馬具～古代日本と朝鮮半島の交流史～」，知られざる障害児たちの戦争体験を描いた「“戦闘配置”されず～肢体不自由児たちの学童疎開～」，人間国宝の素顔に迫った「鬼の散りぎわ～文楽・竹本住大夫 最後の舞台～」，ユニークな一人芝居の「見えないものが見えてくる～白石加代子の百物語～」など，多彩な番組を放送した。

82年から続く『こころの時代』では，競争社会のストレスや深まる心の闇，また東日本大震災などをきっかけに，問い直される人生の意味や，人々が直面する困難を乗り越える術を，宗教関係者だけでなく多様な分野で活躍する人々への長時間インタビューを通して掘り下げた。また，14年度の半期シリーズとして，「シリーズ　さとりへの道～華厳経に学ぶ～」を放送した。

また，夜10時台の『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』，夜11時台の『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』は２年目，同じく夜11時台の『100分de名著』は４年目を迎えた。

『SWITCHインタビュー　達人達（たち）』では，各界の第一線で活躍する“達人”どうしが互いの現場を訪ね合い，仕事の極意や人生哲学を発見し合うトーク・ドキュメントを展開。２年目も「浦沢直樹×佐野元春」「北島三郎×萩本欽一」「阿川佐和子×ふなっしー」等々，「この番組でしかありえない」異色の顔合わせを実現させ，注目を集めた。

『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』は，歴史上の人物の知恵を，現代の第一線で活躍するプロフェッショナル＝「仕事人」が読み解いていくという異色の歴史番組として開発された。先人たちが課題や困難を克服するときに発揮した知恵は，現代社会でも通用するのではないかという視点のもと，歴史と現代の知恵の融合や共通項の抽出を試みた。40～60代を主な視聴者層と位置づけ，歴史番組にビジネス的な視点を取り入れることで，これまでの歴史ファンとは違う新たな視聴者層を開拓した。

４年目の『100分de名著』では，読みたいと思いながらも踏み出せなかったり，途中で挫折してしまった古今東西の名著を分かりやすく解説することをコンセプトに，「万葉集」，柳田国男「遠野物語」，「アンネの日記」のほか，「旧約聖書」「ファーブル昆虫記」「ハムレット」「菜根譚」など，古今東西を問わず幅広く名著を解説した。

福祉のジャンルでは，３年目に入った『ハートネットTV』で毎週月曜放送の「ブレイクスルー」をスタートさせた。若い世代含め幅広い人気を誇る，俳優の風間俊介さん，映画監督の安藤桃子さんをMCに起用し，新しいスタイルの福祉番組を制作した。また13年度同様月ごとに，特集テーマを掲げ，貧困，介護保険，自殺，被災地など多様なテーマを３回シリーズで深掘りし，月末に視聴者の声を基に反響編を制作。ウェブに寄せられた声を基に取材するフォーマットを確立した。そのフォーマットを利用し，若者の自殺に関する番組を制作。総合テレビで特集放送し，ホームページにもさまざまな動画を掲載することで，大きな反響につながった。

また，継続して「ハート展」や「介護百人一首」「リハビリ・介護を生きる」「公開すこやか長寿」の放送も行い，フリー枠では個性的なドキュ

メンタリーの制作も続けた。

一方，これまで継続的に行ってきているホームページ「NHK福祉ポータルサイト　ハートネット」では，掲示板やツイッターを通じての視聴者どうしの議論が活発に行われた。

『オトナへのトビラTV』では，若者のさまざまな悩みにスポットを当て，就職やアルバイトなど社会との向き合い方から，恋愛に関する悩みまでを，カジュアルなスタジオ演出を織り交ぜて伝え，大きな反響を生み出した。

ほかに，『みんなの手話』『ろうを生きる　難聴を生きる』『楽ラクワンポイント介護』『ワンポイント手話』，また，ラジオでは『聞いて聞かせて』（14年10月から『視覚障害ナビ・ラジオ』にタイトル変更）『社会福祉セミナー』などの番組で，さまざまな障害のある人に対しての情報提供を行った。

さらに，美術のジャンルでは『日曜美術館』『美の壺』，歴史ジャンルでは新番組『英雄たちの選択』，紀行ジャンルでは『世界ふれあい街歩き』を放送。それぞれファン層を広げ，高い評価を得た。

（２）特集番組

特集番組では，『NHKスペシャル』「ストーカー 殺意の深層～悲劇を防ぐために～」（７.６），「カラーでよみがえる東京～不死鳥都市の100年～」（10.19），東日本大震災「傷ついた人に寄り添って～黒田裕子さん･被災者支援の20年～」（１.30）を制作。

東日本大震災の被災地を応援する『明日へ－支えあおう－』では，「きっと、道はできる～福島･南相馬　コメ農家の挑戦～」（２.１），「頑張るよりしょうがねえ～南相馬市・瀬戸際の介護現場で～」（５.11）を制作。

そのほか，総合テレビで『はに丸ジャーナル』『仕事ハッケン伝2014夏SP』『おやすみ日本　眠いいね！』『ラストデイズ』『レトロ体感！50年目の明治村』『世界へGO！　まるわかり幕末長州』，Eテレで『テクネ　映像の教室』『かおテレビ』，BSプレミアムで『プレミアム ヒストリー「飛鳥の大宇宙～キトラに眠るのは誰だ～」』などの特集番組を制作し，テレビの新たな可能性を模索した。

また，１月には毎年恒例の『歌会始』の中継も行った。

芸能番組

Ⅰ．ドラマ番組

14年度のドラマ番組は，連続ドラマ，単発・シリーズドラマそれぞれのターゲットを明確にし，おのおのの特長を生かしてクオリティーの高いドラマ番組の制作を目指した。連続ドラマでは『大河ドラマ』「軍師官兵衛」，『連続テレビ小説』「花子とアン」「マッサン」がいずれも好評を博したほか，『ドラマ10』は現代に生きる女性を描く枠として定着し，大人向けの上質なエンターテインメントを目指した『土曜ドラマ』や『木曜時代劇』『BS時代劇』『プレミアムドラマ』『プレミアムよるドラマ』など，多彩なテーマで視聴者層の拡大に尽力した。

（１）連続ドラマ

①『大河ドラマ』

63年「花の生涯」から始まった『大河ドラマ』は，14年「軍師官兵衛」で第53作目。作・前川洋一，主演・岡田准一。「この男がいなければ秀吉の天下はなかった」といわれた天才軍師・黒田官兵衛。信長，秀吉，家康の三英傑に重用されながら，その才能ゆえに警戒され，秀吉には次の天下人とまで恐れられた。戦国の乱世を見事に生き抜き，九州福岡藩52万石の礎を築いた官兵衛の生涯を描いた（全50回）。

②『連続テレビ小説』

「朝ドラ」として定着し，14年度前期の「花子とアン」で90作目。原案・村岡恵理，脚本・中園ミホ，主演･吉高由里子。「赤毛のアン」の翻訳者･村岡花子の明治・大正・昭和にわたる波乱万丈の半生記。山梨の貧しい家に生まれ，東京の女学校で英語を学び，故郷での教師生活をへて翻訳家の道へ進んだ花子は，震災や戦争を乗り越え，子どもたちに夢と希望を送り届ける（全156回）。

後期・91作目は大阪局制作「マッサン」。作・羽原大介，主演・玉山鉄二，シャーロット・ケイト・フォックス。日本のウイスキー誕生を支えた竹鶴政孝とその妻リタがモデル。広島，大阪，北海道を舞台に，本物を求めて不器用ながらも激動の時代をまっすぐ生きたマッサンと，母国スコットランドを離れて夫を支え続けた妻エリーの物語。朝ドラ初外国人女優がヒロインを演じた（全150回）。

③『木曜時代劇』

木曜午後８時，通年で新作４シリーズを放送し

た。大阪局制作「銀二貫」（９回),「吉原裏同心」（12回),「ぼんくら」(10回),「風の峠～銀漢の賦～」（６回)。

（２）単発・シリーズドラマ・オーディオドラマ

『土曜ドラマ』は，土曜午後９時に「ロング・グッドバイ」（５回),「55歳からのハローライフ」（５回),「芙蓉の人」（６回),「ボーダーライン」（５回),「ダークスーツ」（６回),「限界集落株式会社」（５回)，などさまざまな時代を背景とした社会派ドラマを放送し，男性層を中心とした視聴者から好評を得た。

また，火曜午後10時の『ドラマ10』では,「サイレント・プア」（９回),「ハードナッツ！」（８回),「聖女」（７回),「さよなら私」（９回),「全力離婚相談」（７回）を放送，30～50代女性に向けた枠として定着した。

BSプレミアムの日曜午後10時『プレミアムドラマ』では,「珈琲屋の人々」（５回),「プラトニック」（８回),「終の棲家」（２回),「そこをなんとか２」（８回),「昨夜のカレー、明日のパン」（７回),「だから荒野」（８回）を放送した。『プレミアムよるドラマ』は火曜午後11時15分から,「喰（く）う寝るふたり住むふたり」（８回),「おわこんTV」（８回),「タイムスパイラル」（８回),「キャロリング」（８回),「徒歩７分」（８回),「その男、意識高い系。」（８回うち３回は15年度)，バラエティーに富む６シリーズを放送した。

金曜午後８時の『BS時代劇』では,「神谷玄次郎捕物控」（５回),「妻は、くノ一～最終章～」（５回),「大岡越前２」(10回),「雲霧仁左衛門２」（８回）を放送し，時代劇ファンの期待に応えた。

特集ドラマでは，『お葬式で会いましょう』『妻たちの新幹線』『途中下車』，阪神・淡路大震災20年ドラマ『二十歳と一匹』，震災から４年後の福島を描いた『LIVE！　LOVE！　SING！　生きて愛して歌うこと』，創作テレビドラマ大賞の大賞受賞作『佐知とマユ』，放送90年ドラマ・４K制作『紅白が生まれた日』,『おそろし』（５回）などの意欲的なドラマを制作した。

オーディオドラマは定時番組『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』のほか,『特集オーディオドラマ』を放送した。また，良質の舞台演劇を中継する番組『プレミアムステージ』では演劇ファンの要望に応えた。

Ⅱ．エンターテインメント番組

エンターテインメント番組部では，幅広い層の視聴者に親しんでいただける質の高い娯楽番組を制作した。14年度は，定時番組のブラッシュアップとともに，15年度以降を見据えた新番組開発にも取り組んできた。

（１）公開・派遣番組

視聴者とNHKを結びつける役割を担う公開・派遣番組の制作は，当部の業務の中核をなしている。

14年度は,『NHKのど自慢』（年間46回),『NHK歌謡コンサート』（２回を地方派遣),『ごきげん歌謡笑劇団』(12回),『BS日本のうた』(34回),『ザ少年倶楽部』（２回分を大阪派遣),『真打ち競演』（15回),『キャンパス寄席』（５回）のほか，特集番組として，チャリティーイベント『歌謡チャリティーコンサート』（２回)，若年層に向けてライブハウスで公開収録した音楽番組『NiPPoN RockS』（２回)，震災プロジェクトの一環として制作した『つなげるコンサート　～名曲が心の絆を結ぶ～』（１回）など，数多くの公開・派遣番組を制作した。

（２）定時番組

14年度は,新たに『MISIA　アフリカの風』『ヒャダインの“ガルポプ！”』『AKB48SHOW』などの番組を立ち上げた。従来からの定時番組も合わせ，音楽，バラエティー，演芸，知的エンターテインメント，ラジオ番組など，多様な番組を提供した。

音楽番組は，NHKホールから生放送の『NHK歌謡コンサート』を，年間10本程度NHK大阪ホールからの生放送とし,『NHKのど自慢』『SONGS』『MUSIC JAPAN』『BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『AKB48SHOW』など，幅広い世代の視聴者に合わせて制作。バラエティー番組は，コント番組『LIFE！』や『ごきげん歌謡笑劇団』『鶴瓶の家族に乾杯』『伝えてピカッチ』を制作，視聴者層のさらなる拡大を図った。演芸番組は,『○○○○の演芸図鑑』『日本の話芸』『真打ち競演』『キャンパス寄席』など，多彩なラインナップとともに，ベテラン演芸ファンから若年層まで幅広い層のニーズに応えた。また，知的エンターテインメント番組として，Eテレで『ミュージック・ポートレイト』『亀田音楽専門学校』『Eダンスアカデミー』を制作。ラジオ番組は，アイドル，J-POP，洋楽，演歌・歌謡曲といった幅広いジャンルの音楽番組,『日曜喫茶室』『トーキング　ウィズ　松尾堂』といったトーク番組や演芸番組など，ラジオの特性を生かした音楽以外のジャンルの番組なども制作。多様なラジオリスナーのニー

ズに応えるとともにNHKへの接触者率の向上を図り，ラジオの存在感を示した。

（３）特集番組

14年度は，定番の大型歌謡イベントや定時番組を発展させた特集番組，視聴者層の拡大を狙った特集番組など，年間でおよそ160本を制作した。

『第65回NHK紅白歌合戦』は，“歌おう。おおみそかは全員参加で！”というテーマのもと，NHKホールから生放送で届けた。このほか，大型歌謡イベント番組としては，『第46回思い出のメロディー』などを制作した。また，復興支援の音楽特別番組として『震災から４年　明日へコンサート』を制作，101スタジオをベースに中継を結んで生放送で届けた。そのほか『NHKのど自慢チャンピオン大会2015』『鶴瓶の家族に乾杯スペシャル』『嵐　15年目の告白～LIVE＆DOCUMENT～』といった大型特集や，『昭和の歌人たち』『洋楽倶楽部』といったシリーズ特集，『LIFE！ステージ』『SONGSスペシャル』『伝えてピカッチSP』といった定時番組のスペシャル版，『番組バカリズム』『絶対笑者』『小林賢太郎テレビ』『新クイズ面白ゼミナール』『爆笑シャットアウト！』といった演芸・バラエティーの特集など，多彩なコンテンツを数多く制作した。

また，開発番組として，漫画家の執筆現場に密着した『浦沢直樹の漫勉』や音楽クイズ・バラエティー『バナナ♪ゼロミュージック』といった番組を制作・放送，15年度以降のエンターテインメントのジャンルで番組化を目指す予定である。さらに15年度に復活予定の『ブラタモリ』に先立って『ブラタモリ～京都～』を放送した。

Ⅲ．音楽・伝統芸能番組

音楽・伝統芸能番組部では，クラシック音楽，日本の伝統芸能，民謡，ポップスなど幅広いジャンルで，視聴者の期待に応える良質な番組コンテンツを制作し，公共放送として日本の放送文化における重要な役割を担った。

（１）テレビ定時番組

『にっぽんの芸能』は，舞台中継やスタジオ収録による演目の鑑賞に加え，着物の魅力を紹介する「ナンノの着物ことはじめ」と，初心者向けに古典芸能を紹介する「古典芸能玉手箱」のコーナー２つを継続し，より多くの視聴者に見てもらえる内容とした。

不定期放送だった『古典芸能への招待』は13年度から定時化し，14年度は年間11本放送。能狂言・文楽・歌舞伎を２時間じっくり楽しめる内容で視聴者の期待に応えた。

『クラシック音楽館』は，NHK交響楽団の定期演奏会を中心に，国内外のオーケストラによる注目の演奏会をノーカットでたっぷりと楽しんでもらう大型の音楽芸術鑑賞番組。クラシック音楽の魅力を存分に伝えた。

『ムジカ・ピッコリーノ』は，「子どもの感性を刺激する」小学校低学年向け音楽教育番組。13年に引き続き，毎回クラシック，ポップス，民族音楽などあらゆるジャンルの名曲を取り上げ，親子で楽しめるシリーズを展開した。

『ららら♪クラシック』は，「どこかで聴いたことのあるクラシックをあなたのものに！」をキャッチフレーズに，初心者にも分かりやすい多彩な切り口でクラシック音楽の魅力を紹介した。

このほか，『クラシック倶楽部』で，第一線で活躍するアーティストによる室内楽の演奏を放送。『プレミアムシアター』では，世界のクラシック音楽公演を，国際共同制作・独自収録・番組購入など，バラエティー豊かなラインナップで放送した。

（２）公開派遣番組

『民謡魂 ふるさとの唄』を全国９か所で公開収録し，民謡や郷土芸能に，その地域ならではの「ふるさとの魅力」を交えて放送した。

『スクールライブショー』を全国７か所で公開録画。バンド，吹奏楽，ストリートダンスを中心に，一流プロが審査する中高生の真剣バトルを届けた。

ラジオでは，『民謡をたずねて』14か所，『ベストオブクラシック』４か所，『吹奏楽のひびき』２か所，『リサイタル・ノヴァ』２か所，『ブラボー！オーケストラ』１か所で公開収録を実施した。

（３）ミニ番組

『名曲アルバム』では，世界の名曲を，その曲ゆかりの地の文化や歴史，風土などの映像とともに紹介した。

（４）テレビ特集番組

『熱演！爆笑！歌舞伎の夢舞台　第37回「俳優祭」』（5.31）は歌舞伎ファン，『演劇人祭･特別編』（12.1）は舞台芸術ファン垂ぜんの催事で，NHKが長らく放送をしてきた経緯もあり，視聴者からの期待も高く，好評を得た。

『ETV特集』は，原発事故で避難を強いられた人々が郷土の民俗芸能を復活させる様子を描いた「あの舞をもういちど～原発事故と民俗芸能」（6.7）を制作した。

『TAKAHIROの“ダンス実験工房”』(8.4～5) では，若者に向けてダンスを通じた発想術や表現することの面白さを伝えた。

『伊福部昭の世界～「ゴジラ」を生んだ作曲家の軌跡～』(8.30) では，2014年が生誕100年となった作曲家・伊福部昭の生涯を，貴重な資料や関係者の証言，代表作の演奏を通して描いた。

『第41回NHK古典芸能鑑賞会』(12.20) は，NHKならではの豪華な顔合わせと，類を見ないバリエーション豊かな演目が見どころ。一夜でさまざまなジャンルの芸能の至芸を紹介した。

元日恒例の『ウィーン・フィル　ニューイヤーコンサート2015』では，ハイビジョン5.1chサラウンドの高画質・高音質で，オーストリア・ウィーンからの生中継を行った。

正月２日に恒例となった『こいつぁ春から～初芝居生中継～』は，大阪を代表する大名跡「中村鴈治郎」の襲名に沸く大阪松竹座と，東京の歌舞伎座からの二元生中継を中心に，華やかな舞台の数々を紹介した。

正月３日恒例の『NHKニューイヤーオペラコンサート』は，第58回を迎えた。「恋する喜び恋する哀しみ」をテーマに，日本を代表するオペラ歌手たちの熱唱をNHKホールから２時間生放送した。

そのほか，『宝塚歌劇　華麗なる100年～スターが語る夢の世界～』(6.18)，『小澤征爾&2014サイトウ・キネン・フェスティバル松本』(10.13)，『クラシック・ハイライト　2014』(12.31)，『響宴！新春の伝統芸能』(1.1)，『坂東三津五郎さんをしのんで』(3.15) などを制作し，14年度の古典芸能・クラシック音楽などの重要なトピックを取り上げて放送した。

（５）FM特集番組

『今日は一日“○○”三昧』は，テーマをひとつのジャンルに絞って１日中たっぷり放送する超長時間特集番組。14年度は，「ラ・フォル・ジュルネ」「歌う声優三昧　ツヴァイ！」「N響アーカイブス」をテーマに放送した。

12回目を迎えた秋の恒例イベント『NHK音楽祭』は“管弦楽の黄金時代”をテーマに開催。NHKホールで行われた３つのコンサートを放送した。

ほかに，『吉田秀和が語ったモーツァルト』『生誕100年 伊福部昭の偉業』『夏！ふるさと民謡トーク』『ヨーロッパ夏の音楽祭』『恋する♪クラシック』『バイロイト音楽祭2014』『第13回　東京JAZZ』『年越しラジオマンジャック』『栗屋敷～栗コーダーカルテットの密やかな愉（たの）しみ～』などを放送し，クラシックファン，ポップスファンなど幅広い期待に応えた。

（６）国際共同制作の推進

世界各地の音楽祭やオペラハウスでの公演を，各国の放送局・プロダクションとの共同制作により，水準の高いソフトを低コストで効率的に収録し放送した。14年度はミラノ・スカラ座やパリ・オペラ座など世界一流の劇場でのオペラやバレエの公演，ザルツブルク音楽祭や80周年を迎えたグラインドボーン音楽祭などのフェスティバルほか，海外の放送局やプロダクションが制作主体となったプロジェクトのみならず，NHKホールでイスラエル・フィル，東京バレエ団，ベジャール・バレエ団が一堂に会した公演なども含め，合計11本の国際共同制作を行った。また，海外からの番組購入も積極的に行い，マルチユースすることで大型のクラシックソフトを安価で安定的に入手し，効果的に編成・放送した。

購入番組

１．総合

定時ドラマでは，イギリスドラマ『ダウントン・アビー　華麗なる英国貴族の館』(5.11～　日，23:00) や韓国ドラマ『太陽を抱く月』(7.13～11.23　日，23:00) を放送した。

２．Eテレ

定時ドラマでは，『サム＆キャット』(前期　水，19:25)，『超能力ファミリー　サンダーマン』(後期　水，19:25)，『アイ・カーリー』(13年度より継続　土，18:25)，の米国ドラマを放送した。

ドキュメンタリーでは，定時番組『地球ドラマチック』(土，19:00) の中で，「大量絶滅の謎～恐竜はなぜ滅びたのか～」「レンガを運び続けて～バングラデシュの子どもたちは今～」「こぐま物語」などを放送，好評を得た。

アニメでは，シリーズアニメとして『おさるのジョージ』(土，8:35)，『ひつじのショーン』(土，9:00) を放送。また，大型連休に『ひつじのショーンができるまで』(5.5)，秋に『おさるのジョージ　スペシャル「おばけ伝説のなぞ」』(10.25)，『劇場版　きかんしゃトーマス～キング・オブ・ザ・レイルウェイ　トーマスと失われた王冠～』(11.24)，年始に『おさるのジョージ　スペシャル「わくわくアドベンチャー」』(1.3)，年度末に

『ミッフィーとおともだちスペシャル』(2.28, 3.1, 28),『劇場版　忍たま乱太郎　忍術学園全員出動！の段』(3.1),『ザッツはなかっぱミュージカル』(3.1),『映画はなかっぱ　花さけ！パッカ～ん！蝶の国の大冒険』(3.7),『ウォレスとグルミット』シリーズ（3.24～27),『アードマンの仲間たち』(3.28),『おさるのジョージ　スペシャル「ゆかいな大冒険（英語放送・英語字幕）」』（3.29）を放送。

３．BS1

『BS世界のドキュメンタリー』は，海外のプロダクションが制作したドキュメンタリーを，毎週１つのテーマを設定して放送した。「世界大戦と人間」（８月),「壁崩壊25年　ヨーロッパは今…」(11月),「アウシュビッツ解放から70年」（１月),「エネルギーの将来　地球の未来」（３月),「危険な時代に生きる」（３月）など。戦争を扱ったものやエネルギー・環境関連には，多くの反響が寄せられた。番組ウェブサイト上で視聴者に投票を呼びかけて「もう一度見たい番組」として，放送をラインナップする試みも継続した。

４．BSプレミアム

『プレミアムシネマ』は13年度の編成を踏襲し，月曜夜９時の映画枠は洋画を編成,「トゥームレイダー」(5.5),「マイケル・ジャクソン THIS IS IT」(6.2),「メン・イン・ブラック」（10.13),「メン・イン・ブラック２」(10.20),「ナショナル・トレジャー」(12.15),「ラブソングができるまで」(1.19）などを放送した。

火曜夜９時は邦画を中心に編成,「わが母の記」（5.6),「蝉しぐれ」(6.27)，７月には，公開60周年を記念して「ゴジラ」(7.8）をはじめ，ゴジラ映画４本を放送，さらに午後１時台でも７月21日から５日連続でゴジラ作品を特集放送し，関連番組も放送した。８月には平成ガメラ３部作も特集した（8.12，19，26)。９月には金曜日に「武士の家計簿」(9.26),「劇場版タイムスクープハンター　安土城　最後の１日」(9.30）を放送,また，11月に亡くなった高倉健さんをしのんで「ホタル」(11.25）を放送し，誕生月の２月には「網走番外地」(2.9),「緋牡丹博徒　花札勝負」(2.10),「昭和残侠伝　死んで貰います」(2.16),「単騎、千里を走る。」(2.17）を月曜も含めて特集し，ミニ解説番組も放送した。

土曜夜間には,「ROOKIES－卒業－」(4.12),「のぼうの城」(8.2),「DOCUMENTARY OF AKB48 NO FLOWER WITHOUT RAIN　少女たちは涙の後に何を見る？」(9.20),「ザ･マジックアワー」（1.31),「Mr. ＆Mrs. スミス」(2.21),「コン・エアー」(3.7）などを放送した。

このほか，大みそかから元日にかけては『年越し映画マラソン』として,「ロード・オブ・ザ・リング」三部作一挙放送（12.31)，元日はスティーブン・キング原作特集として「ショーシャンクの空に」「スタンド・バイ・ミー」「グリーンマイル」などを集中編成した。

金曜深夜は,「プレステージ」(4.4),「ツイスター」(6.27)，ロビン・ウィリアムズをしのんで「グッド･ウィル･ハンティング　旅立ち」(8.22),「戦場のピアニスト」(10.10)，などを放送した。また，12月には「ジョン･レノン，ニューヨーク」（12.23),「ハーブ＆ドロシー　アートの森の小さな巨人」(12.24),「Pina／ピナ・バウシュ　踊り続けるいのち」(12.25),「イブ･サンローラン」（12.26）と，アートをテーマにしたドキュメンタリーを集中放送した。また，３月には『第87回アカデミー賞授賞式　総集編』(3.6）を放送した。

海外ドラマでは，定時番組として米国ドラマ『グッド･ワイフ４』(14年度前期　木, 23:15),『ワンス･アポン･ア･タイム２』（後期　木，23:15)，韓国ドラマ『馬医』(13年度より継続　～６月まで　日，21:00),『奇皇后』（８月～　日，21:00）を放送した。

特集編成としては『SHERLOCK（シャーロック）３』（５～６月）や『名探偵ポワロ』（９月),『アガサ・クリスティー　ミス･マープル６』(12月）を放送した。

アニメでは定時番組として,『アニメ　赤毛のアン』(月　18:30),『アニメ　新トムとジェリーショー』(火　18:30),『アニメ　あらいぐまラスカル』(水　18:30）を放送。また特集番組として，大型連休に『マダガスカル』(5.4),『マダガスカル２』(5.5）を放送した。

国際共同制作

NHKは80年から，継続的に海外の放送局や制作会社，配給会社と国際共同制作を行っている。事務局は編成局展開戦略推進部に置いている。

国際共同制作は大型番組を制作するうえで今や世界的に常識となっている。この背景には，テレビ番組市場を巡る環境が厳しさを増していることが要因として挙げられる。インターネットとの競合や多チャンネル化で良質なソフトへの需要が高

まる中，国際間で制作費を分担して高品質の番組を確保する動きが活発化しているといえる。14年度に放送した国際共同制作番組は32タイトル，63本であった。

10月から放送された『NHKスペシャル』「ホットスポット　最後の楽園　season2」は，ニュージーランドの制作会社NHNZとの共同制作。世界各地の生物多様性ホットスポットを訪ね，地球に残されたダイナミックな自然を６話のシリーズで紹介した。中国CCTV，ディスカバリーインターナショナル，米サイエンスチャンネル，アルテ，スウェーデンSVTなど世界各地での放送が実現した。『NHKスペシャル』「人体　ミクロの大冒険」はアルアラビヤニュースチャンネルMEN，独オーテンティック／MDRと共同制作を行った。また『BS1スペシャル』「Brakeless～JR福知山線脱線事故９年～」は，英ローストビーフプロダクションとバンガロープロダクションとの共同制作で，番組はBBCやPBSでも放送され，米ピーボディー賞を受賞するなど高評価を得た。

その他14年度に放送した主な国際共同制作番組は以下のとおり。

○ドキュメンタリー

『NHKスペシャル』「超常現象　科学者たちの挑戦」：ドックランドヤード（仏）。『日本刀に恋して　知られざる研ぎ師の世界』：ディスカバリーカナダ。『ザ・プレミアム』「星の生まれる海へ～中国・黄河源流への旅～」：寧夏広播電視台（中国）。『闘う建築家　安藤忠雄』：独オーテンティック。

○音楽ほか

『SONGSスペシャル　福山雅治　POPSの遺伝子』：TVBS（台湾）。『クラシック音楽館　山田和樹指揮　スイス・ロマンド管弦楽団　来日公演』：RTS（スイス）。『プレミアムシアター　映画音楽の巨匠　ジョン・ウィリアムズ　名曲コンサート』：C Major（ドイツ）。『プレミアムシアター　パリ・オペラ座バレエ公演「バレエの夕べ」』：テレモンディス（フランス）。

放送番組の国際交流

１．番組交換

NHKは，海外の放送事業者との番組交換を，文化交流の促進や放送を充実させる目的で，協力協定や覚書に基づいて積極的に行っている。14年度も，ラジオ番組の提供と受け入れが行われた。

（１）ラジオ番組の提供

14年度は，楽壇への登竜門として開催された『第83回日本音楽コンクール』（全６部門）をはじめ，『セッション2013／2014』を含むクラシック系，ポップス系番組，計59番組をEBU正会員および準会員に提供した。14年度は，20か国22放送機関に対し59件，計235時間13分の音源を提供した。

（２）ラジオ番組の受け入れ

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会をはじめ，ドイツ，スイス，フランスを本拠地とする主要オーケストラの演奏会とヨーロッパ夏の音楽祭，バイロイト音楽祭などの主要音楽祭，そのほかミラノ・スカラ座，メトロポリタン歌劇場，コヴェントガーデン王立歌劇場等による話題のオペラも数多く放送。14年度は，23か国34放送機関から142件，計266時間44分を受け入れた。

２．外国放送事業者への取材協力

NHKは，外国放送機関との相互協力の一環として，取材制作協力を積極的に行っている。

協力協定，ニュース取材への協力，海外総支局との関係等を考慮し，依頼に応じて編集・方式変換・衛星伝送や，カメラ，スタジオ，中継車など設備・機材の貸し出し，要員の協力・あっせんを行っている。

14年度の取材協力は，14か国・21放送機関に対して，延べ201件であった。

（１）時事リポート

15年３月，仙台で開催された「国連防災世界会議」では，JICAからの委託を受け，現地にて防災シンポジウムを開催した。討論内容をEテレ，NHK Worldで放送したほか，防災会議に合わせて，アジア４か国（インドネシア，フィリピン，スリランカ，ベトナム）から放送関係者を招聘（しょうへい）し，自国で放送するためのニュースや番組素材の取材・編集・伝送等を通して，番組制作に係る実地研修を行った。このほか，14年６月にはSMPTE東京会合の運営サポート，８月は放送文化研究所からの依頼による「RIPE@2014」のレセプション運営サポート，11月には技術研究所からの依頼による「日中韓放送技術・研究会議（DGBTR）」の運営サポートを実施した。

（２）スポーツ

スポーツ関係では，11月に大阪で開催されたNHK杯国際フィギュアスケート競技大会について，アメリカNBCやカナダCBCなど，ライツホルダー向けにホスト映像の配信やユニ伝送を実施

した。また，帯広で開催されたスピードスケート・ワールドカップでは，オランダ放送協会（NOS）およびドイツARDに対して，取材，伝送のサポートを行った。

「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

「日本賞」は1965年の創設以来，教育番組の国際コンクールとして，世界の教育番組の質の向上および国際理解と協力の増進に貢献してきた。各国の制作者が交流し議論する場や，メディアを利用した教育に関する最新情報を交換する機会として大きな役割を果たし，その結果，いわゆるメディア先進国ではない国や地域からも多くの参加を得ている。近年はインターネットをはじめとする情報技術の急速な進展やデジタル放送の開始など，著しい変化を遂げる教育メディアのデジタル化に対応し，コンクールの質を高めるために既存の対象年齢別カテゴリーの枠に収まらない革新的なメディア活用に挑む作品の顕彰も始めている。

14年の第41回コンクールは，「NHK文化祭」の一環として10月15日から21日の７日間，東京・渋谷のNHK放送センターで行われた。応募は62の国と地域の206機関から，コンテンツ部門に277本，企画部門に43本，合計で320本となった。

審査は，日本賞事務局が委嘱した世界９の国と地域の12人の審査委員によって厳正かつ公平に行われた。

12年の第39回からスタートしたIPCEM（イプセム：教育コンテンツ世界制作者会議）も，内容をさらに充実させ，世界のコンテンツ制作者や研究者による最先端情報と意見の交換が精力的に行われた。

最終日を飾る「授賞式」は101スタジオで行われた。審査委員，受賞者，大使館関係者などが出席し，俳優の別所哲也さんとNHKの首藤奈知子アナの司会により，活気あふれる雰囲気の中で各賞が授与された。

「グランプリ日本賞」は，イギリスのグリーン・ライオンズほか制作の映画「“自然と遊ぼう！”大作戦」が受賞した。（⇒p.655）

関連番組として，『第41回日本賞授賞式～世界をみつめる教育コンテンツ～』（Eテレ，11.1），『メディアがひらく、子どもたちの未来～日本賞2014から～』（Eテレ，12.28）でイベントと受賞作品の概要を紹介したほか，『まるごとみせます！世界の教育コンテンツ～日本賞2014から～』（Eテレ，12.31）と題して各カテゴリーの最優秀作をノーカットの日本語版で放送した。

詳細は，http://www.nhk.or.jp/jp-prize/

NHK文化祭

00年以来「教育番組の祭典」として親しまれてきた「教育フェア」が，10年度からは若者や大人も対象にした多様な教育文化的サービスを体験するイベント「NHK文化祭」に衣替えした。制作者が視聴者の反応や要望に直接触れ，コンテンツの新規開発を促進するイベントを目指している。

（１）「たいけん広場2014」

会館公開イベントの中核「NHK文化祭たいけん広場2014」は，11月１日（土），２日（日），３日（月･祝）の３日間行われた。制作および事業，関連団体等現場から企画を募集して実施。屋内・屋外・ふれあいホール・スタジオパークが一体となり，「きて、みて、つながる」を合言葉に来場者が一体感や参加感を楽しめるイベントを展開した。あいにくの不順な天候にもかかわらず，３日間の総入場者数は６万4,432人を記録した。

イベント展開場所のコンセプトを明確化し，イベントの性格（屋内外の別，観客の有無，収録や放送の有無など）とマッチすることを重視して，場所の決定や演出に努めた。

また，「ふるさとの食にっぽんの食東京フェスティバル」，「おかあさんといっしょファミリーコンサート」（有料チャリティー・イベント），スタジオパーク無料公開，チャロ食堂（５階食堂の一般開放）などのイベントも同時開催した。

（２）「アジア教育プロデューサー会議」

10月16～22日，NHKをはじめタイ･マレーシア・ブルネイ・モンゴル・ベトナム・ブータン・カンボジアの８放送局のプロデューサー計12人が集い，第４回「ABUデジスタ・ティーンズ」に向けて各国で開催された作品制作ワークショップの報告や，イベント，番組制作などについて議論した。同時にアジアの映像教育や，メディア教育のあり方などについても語り合った。

関連番組として『第４回ABUデジスタ・ティーンズ』（Eテレ，2.11）を放送したほか，英語版を３月15日，NHKワールドTVで放送した。NBT（タイ）がホストを担当しバンコクで12月14日に開催されたイベントには，NHKのほか，RTM（マレーシア）・NBT（タイ）・VTV（ベトナム）・RTB（ブルネイ）・MNB（モンゴル）を通して選ばれた各国代表ティーンズが大集結し，「Future」をテーマに制作した映像作品とそのメイキングを

紹介。アジア各国からの留学生も参加し，国際交流のもようを楽しく伝えた。

（３）関連番組編成

「日本賞」関連では，授賞式のもようを11月１日に放送したほか，世界の教育コンテンツの魅力を紹介する番組や，日本賞各賞の受賞作を年末を中心に特集編成した。

「たいけん広場」関連では，11月１日の『土曜スタジオパーク』（G）で会場のもようを生中継したほか，『ストレッチマン』（Eテレ）の番組20周年記念公開収録をはじめ，『エデュカチオ！』（Eテレ），『きょうの料理クッキングコンテスト』（Eテレ），『ワラッチャオ！』（BSP）など，会場イベントの様子を定時番組の中で紹介した。ラジオでも，『劇ラヂ！ライブ2014』の公開生放送，『基礎英語』の公開収録を行い，特集として放送した。

放送番組コンクール

Ⅰ．国際コンクール

14年度は，26のコンクールで延べ52の番組等が受賞した。

モンテカルロ・テレビ祭では，『NHKスペシャル』「特集ドラマ　東京が戦場になった日」が特別賞モナコ赤十字賞を受賞。ABU賞では，テレビスポーツ番組部門で『SUMO SPIRIT～A Storm from Egypt～』，ラジオドラマ番組部門で『FMシアター』「金魚の恋、五十五年の夢」がそれぞれ受賞。また，『NHKスペシャル』「あの日　生まれた命」が，ABUの視点賞部門で奨励賞を受賞した。

ワイルドスクリーン　フィルム　フェスティバルでは，『NHKスペシャル』「世界初撮影！深海の超巨大イカ」が，Against All Odds部門最優秀賞を受賞した。

国連国際防災テレビドキュメンタリー賞では『釜石の“奇跡”子どもたちが語る3.11』が防災に関するヒューマン・ストーリー部門にて最優秀賞を受賞した。

日本賞では，コンテンツ部門幼児向けカテゴリーで『ミミクリーズ　きいろとくろのヒミツ』が最優秀賞（総務大臣賞）を受賞した。

シカゴ国際映画祭テレビ賞では，特集ドラマ『ラジオ』が長編テレビ映画部門で金賞を受賞した。

Ⅱ．国内コンクール

14年度は，19のコンクールで延べ88の番組等が受賞した。

放送文化基金賞では，テレビドキュメンタリー番組部門で，『ETV特集』「三池を抱きしめる女たち～戦後最大の炭鉱事故から50年～」が最優秀賞を受賞した。また，テレビドラマ番組部門では『連続テレビ小説』「あまちゃん」が優秀賞を受賞。さらにテレビエンターテインメント番組部門では『NHKスペシャル』「足元の小宇宙～生命を見つめる植物写真家～」が最優秀賞を受賞した。

文化庁芸術祭ではテレビ部門ドキュメンタリーの部で夏期特集『君が僕の息子について教えてくれたこと』が大賞を，『BS1スペシャル』「女たちのシベリア抑留」が優秀賞を受賞した。

またテレビ部門ドラマの部で『土曜ドラマ』「足尾から来た女」が優秀賞，ラジオ部門ドキュメンタリーの部で『語り出す被爆遺品～69年目に明らかになる真実～』が優秀賞を受賞した。

「地方の時代」映像祭では，『NHKスペシャル』「里海　SATOUMI　瀬戸内海」がグランプリを受賞。また，放送局部門で『ETV特集』「ガタロさんが描く町～清掃員画家のヒロシマ～」が優秀賞を，『ETV特集』「三池を抱きしめる女たち～戦後最大の炭鉱事故から50年～」が選奨を受賞した。

ATP賞テレビグランプリでは『BS1スペシャル』「憎しみとゆるし～マニラ市街戦 その後～」がグランプリ，科学技術映像祭では『NHKスペシャル』巨大災害　MEGA DISASTER　地球大変動の衝撃　第４集「火山大噴火　迫りくる地球規模の異変」が文部科学大臣賞を受賞した。

アナウンス

１．公共放送の顔として多彩な業務を展開

14年度，アナウンサーは衆議院選挙をはじめ，広島土砂災害，御嶽山噴火災害，台風18号，19号への対応など，正確で迅速な報道による公共放送の使命達成に取り組んだ。

４年が経過した東日本大震災の関連番組には全国各局のアナウンサーがキャスターやリポート制作で関わり，被災地の現状を伝えた。

放送開始90周年の『90時間ラジオ』には全国29人のアナウンサーが参加し，放送の歴史を振り返

りながらラジオの魅力や役割を伝えた。

スポーツの国際大会では，ワールドカップサッカー・ブラジル大会，インチョンアジア大会，アジアカップサッカーなどに25人のアナウンサーを現地に派遣した。

全国のアナウンサーが制作する『インタビューここから』は12本を制作，報道局社会番組部との共管番組『100年インタビュー』は４本制作した。

15年３月末現在，アナウンサーは473人。内訳はアナウンス室126人，ラジオセンター・日本語センター・グローバルメディアサービス・地域放送局347人。女性アナウンサーは全国で82人。

（１）報道

〔衆議院議員選挙〕

12月の衆議院選挙の開票速報は，テレビとラジオを合わせて71人のアナウンサーが担当した。中継は全国で128か所にのぼり，特に事務所からの中継では候補者の主張を丹念に伝えた。総合テレビのメインキャスターは武田真一，データ紹介は松村正代，選挙区は高瀬耕造，比例代表は井上二郎らの各アナウンサーが担当。ラジオ第１のメインキャスターは出山知樹，選挙区票回しは高井正智，比例代表は兼清麻美，当確速報は片山千恵子の各アナウンサーが担当した。

〔災害報道〕

８月，広島市で発生した大規模な土砂災害では，当日朝にアナウンス室と大阪局から４人のアナウンサーを派遣。被害の実態や二次災害への注意を伝えた。その後も全国的な応援態勢を組んだ結果，１か月間に26人のアナウンサーが広島に入り，中継，スタジオ，ライフライン放送，デスク業務などに対応した。

９月，御嶽山の噴火災害では，長野局のアナウンサーが初動中継を担当したほか，当日にアナウンス室と名古屋局から応援のアナウンサーを派遣。１か月にわたり，全国から応援に入った11人のアナウンサーが中継やスタジオを担当した。

10月，台風18号，19号が相次いで上陸。このうち19号ではスタジオキャスターや中継リポーターとして全国で136人のアナウンサーが関わり，IP中継は記者が担当したものも含めると34か所，延べ104回にのぼった。

（２）一般番組

〔定時番組〕

14年度の定時番組ではテレビとラジオ合わせて132番組に，延べ206人のアナウンサーが対応した。総合テレビでは，『おはよう日本』に寺門亜衣子アナ，『おはよう日本（土日）』に和久田麻由子アナ，『ゆうどき』に合原明子アナなど，ニュース・情報番組に若手の女性アナウンサーを起用したほか，『日曜討論』に新たに中川緑アナを配置した。Eテレでは，『エデュカチオ！』に塚原愛アナ，『いじめをノックアウトスペシャル』に首藤奈知子アナなど，教育関連番組に中堅の女性アナウンサーを起用した。BSプレミアムでは，『世界で一番美しい瞬間（とき）』の旅人をアナウンス室と全国の若手アナウンサーが担当した。

〔特集番組〕

夏の特集編成では，戦争や平和を考える特集や宇宙関連の特集など53番組に，延べ61人のアナウンサーが対応した。『思い出のメロディー』の司会を高山哲哉アナが担当したほか，開発番組では『おしえて！ガッカイ』を橋本奈穂子アナ，『所さん！　事件ですよ』を徳永圭一アナが担当した。

年末年始の特集編成では，家族そろって楽しめる特集，日本の伝統芸能や文化を紹介する特集など83番組に延べ122人のアナウンサーが対応した。『紅白歌合戦』の総合司会は有働由美子アナが３年連続の担当となった。また若年層を紅白に呼び込むための初の試み「紅白宣伝部」は，サブチャンネルの「ウラトーク」の司会とともに久保田祐佳アナが担当した。大型番組では『日本列島誕生～大絶景に超低空で肉薄！～』を小田切千アナと和久田麻由子アナ，『NHKスペシャル』戦後70年ニッポンの肖像「プロローグ　私たちはどう生きてきたか」を三宅民夫アナと有働由美子アナが担当した。

３月の東日本大震災４年関連番組では，『週刊ニュース深読み』を宮城県気仙沼市の特設スタジオから生放送。キャスターを小野文惠アナ，リポーターを徳永圭一アナと中山準之助アナが担当した。『特集　明日へ　－支えあおう－　震災から４年　つなげよう』は福島県南相馬市の仮設小学校をキーステーションに，「つなぐ」をテーマにおよそ５時間の生放送。キャスターを畠山智之アナと伊東敏恵アナが担当したほか，浅田真央選手が仙台市で行うスケート教室の様子を杉浦友紀アナが中継で伝えた。『明日へコンサート』のステージ司会は４年連続で有働由美子アナが担当した。『NHKスペシャル』では震災関連の４本のナレーションをアナウンサーが担当した。R1ではアナウンス室，仙台局，福島局のアナウンサーが中心となって３夜にわたってラジオ特集を制作し，被災地の思いや課題を伝えた。

３月の放送開始90周年のラジソン『90時間ラジ

オ』は，総合司会の山本哲也アナと武内陶子アナをはじめ全国29人のアナウンサーが司会やリポーターとして参加した。ラジソン初日には，テレビ・ラジオ同時放送となった『あさイチ』のキャスターがラジオブースから番組を開始し，テレビの視聴者にもラジオを聴いてもらうきっかけを作った。また，ラジオカーが南は鹿児島から，北は北海道からそれぞれ東京を目指した旅では，地域局のアナウンサー８人が故郷のメッセージを中継で伝えた。

（３）スポーツ

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を受けて，より多くのアナウンサーにスポーツの現場を経験させるため，国際大会には積極的に若手を起用した。

「ワールドカップサッカー・ブラジル大会」（６月13日～７月14日）には９人の実況アナウンサーを現地に派遣。国内でもテレビやラジオの実況要員とスタジオキャスターに全国の若手中堅の22人を起用した。決勝の実況は，W杯サッカー６回目の内山俊哉アナが担当した。

「ウインブルドンテニス」（６月23日～７月６日）には４人のアナウンサーを実況で派遣した。

「インチョンアジア大会」（９月19日～10月４日）には８人のアナウンサーを現地に派遣。この内の４人は初の本格的な国際大会派遣であった。国内のスタジオキャスターには地域局の若手アナウンサーを起用した。

「アジアカップサッカー」（１月９～31日）には３人の実況アナウンサーを現地に派遣。この内の１人は海外での現地スポーツ実況は初担当であった。

「全豪オープンテニス」（１月19日～２月１日）には経験豊富なベテランと中堅の２人のアナウンサーを派遣した。

２．アナウンス室制作番組

全国のアナウンスが制作するインタビュー番組として20年間続いていた『ホリデーインタビュー』を，14年度から『インタビュー　ここから』にリニューアルした。ゲストの人生の原点や転機をよりシャープに描く演出を取り入れて，「パラリンピアン・佐藤真海」「元F1レーサー・中嶋悟」「版画家・名嘉睦稔」「ロボット学研究者・石黒浩」「児童文学作家・上橋菜穂子」「漫画家・楳図かずお」「ゲージツ家・KUMA」「落語家・月亭方正」「料理人・西芳照」「作家・真山仁」「漫画原作者・田島隆」「有田焼人間国宝・十四代　今泉今右衛門」の12本を制作した。年間の平均視聴率は5.2%で，13年度の『ホリデーインタビュー』に比べて0.9ポイント高くなった。

８年目を迎えたBSPの特集番組『100年インタビュー』は14年度から報道局社会番組部との共管となり，「日本サッカー協会最高顧問・岡野俊一郎」「登山家・田部井淳子」「サックス奏者・渡辺貞夫」「ノンフィクション作家・澤地久枝」の４本を制作した。

『情報まるごと』のことばコーナー「トクする日本語」では，杉原満アナが視聴者からのことばに関する疑問に答える演出で，暮らしに役立つ日本語を毎週月～水に放送した。

『ラジオ深夜便』のインタビューシリーズでは，「戦争・平和インタビュー」を５本，「人権インタビュー」を４本制作した。全国の若手アナウンサーが，被爆者や戦災傷害者の体験，戦争資料の発掘に取り組む若者の思い，子どもの貧困，生活保護受給者の人権問題などを聞いた。

“耳で聞く短編小説”として，アナウンサーの朗読で幅広く文学作品の魅力を届けるR1『ラジオ文芸館』は，新作27本，アンコール22本を放送。朗読，スピーチ，敬語などのノウハウを分かりやすく紹介するR2『ことば力アップ』は，新作32本，アンコール20本を放送した。

ラジオ特集では，若者向けの討論番組『ガチゴエ』を11月にR1で放送。ブラックバイトや若年介護者など若者を取り巻く問題を取り上げ，10代，20代からツイッターで寄せられた意見を紹介しながら，生放送で議論した。

映像デザイン

映像デザイン部は，番組やイベントなど協会に関わるビジュアルの根幹を担い，細やかで高度な専門性を集結し，質の高いデザインを提供することで，より豊かなコンテンツの創造に寄与した。

映像デザインを行った番組としては，『NHKスペシャル』「報道・スポーツ番組」「教育・文化福祉番組」「ドラマ番組」「音楽・芸能番組」と，すべてのジャンルで貢献している。また，さまざまなコンテンツに対応できる幅広いノウハウの蓄積と新たな表現手法の開発を行い，未来のデザイン発展へとつなげる取り組みを継続して行った。

さらに，12～14年度デザインセンター事業計画に基づき，NHKブランド力強化への貢献，業務の高度化への対応，放送資産の活用など，全局的な視点に立った取り組みも展開した。

１．番組制作における映像デザイン

（１）NHKスペシャル・大型企画番組

『NHKスペシャル』「カラーでよみがえる東京～不死鳥都市の100年～」では，フランスでのカラー化をデザイナーが監修。着物や帯など細やかな和のニュアンスについては，日本国内でも作業を行い，クオリティーアップにつなげた。番組のキービジュアルに歴史の層をイメージとして用い，タイトルやウェブページでも展開した。「医療ビッグデータ」においては，インターネット展開をにらんで，医療データの可視化や魅力的なトータルデザイン対応を図った。「ジャパンブランド」においては，13年に好評だった番組イメージをブラッシュアップして，より分かりやすく親しみやすいデザインとした。

「ネクストワールド 私たちの未来」では，多様なクリエイターと共に，最新のテクノロジーを駆使し，2045年をイメージした人工知能が制御する未来のライブショーをオープニングとして生中継した。

（２）報道・スポーツ番組

衆議院選挙では，開票速報本部のスタジオを明るい色合いのビジュアルで設計し，親しみやすいデザインを実現した。また，『ニュースウオッチ９』「党首を追って」，『2014衆院選　列島ドキュメント』，『NHKスペシャル』「徹底討論　政治はどう動くのか」など一連の選挙関連番組にも柔軟に対応した。

『高校野球100年ものがたり』では，放送とインターネットコンテンツによる多角的なサービスにむけて，統一されたトーン＆マナーを用いた，視聴者との情報コミュニケーションを実現した。

（３）教育・文化福祉番組

『はに丸ジャーナル』では，懐かしの“はに丸くん”が時代を超えたプレゼンターとして登場。ほんわりテイストのキャラクターとのギャップを意識して，スタジオはスタイリッシュな海外ニューススタジオのようなデザインにまとめた。『所さん！　事件ですよ』では，全国津々浦々の事件の報告と相談が行われる所さんの“秘密ガレージ”をコンセプトに空間設計。黄色と黒の注意喚起カラーによるキャッチーなデザインとなった。『未来広告ジャパン！』では，“ジャパン”要素を随所にちりばめた特徴ある広告会社をイメージしてデザイン。『おんがくブラボー』は，カエルの音楽研究所をコンセプトにデザイン。楽譜を図形化していくアニメーションでは，音楽をより身近に感じられるような表現を行った。

（４）ドラマ番組

『連続テレビ小説』「花子とアン」では，山梨の農家の生活と東京の高等教育現場，また，昭和初期の大戦前後における時代の混乱と安定などを対比させながら緻密に表現した。劇中で重要な意味を持つ“本”については，より制作に力を入れた。

14年『大河ドラマ』「軍師官兵衛」では，黒田官兵衛自身の成長に合わせ，青年期を“青の軍師”，幽閉以降の時代を“黒の軍師”とキャラクター設定し，“美しい戦国”を目指して大規模なオープンセットや，合戦シーンなどの表現において，正統派の“大河ドラマ美術”を実践した。

15年『大河ドラマ』「花燃ゆ」においては，明治維新期の「動乱の時代」を，吉田松陰の妹からの目線で描き，軽やかさと華やかさを持った美術表現を行った。

『ドラマ10』「サイレント・プア」「さよなら私」では，女性がターゲットであることを意識した美術表現とした。『木曜時代劇』「吉原裏同心」「風の峠～銀漢の賦～」などでは，新たな時代劇表現の模索を，『土曜ドラマ』「ロング・グッドバイ」「55歳からのハローライフ」「芙蓉の人」「ダークスーツ」「限界集落株式会社」では，より革新的な美術表現を目指した。

また，次世代高精細映像ドラマとして『放送90年ドラマ「紅白が生まれた日」』を全編４K制作。新たな美術表現にトライし今後の「礎」とした。

（５）音楽・芸能番組

『第65回NHK紅白歌合戦』のステージデザインコンセプトは“全員参加でつくる，2014年のタイムカプセル”。大道具の転換スキルと最先端の曲面LED映像を融合し，ステージを次々と変化させていくダイナミックな舞台演出に挑戦した。生放送における転換などを熟知した確かなデザインスキルを今後も継承していく。

『震災から４年　明日へコンサート』では，初めてメイン会場が局内の101スタジオとなり，NHKホールでは実現不可能な360度のステージングを実現。700人の観客がステージを取り囲み，歌手とオーディエンスが一体となって震災復興を願った。震災被害を受けた人々に向けてゆかりのあるアーティストを招いた震災復興支援コンサート『つなげるコンサート』を，茨城県日立市で公開収録。客席とステージをつなげる“リング”，人々の指針となる“柱”，“温かい木のぬくもり”をテーマにデザインした。

『第46回思い出のメロディー』は，ステージ上の演奏者や，生放送ならではの動きを演出として取り込むステージデザインで，臨場感あふれるショー展開を設計した。

２．地域支援関連

地域局支援としてのセット改修は，14年度で４回目となり，四国地方の３局で実施した。これまで実施した東北，中部，中国，九州・沖縄での実績を踏襲し，各地域局の個性や特徴を生かし，東京のニュースセンターや各拠点局のニューススタジオとのトータル感を提供することで，視聴者にNHKブランドをより強く意識してもらう取り組みとした。

京都局の新放送会館においては，スタジオセットや番組ごとのグラフィックデザインにとどまらず，オープンスペースの８Kモニターで上映されるクラッチ映像や，最寄り駅の階段ラッピングなども含めて，新たな地域の顔としての放送局をトータルにデザインした。

３．コーポレートデザイン

番組のデザインによる美術貢献に軸足を置きつつも，他部局との連携を深めながら，『連続テレビ小説』『大河ドラマ』『NHKスペシャル』を中心に，NHK全体のビジュアルを意識したトータルデザインを推進した。

データ放送画面，テレビ４波のトップページデザインを全面改修。各波の個性を生かしつつデザインの統一感を強く打ち出し，同時にデータの軽量化による利便性向上にも取り組んだ。

「渋谷DEどーも2014」「NHK文化祭」などのイベントのデザインにもトータルな視点で貢献した。

また，「８K」のロゴを軸に，NHK初の８K中継車のパッケージ，各種パンフレットなどのデザインを担当した。

INPUT（世界公共放送番組会議）ヘルシンキ大会において，NHKからの派遣団用に揃いの法被と扇型リーフレットを作成し，15年度東京大会のアピールに貢献した。

４．CG・VFX窓口

14年度よりデザインCGコーディネート窓口からCG・VFX窓口と名称を変更し，これまでのペイントリソースの管理運用，CG発注のコーディネーション機能に加え，番組や広報関連の制作物においてもアートディレクションの役割を強化し，番組対応で実績を重ねた。『放送90年ドラマ「紅白が生まれた日」』では４KのVFX制作をコーディネーション，編成主導の年間プロモーション「放送90年」「認知症」キャンペーンのデザインも企画段階から対応した。

５．共同研究

映像デザイン部と昭和女子大学，同大学院特任教授である平井聖先生の三者による共同研究「江戸城・本丸御殿」は，15年３月をもって約７年に及ぶ研究を完了した。研究成果としては，本丸（表・中奥・大奥）全体で古図面から建築考証を経て復元したデジタル図面383枚。狩野晴川院の小下絵を基に，障壁画考証を経て復元したデジタル障壁画1,802枚。それらを基に３次元CGで日本最大規模の居城「江戸城・本丸御殿」を復元。これらの映像化により，徳川家定や家茂，慶喜ら三代の将軍家，篤姫や和宮らが暮らした幕末期の江戸城本丸全体像の可視化と居室内のバーチャル体験が可能になった。これらの復元図面や障壁画，３次元CG等をアーカイブ化し，コンテンツ制作の一助となる資料展開を図り，「デザインアーカイブス」と連動した，デザイン資産の有効活用を目指す予定である。

６．CS向上活動

公共放送NHKのブランド力アップのため，デザインの分野からのCS向上活動を行った。「渋谷DEどーも2014」において，「おきあがれ！コボシくん」を制作。「アナウンサーコボシ」として，おなじみのアナウンサーが制作したコボシを参考に来場者がオリジナルこぼしを作成するというイベントで，３日間で2,167個のコボシくんが誕生，好評を博した。

芸術系の大学生を対象に例年開催している「NHKデザインセッション」は，ふれあいホールに会場を移し規模を拡大，過去最大の参加者を集めた。地域に出向いての「デザインセッション」についても，神戸，愛知で開催した。

音響デザイン

音響デザイン部は，コンテンツを音から支える専門家集団として，高い専門知識とスキルで放送サービスを充実させ，NHKが国民に約束した経営計画の実現に取り組んできた。14年度もNHKブランド力強化への貢献，独自のライブラリーミュージックの充実，22.2ch超高臨場感立体音響番組の制作など，放送音響デザイン界の先導的役割

を担った。

芸術祭受賞作『君が僕の息子について教えてくれたこと』，『土曜ドラマ』「足尾から来た女」をはじめ，殺陣音（たておん）を最新の技術で録り直して鮮烈な音響デザインを施した『大河ドラマ』「軍師官兵衛」，明治から昭和を生きた女性たちの夢を音で力強く後押しした『連続テレビ小説』「花子とアン」「マッサン」，音楽とCGを生放送で高度に融合させ近未来世界を斬新な感覚で描いた「ネクストワールド」やカラー化された古いフィルムを考証された音で飾った「カラーでよみがえる東京」，４年目の震災報道などさまざまな内容の『NHKスペシャル』など，楽曲制作を含めてトータルな設計で音響プロデューサーとして番組演出の一翼を担ってきた。22.2ch音響では『絶景体感　宇宙』の制作やアップコンバーターの開発などを手掛けた。

１．番組制作関連

（１）東日本大震災関連番組

東日本大震災発生から３～４年となる14年度，震災を扱う多様なアプローチの番組が制作された。音響デザイン部では『NHKスペシャル』『クローズアップ現代』『ETV特集』『明日へ－支えあおう－』『こころフォトスペシャル』をはじめ，『ドキュメント72時間』『地方発　ドキュメンタリー』および東北管内各局制作番組等で東日本大震災を扱った番組を担当。それぞれのコンテンツの目的を精査し，視聴者の関心を喚起しながら，番組の持つメッセージが的確に伝わるよう音響構成に取り組んだ。丸３年が経過し，被災者と他地域住人との意識のかい離や記憶の希薄化も心配される中，新たに持ち上がった問題や，復興への障害などを扱う番組では，被災者の心情に最大限の配慮をもってサウンドデザインに臨んだ。

特に震災４年となる３月には『NHKスペシャル』６本，『特集　明日へ－支えあおう－　震災から４年　つなげよう』をはじめとする震災関連番組が多数制作され，音響デザイン部の総力を挙げてこれに臨んだ。

（２）『NHKスペシャル』

政治・経済・社会・文化・福祉・自然など多岐に渡る番組に高度な音響表現で対応した。

「巨大災害　MEGA DISASTER」シリーズでは，異常気象，台風，地震，火山のメカニズムを紹介するにあたり，ダイナミックなSE（効果音）と壮大なオリジナル音楽で，人智を超えた地球の営みを表現するなど，視聴者の想像力を喚起させる音響デザインを実現した。

「ネクストワールド」シリーズでは生放送において“サカナクション”のライブ演奏とCG映像・生コメントを精密に同期させ，近未来の世界観を端的に表現。内容においては先鋭的な創作SEを多用し，コンテンツの価値を上げた。

“戦争と平和”を考える番組として終戦記念日前後に放送された「狂気の戦場　ペリリュー」「水爆実験　60年目の真実」「少女たちの戦争」，シリーズ日本新生「戦後69年　いま“ニッポンの平和”を考える」，「知られざる衝撃波」では，新たに発掘された資料，事実を多数紹介。それぞれの番組構成を丁寧に読み解き，音響構成を行うことで視聴者に鮮烈な印象を残した。

「知床　ヒグマ運命の旅」「神秘の球体　マリモ」「ホットスポット　最後の楽園　season２」シリーズでは，自然環境系SEや動植物の音を丁寧に作り込み，大自然の不思議，自然ドキュメンタリーのダイナミズムを余すところなく表現した。

「シリーズ日本新生」では，討論形式の演出手法に合わせ，スタジオでの討論へのつながりを考慮したVTR音響構成を実践した。

「京都御所～秘められた千年の美～」では，番組の音楽委嘱にあたり，京都局新放送会館オープン関連事業と統一イメージを構築。会館で公開されるコンテンツや，ローカルニュースステーマにも展開し，京都のアイデンティティーを印象づけた。

未解決事件　File.04「オウム真理教　地下鉄サリン事件」では，新資料を基に事件発生までの過程を立体的に再現。ドラマ手法も取り入れた番組構成に対し，リアルな効果音と深層心理に迫る音楽を用いて音響デザインを行い，番組に深みを持たせた。

（３）報道・スポーツ番組

報道番組では，『クローズアップ現代』をはじめ，災害報道・政治・経済・国際情勢を扱う番組において，最新の情報を丁寧に分かりやすく構成する音響デザインを実践。時々刻々と状況が変化する事象にも機動力を発揮して対応した。

12月に行われた衆議院議員選挙では，開票速報特番の音響効果をトータルコーディネート。公正で分かりやすい音楽・効果音を提案し，正確な情報を印象づけた。そのほか選挙報道番組にも対応した。

６月から７月にかけて開催されたワールドカップサッカー・ブラジル大会では，中継番組や，ダイジェスト番組にチームを組んで万全の態勢で対応。また，NHKサッカーテーマソングとして椎

名林檎に作曲を委嘱。完成したオリジナル曲「JAPAN」は，ワールドカップをはじめ，Jリーグ，天皇杯などサッカーテーマとして広く使用され，好評を博している。

９月から10月の『アジア競技大会』では中継番組等の対応のほか，イメージソングとしてファンキー加藤「終わらない未来」を採用，事前PRから使用し，大会を盛り上げた。

（４）情報・教養・開発番組

『プロフェッショナル　仕事の流儀』『先人たちの底力　知恵泉（ちえいず）』『新日本風土記』『ドキュメント72時間』『地球イチバン』『ファミリーヒストリー』『ETV特集』等，レギュラー番組において，それぞれの番組カラーを前面に打ち出し，訴求力を高めるサウンドデザインに尽力した。

自閉症の若者と外国人作家のふれあいを描いた『君が僕の息子について教えてくれたこと』では，人の優しさや，温かく見守り理解しようとする姿勢と過程を統一感のある楽曲で構成。文化庁芸術祭大賞の受賞に貢献した。

開発番組『ドキュメント　決断』ではダイナミックで強い印象を残すテーマ音楽を制作。さまざまな社会問題を投げかける番組カラーを際立たせ，15年度新番組『NEXT　未来のために』につなげた。

同じく開発番組『所さん！　事件ですよ』（15年度の新番組『所さん！　大変ですよ』）では，さまざまな社会問題の背景を調査，スタジオで議論する番組演出に合わせ，視聴者の興味を引き付ける音響構成を実践し，エンターテインメント性の高い情報番組とした。

（５）ドラマ番組

『大河ドラマ』「軍師官兵衛」では，主人公官兵衛が生きた戦国の世を重厚な音響表現で提示。番組開始時には殺陣音（たてちん）も一新し，ダイナミックな戦国時代を描いた。また，菅野祐悟氏による音楽は，武のみに頼らない天才軍師の人間像を引き立たせ，主役の魅力を存分に引き出した。

『連続テレビ小説』「花子とアン」は明治～昭和の激動の時代に生きた女性たちの夢と可能性を音と音楽で力強く後押しした。梶浦由記の音楽は大地に根ざした郷愁と，非日常の「物語」の世界を鮮やかに彩り，ロマンにあふれた世界観が視聴者の好評を博した。

神戸局制作『LIVE！LOVE！SING！』は震災20年の神戸と震災４年の福島をつなぐ若者たちの物語。南相馬市・浪江町での避難指示解除準備区域でのロケでは，帰郷できない被災地の人々も多数参加し，劇中音楽にも福島と神戸の子供たちが大勢参加。震災から４年経過した現地の状況とそこに向き合う若者たちの葛藤と希望を繊細に描いた。

『放送90年ドラマ「紅白が生まれた日」』では音響は5.1chサラウンドで作成し，終戦直後の人気曲を忠実に再現。また劇伴（伴奏音楽）ではテーマ曲にコーラスを使用。「歌の力」を存分に押し出し，見応えのあるエンターテインメントに仕上げた。

このほか『土曜ドラマ』『ドラマ10』『特集ドラマ』『木曜時代劇』『プレミアムドラマ』『プレミアムよるドラマ』においても，それぞれの番組の特徴を生かした音響設計を行い，『土曜ドラマ』「足尾から来た女」は第69回文化庁芸術祭テレビドラマ部門優秀賞受賞した。

また，地域局発のドラマ『さぬきうどん融資課』（高松），『ライド　ライド　ライド』（宇都宮），『戦艦大和のカレイライス』（広島），「ザ・ラスト・ショット」（秋田），『鵜飼いに恋した夏』（京都）に音響デザイナーを派遣。ロケ収録，現地ＭＡ等の番組制作支援を行い，求められる専門性を存分に発揮した。

オーディオドラマでは『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』『特集オーディオドラマ』において，それぞれの特徴を生かしたラジオならではの音響デザインを行った。

（６）22.2ch超高臨場感立体音響

14年度は，13年度から更に多くの技術的なチャレンジがなされ，本格的に８Ｋ制作が始動した。SHV専用ＭＡ室606スタジオが完成し，試験放送を見据えたナレーションありのコンテンツが大幅に増加した。夏に幕張で開催された宇宙博の展示の目玉となった８Ｋ『絶景体感　宇宙』では，360度上下左右を利用した体感型の立体音響の表現を追求し，『富士山　森羅万象』『牧野植物ふしぎ図鑑』では自然系の環境音の設計を模索。福島の桜をモチーフにし『remembering home town 福島の桜』では現地の音を徹底的に高臨場録音して，ありのままの風景を音で体感するコンテンツを制作した。

また，音響デザイン部で開発した音楽22.2chアップコンバーターやマルチマイクアレイの運用を年間通じて検証し，『８Ｋ紅白2015』での歌オケの高臨場化やサラウンド歓声収録につなげ，22.2chサラウンドのエンターテインメント系歌番組における表現方法の基礎を作り上げた。今後，紅白等

の８K生中継での検証をもとに，スポーツコンテンツでのアップコンバーターの有効な使用方法を他部署と連携して取り組む予定である。

劇伴の収録方法についても音声と協議し，音楽を２K用，８K用に同時録音する方法を提案した。『NHKスペシャル』「京都御所～秘められた千年の美～」で録音した音楽素材を22.2chに改めてミックスダウンし，８K京都新開館コンテンツ『JAPAN COLLECTION百花繚乱』を制作。

16年の試験放送にあたり，４K5.1chサラウンドコンテンツも例年より増加している。22.2chサラウンドも含め，サラウンド音響スキルの継承に力を注いでいく予定である。

２．番組企画関連

85年４月から放送が始まった『音の風景』は30年目を迎えた。日本の津々浦々，ときには海外にまで範囲を広げ，音の魅力を伝える音声波のミニ番組である。14年度は５分の通常版を40本制作した。ナレーターは中川緑アナ。新作と再放送を合わせ，FMで６枠，R1で１枠，R2で19枠の放送を行った。このうちR2･16:20～の枠は『音の風景』セレクションとして365日，毎日違う内容を放送した。番組ホームページではサンプルとして番組の一部を試聴できるほか，番組内容や取材風景を写真や地図上で詳しく紹介している。

過去の放送素材や音響デザインサウンドライブラリーの所有する膨大な音源を利用した「新幹線開業50年」「東京駅100周年」など，過去と現在を比較するコンテンツを作成した。また，新たに導入した超小型マイクロフォンによる「風を切って唸（うな）る！けんか凧（だこ）」や「高度３万メートル　成層圏への旅」など，従来の録音方法では成しえない音源を収録したコンテンツを多数作成し，リスナーに新しい魅力を提示した。その他，「はやぶさ２打ち上げ」やブルートレインの最後となる「北斗星ラストラン」など資料的価値の高い事象に対しては，他部局との協力，連携を取りながら積極的に取材制作を敢行した。

３．設備関連

８Kコンテンツの制作体制強化を見据えて，建設計画で採択された効果音準備室SE1の22.2chサラウンド対応整備が完了した。13年度に開発した，ステレオからリアルタイム変換する音楽22.2chアップコンバーターの小型化，配線の省略化を施し，パラメーター設定用コントローラーを改良した。また，22.2chサラウンドロケ用に8ch仕様のマルチマイクアレイを名古屋局技術と共同開発。アップコンバーター，マルチマイクアレイともに番組技術展で発表した。

２Kでは，ドラマセルが始動するにあたり，他部署と連携して準備用の映像素材のコーデックを決定し，素材受け渡しのフローを整え，現場でのスムーズな移行に備えた。

４．サウンドステーション・ライブラリー

季節の地域シリーズの録音を今年も継続した。番組に必要な日本のさまざまな地域音を年間通して収録する目的で，『連続テレビ小説』「まれ」の舞台となる石川県にて定点録音を敢行した。

また，迅速な国際放送・インターネット，二次展開に対応するために，著作者の権利が切れているパブリックドメイン曲で，かつすべての展開に対応したクラシックピアノ，ジャズ音楽の録音を敢行，番組の背景音楽素材の拡充を行った。

８Kコンテンツの増加に備えて，8chマルチチャンネルベーシックライブラリーの録音を開始した。番組の基礎となる空気音，海，川等のマルチチャンネルベース音収録を目的とする。名古屋局での録音研修を皮切りに箱根，立山，福島，NHK大阪ホール，種子島など，番組での汎用性の高い音を蓄積している。また，他部署で録音された８Kロケ音源の中で，番組でも繰り返し使える汎用素材も集積し，増加する制作に備えている。

５．事業計画関連

（１）ミュージックライブラリー

「NHKミュージックライブラリー」は，オープンから３年，外部効果担当者も含めて総ユーザー数1,000人を数えるまでに利用が拡大した。全国43局の57のニュース・情報番組で定時使用されているほか，国際放送17言語でも定時使用されており，放送現場に確実に定着してきている。14年度の新たな取り組み「国際展開・二次展開を目指す単発Nスペの楽曲委嘱」では，『NHKスペシャル』「京都御所～秘められた千年の美～」「メルトダウン　File.5」など５番組の委嘱を実施。海外番販や二次展開などを可能にした。「ラジオ第２放送の完全ライブラリー化」では，いくつかの再放送番組を除き，ほぼ目標を完了した。またベーシックライブラリーでは，これまで継続的に自然番組・趣味実用番組を対象とした楽曲制作を続けてきたが，これに加え市販CDの“独壇場”であった情報バラエティー番組をターゲットとした楽曲制作にも着手。放送番組での一層の浸透を図っ

た。

（２）にっぽん動物暦

番組制作支援のためのウェブデータベース「にっぽん動物暦」の開発に着手して３年目。全国の制作現場のディレクターや音響デザイナーが手軽に利用できるように，パソコンに加えてタブレット端末での利用を視野に入れて開発した。生息分布地図をより精緻なものにするとともに，検索方法も工夫して，季節や地域から探す方法に加えて，大きさや色，鳴き方の特徴などからも検索を可能にした。環境省による調査データをベースに，日本野鳥の会や京都大学の独自資料を重ね合わせる事で，国内で見られる鳥，かえるの鳴き声や写真・動画ほぼすべてを網羅したデータベースとなった。（データ数　鳥326件・かえる46件）

補完放送

Ⅰ．データ放送

2000年12月１日のBSデジタル放送の開始とともに，デジタル放送ならではの新しいサービスとしてスタートしたNHKのデータ放送は，「生活をより便利で豊かにするサービス」「緊急時に役立つサービス」を基本に放送を行っている。

03年12月１日に東京・大阪・名古屋で開始された地上波データ放送は，06年12月１日までに全国の都道府県庁所在地とその周辺で放送がスタートした。07年10月１日をもって，NHKの全放送局が独自のデータ放送を送出するようになった。

データ放送は，映像・音声による通常の番組（本線番組）と連動しない「独立型」と，本線番組と関連した内容を同時に放送する「連動型」に分けられる。さらに，長期間定時的に編成する「定時」，一定期間編成する「特集」，地震・津波発生時や気象警報発令時などに随時編成する「随時」に分類される。また，「連動型」の一形態として，リモコンを使ってアンケートやクイズに参加できる「双方向型」がある。

１．地上データ放送

総合テレビでは，データ放送を地域サービスの柱としており，地域と全国の『ニュース』『気象情報』とともに，独立型データ放送で暮らしに役立つ地域情報や生活情報を放送した。また，防災や生活に役立つ情報として『台風情報』や『大雨情報』『地震・津波情報』そして13年８月30日から運用が開始された『特別警報』等を随時放送した。

また，データ放送とインターネットに同時に情報発信できる「災害情報入力システム」の運用を13年６月に開始。同システムと自治体の避難情報等を伝える「公共情報コモンズ」との連携を推進している。

特集番組では，『第65回NHK紅白歌合戦』や『国民総参加クイズSHOW！　QB47』『国民アンケートクイズ　リアル日本人！』等で視聴者参加の双方向型データ放送を実施した。

FIFAワールドカップ2014においては，独立型データ放送で「試合日程・結果」，「放送予定」，「チーム紹介」などを掲載，日本戦にあわせて連動型データ放送「みんなで応援」を編成した。

〔定時番組の概要〕

（１）総合テレビジョン

○独立型

・『ニュース』（地域および全国）
　各地域の地域向けニュースと全国ニュース。

・『気象情報』
　３時間ごとの天気，週間天気，気象の現況など。

・『地域情報』
　各地域放送局が，地域情報，防災情報，生活情報等を提供する，きめ細かな地域向けサービス。

○連動型

・『大河ドラマ』『連続テレビ小説』

○双方向型

・『あさイチ「スゴ技Q」』

（２）Eテレ

○独立型

・『アニメ　ベイビーステップ』『アニメ　ログ・ホライズン』
　番組紹介のほか，番組キャラクターのコレクションやテニスゲームなどで遊ぶことができた。

○連動型

・『グレーテルのかまど』『アニメ　ベイビーステップ』『アニメ　ログ・ホライズン』

（３）ワンセグサービス

06年４月から地上デジタル放送でワンセグサービスを開始し，08年４月からは地域向けサービスを全国の放送局で開始した。データ放送は，総合テレビでは『ニュース』『気象情報』のほか，『プロ野球』『Jリーグ』『大リーグ』などのスポーツ情報や，『大河ドラマ』などの番組関連情報を携帯電話の通信機能を生かして提供した。また，緊急時の『地震・津波情報』などを随時放送した。

Eテレでは，一部の時間帯でワンセグ独自サービス『NHKワンセグ２』を編成し，多様な番組

を放送するとともに連動型データ放送を行った。

２．BSデータ放送

BS1の独立型サービスとしては,『ニュース』『気象情報』『スポーツ情報』『円と株～経済情報～』などの定時サービスのほか，防災や生活に役立つ情報として『台風情報』『大雨情報』『地震・津波情報』を随時放送した。

BSプレミアムでは，独立型サービスとして『BSプレミアム番組情報』を，また連動型サービスとして『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』『世界ふれあい街歩き』などを放送した。また，対象番組を見るとマイルがたまり，番組観覧や記念品などの特典に応募できる「BSマイル」，視聴した番組を自動的に記録する「BSダイアリー」の２つからなる「BSネットサービス」を開始した。

〔定時番組の概要〕

（１）BS1

○独立型

・『ニュース』（全国）
24時間いつでも見ることのできる最新の全国ニュース。

・『気象情報』
「市区町村別の天気」や「週間予報」など，日常生活や防災に役立つ気象情報。

・『スポーツ情報』
プロ野球，Jリーグ，大リーグなどの途中経過・結果速報など。

・『円と株～経済情報～』
株価と為替を中心とした経済動向の速報サービス。

（２）BSプレミアム

○独立型

・『BS番組情報』での番組紹介や，『大河ドラマ』など個別番組の情報を提供した。

○連動型

・『大河ドラマ』『連続テレビ小説』『世界ふれあい街歩き』など。

Ⅱ．字幕放送

テレビ音声を文字で表示する「字幕放送」などの補完放送を実施している。

字幕放送は，07年秋に総務省が策定した「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」(08～17年度・以下“新指針”とする）の趣旨を踏まえ，NHK独自の「字幕拡充計画」を基に，計画的かつ段階的に拡充を図っている。公共放送の重要な役割として，バリアフリー放送＝“人にやさしい放送”の充実を図り，情報保障の推進に積極的に取り組んでいる。

14年度は，総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムを合わせて，276番組・週287時間55分（定時番組・４月期改定）に字幕を付与した。

各波の週平均の放送時間は以下のとおり。

総合　119時間15分
（対13年度比較　＋６時間02分）

Eテレ　82時間25分
（対13年度比較　+10時間26分）

BS1　10時間13分
（対13年度比較　＋１時間10分）

BSプレミアム　76時間02分
（対13年度比較　＋５時間38分）

完プロ（収録）番組は，定時番組以外は夏，冬の特集編成，祝日編成を中心に字幕放送を実施した。

生字幕放送は，『しあわせニュース』（総合・４本）のほか，『阪神・淡路大震災20年　あの日を胸に“生きる”』（総合・1.17）などで実施した。

東日本大震災から４年関連番組では，『特集明日へ　－支えあおう－　震災から４年　つなげよう』（総合・3.8），『震災から４年　明日へコンサート』（総合・3.9）などで生字幕放送を実施した。

スポーツ中継では，『競馬　第74回皐月賞』（総合・4.20），『競馬　第149回天皇賞』（総合・5.4），『競馬　第19回NHKマイルカップ』（総合・5.11），『競馬　第81回日本ダービー』（総合・6.1），『第53回NHK杯体操』（総合・6.8），『第96回全国高校野球選手権大会～準々決勝～』（総合・Eテレ・8.22），『競馬　第75回菊花賞』（総合・10.26），『競馬　第150回天皇賞』（総合・11.2），『競馬　第59回有馬記念』（総合・12.28），『第87回選抜高校野球大会～準々決勝～』（総合・Eテレ・3.29）で初めて生字幕放送を実施した。また，『2014FIFAワールドカップ』（総合・6.13ほか）は，総合テレビとEテレで放送した全試合（生放送32試合・録画放送１試合）やすべてのハイライトなどに字幕を付与したほか，『全豪オープンテニス2015』（総合・1.20ほか）では，錦織圭選手出場全試合などに生字幕を付与した。このほか，『大相撲』（６場所），『プロ野球』（14試合），『MLBアメリカ大リーグ』（１試合），『Jリーグ』（７試合），『第90回日本水泳選手権』（総合・4.12～13），『日本ゴルフツアー選手権』（総合・6.21～22），『第

69回国民体育大会～長崎がんばらんば国体～総合開会式』（総合・10.12），『第14回全国障害者スポーツ大会～長崎がんばらんば大会～開会式』（Eテレ・11.1），『2014NHK杯フィギュア』（総合・11.28～30），『第70回びわ湖毎日マラソン』（総合・3.1）などに付与した。

特集番組では，『夜だけど…あさイチ』（総合・２本），『いじめをノックアウトスペシャル』（Eテレ・３本），『第65回全国植樹祭　にいがた2014』（総合・6.1），『平成26年　広島平和記念式典』（総合・8.6），『平成26年　長崎平和祈念式典』（総合・8.9），『第46回　思い出のメロディー』（総合・8.9），『第34回　全国豊かな海づくり大会やまと』（総合・11.16），『わが心の大阪メロディー』（総合・12.16），『第65回NHK紅白歌合戦』（総合・12.31），『NHKのど自慢チャンピオン大会2015』（総合・2.28），『桜満開！星は満天！記憶に残る“宇宙絶景”』（総合・3.28）などに付与した。

Ⅲ．その他の補完放送

このほかの補完放送には，音声多重を使った「ステレオ放送」「２か国語放送」「解説放送」がある。「解説放送」は主に視覚障害者のためのサービスである。

「２か国語放送」と「解説放送」は総合，Eテレ，BS1，BSプレミアムで実施した。

３節　国際放送

国際放送は，世界の人々の日本に対する理解を深め，国際的な文化・経済交流の発展を促し，ひいては国際親善と人類の福祉に貢献することを目的としている。

テレビ国際放送（NHKワールドTV）は，95年４月から，北米，欧州向けに開始した。98年４月からは，デジタル化によって，アジア・太平洋地域にも日本語，英語で１日18時間の放送を開始し，10月からは，ほぼ全世界向けに拡大した。

99年４月からは，１日の放送時間を19時間とし，10月からは24時間放送を開始した。

01年８月には，送信衛星を変更して，それまで受信できなかったアフリカ南部地域でも視聴が可能となり，世界中をカバーすることになった。08年10月に，外国人向け放送のNHKワールドTVは英語化率100％を達成した。また，邦人向け放送はNHKワールド・プレミアムチャンネルを活用して，国内放送のニュース・情報番組に加え，娯楽を供する番組など，より多彩な番組編成を実現し，ノンスクランブルでの新しい放送を開始した。

さらに，09年２月に番組改定を行い，英語ニュースを大幅に拡充し，国際放送局に新しく作ったニュース専用スタジオから24時間毎正時に編成するとともに，日本やアジアの情報を伝えるさまざまな番組についても，世界各地の好適視聴時間帯を強く意識した編成を実現した。09年４月より外国人向けテレビ国際放送の充実のために，新たに設立した日本国際放送（JIB）と連携して，日本の魅力を伝えた。インターネットでは，24時間動画配信を開始し，ニュースと国際放送局制作番組を放送と同時に配信している。

15年３月末現在，２億8,400万世帯が受信可能である（一部，時間視聴可能世帯を含む）。

NHKの短波によるラジオ国際放送は，1935年に「海外放送」として開始した。戦後に一時中断，52年に「ラジオ日本」として再開した。

日本語と英語で放送する「全世界向け放送」（ジェネラル・サービス，一般向け放送）と，地域ごとの言語で放送する「世界各地域向け放送」（リージョナル・サービス）と合わせて，07年度前半期までは22言語で，１日65時間放送していたが，海外発信が欧米を中心に短波放送からテレビにシフトしていくのに伴い，07年度後半期より，短波放送の送信地域と送信時間を見直した。「全世界向け放送」を廃止して，地域に応じた効率的な情